

2022 年度

かながわ文化芸術振興計画 年次報告書

2023 年 11 月



目 次

I	かながわ文化芸術振興計画について	1
1	かながわ文化芸術振興計画とは	
2	かながわ文化芸術振興計画年次報告の位置付け	
3	重点施策の実施状況の概要	
II	重点施策の実施状況	
	重点施策1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用	5
	重点施策2 子どもや高齢者・障がい者など、あらゆる人の文化芸術活動の充実等	7
	重点施策3 国際文化交流の充実	10
	重点施策4 東京2020大会を契機とした施策	12
	重点施策5 文化芸術の振興を推進するための環境整備	15
III	基本的な施策の実施状況	
1	県民の文化芸術活動の充実	18
2	文化資源を活用した地域づくりの推進	21
3	文化芸術の振興を図るための環境整備	23
IV	施策事業の実施状況一覧	25
V	進行管理のための参考指標等	
1	総合計画「かながわグランドデザイン」における文化芸術の位置付け	52
2	県立文化施設の利用者数	56
3	文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度	58
4	県立文化施設の利用率（ホール・劇場等）	60
5	過去1年間に美術鑑賞等の文化芸術の鑑賞・活動を行ったことのある人の割合	66
VI	年次報告のまとめ（文化芸術振興審議会意見）	70

・表紙上段: 神奈川県青少年芸術劇場 ニプロール「距離のない旅」

・表紙下段: 県営団地におけるシニア合唱事業

I かながわ文化芸術振興計画について

1 かながわ文化芸術振興計画とは

本県では、文化芸術振興基本法（現文化芸術基本法）の趣旨に則り、文化芸術の振興についての基本理念や施策の基本となる事項を明らかにした神奈川県文化芸術振興条例（以下「条例」という。）を2008（平成20）年7月に制定し、2019（平成31）年4月に改定しました。

また、同条例に基づき、文化芸術の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、文化芸術の振興に関する基本的な計画を定めることを目的として、かながわ文化芸術振興計画を2009（平成21）年3月に策定し、その後、2014（平成26）年3月及び2019（平成31）年3月に改定を行い、現行計画を策定しました。

この現行計画は、2019（令和元）年度から2023（令和5）年度までの5年間の計画期間としており、これまでの間の文化芸術を取り巻く状況の変化とこれまでの取組の実績と課題を踏まえ、今後取り組むべき「基本的な施策」及び「重点施策」を整理しました。

2 かながわ文化芸術振興計画年次報告の位置付け

県はかながわ文化芸術振興計画（以下「計画」という。）について、2009（平成21）年3月に策定後、2014（平成26）年3月に改定（以下「第2期計画」という。）し、2014（平成26）～2018（平成30）年度の5か年間に取り組む「重点施策」及び「基本的な施策」を掲げ、取組を進めました。

なお、現行の計画（計画期間：2019（令和元）年度～2023（令和5）年度。以下「第3期計画」という。）は、2019（平成31）年3月に改定を行っています。

この年次報告は、それぞれの施策に係る2022（令和4）年度の実施状況について県文化芸術振興審議会に報告し、御意見を踏まえまとめたものです。

このうち、重点施策については概要を3のとおり整理しました。

資料の構成は、「重点施策の実施状況」（5～17ページ）、「基本的な施策の実施状況」（18～24ページ）で整理しています。

「Ⅱ 重点施策の実施状況」（5ページ）

計画の施策体系のうち、「重点施策」と位置付けている各施策の実施内容を記載しています。また、その効果、課題、今後の方向性について、記載しています。

「Ⅲ 基本的な施策の実施状況」（18ページ）

計画に掲げる「基本的な施策」に位置付けられている各事業の実施状況について、その概要を記載しています。

「Ⅳ 施策事業の実施状況一覧」（25ページ）

2022（令和4）年度に実施した施策の概要を一覧にしています。

「Ⅴ 進行管理のための参考指標等」（52ページ）

施設の利用者数、利用率など量的なもの、文化芸術に関する県民の意識など質的なもの両面から、それぞれ関連するデータを記載しています。

3 重点施策の実施状況の概要（詳細は5～17ページに記載しています。）

「重点施策」に位置付けた各事業の2022(令和4)年度の実施状況は次のとおりでした。

重点施策1：地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用



カナガワ リ・古典プロジェクト in 相模原

○県民が伝統文化の存在意義に対する認識を深め、魅力・価値を再発見し、将来にわたり大切に継承していこうという機運につなげていくことを目指し、「カナガワ リ・古典プロジェクト in 相模原」などの地域の伝統文化を紹介する事業を実施した。

○各地域で継承されている伝統文化への理解を深め、伝統文化の継承、発展への機運を醸成することを目的として「かながわ伝統文化こども歳時記」を実施した。

重点施策2：子どもや高齢者・障がい者など、あらゆる人の文化芸術活動の充実等



県営団地におけるシニア合唱事業

○「シニア劇団」や「シニアダンス企画」の運営、障がい者等が参加する公演等の実施など、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まですべての人が、舞台芸術に参加し楽しめる取組や県内10か所の県営団地において、住民等を対象としたシニア合唱事業を実施した。

○県立文化施設で「KAATキッズプログラム」や「オープンシアター2022」といった取組を実施し、演劇や音楽、ダンス、文学など、子どもたちを対象とした様々な芸術作品を体験する機会を提供した。

重点施策3：国際文化交流の充実



ベトナムフェスタ in 神奈川 2022

○KAAT神奈川芸術劇場において、国内外のプロフェッショナルが交流するYPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング）を開催し、日本の舞台芸術を国内外に向けて発信した。

○新型コロナウイルス感染症の影響により中止していたベトナム・神奈川の文化や魅力を感じられるプログラムを盛り込んだイベントを3年ぶりに開催し、両地域の相互理解を深め、幅広い分野での交流をさらに推進した。

重点施策4：東京2020大会を契機とした施策



イベントカレンダー 9月～11月号

○東京2020大会を契機として開始した「かながわ文化プログラム」認証制度により、市町村等との連携を強め、県民が文化芸術活動に参加する機運の醸成を図った。この取組をレガシーとし、文化の日を中心とした9～12月を「かながわ県民文化祭」の期間と位置付けた。

○県内の文化芸術イベント情報をカレンダー形式で掲載する情報誌「イベントカレンダー」を、日英併記で作成し、文化施設、駅、商業施設等での配布のほか、インターネット上でも掲載するなど、適時適切な文化イベント情報の収集・発信を行った。

重点施策5：文化芸術の振興を推進するための環境整備



神奈川近代文学館

○9月から12月を「かながわ県民文化祭」の期間に位置付け、期間中に県、市町村、民間団体等の文化事業を一体的かつ効果的に広報を行うことで、県民が県内各地の様々な文化芸術活動に参加し、楽しみ、その活動を通じて、地域のにぎわい・つながりを作ることを目指す取組を行った。

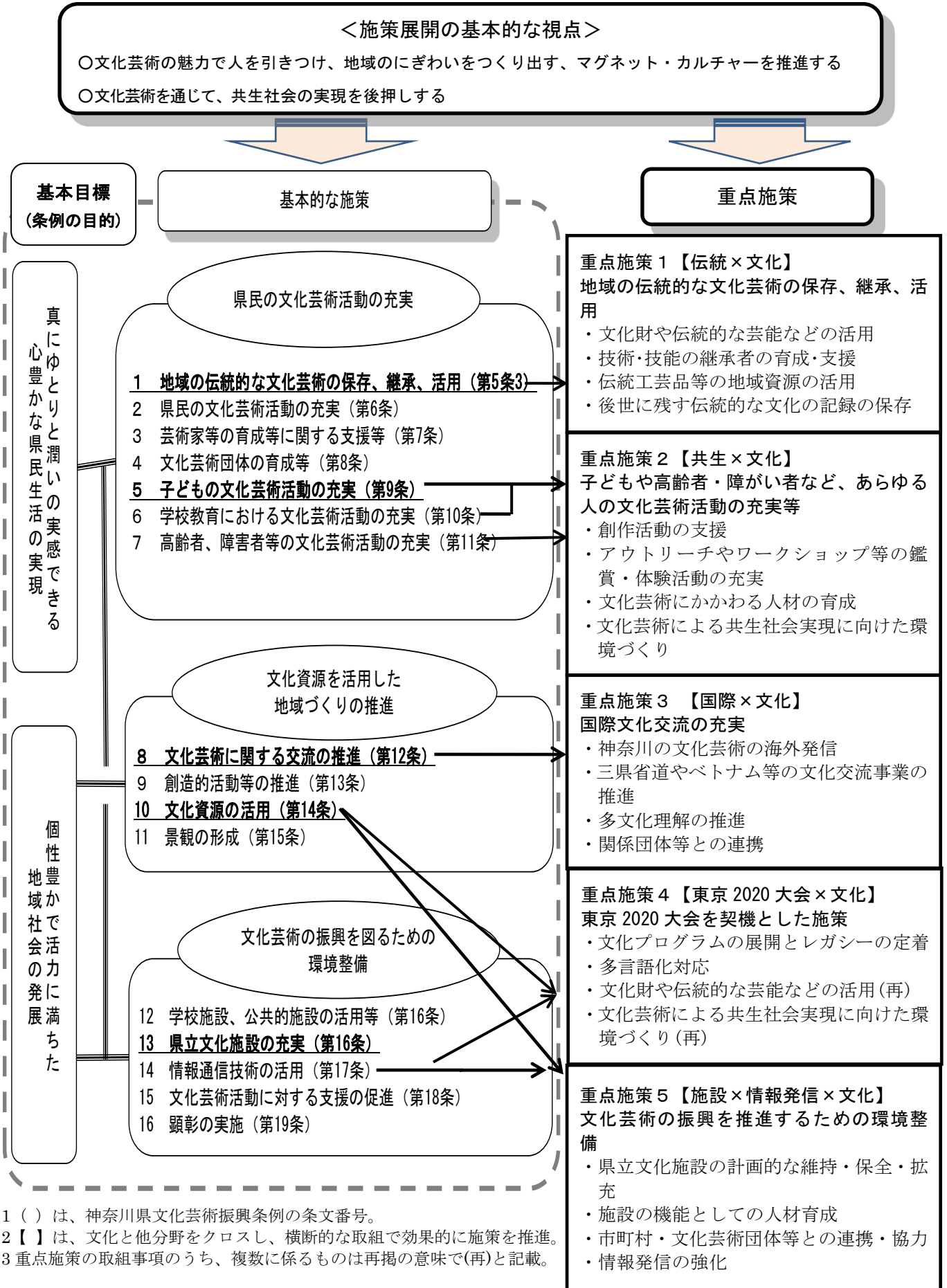
○OKAAT神奈川芸術劇場や近代文学館などの県立文化施設において、施設機能の維持や来館者の安全・安心の確保のため、修繕・工事等を実施した。

2022年度は、これまで続いていた新型コロナウイルス感染症の影響による事業が中止や延期となる状況も和らぎ、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じた上で文化芸術活動の振興に向けた取組を推進した。

コロナ禍による、多くの文化芸術に係るイベント等が中止や延期となった状況下では、文化芸術団体等は活動の場を失い、県民は文化芸術に触れる機会を失ったが、文化芸術は、人々に安らぎと勇気、明日への希望を与えるものとして、その本質的価値が改めて認識されたところである。

今後は、コロナ禍において大きく活動の制限を受けた伝統芸能をはじめ、本県の文化芸術を一層振興していくため、活動の場の提供や補助金等により、県内における文化芸術活動を支援するとともに、伝統芸能の普及振興や共生社会の実現、人材の育成を推進していく必要がある。さらに、東京2020大会の機会を捉えて実施した取組の成果を今後の事業に生かしていくため、市町村や関係団体等と引き続き連携し、年齢や障がいなどに関わらず誰もが県内各地の様々な文化芸術活動に参加し、楽しめるよう、文化芸術活動の裾野を広げる取組をオール神奈川で推進していく必要がある。

＜第3期計画（計画期間：2019年度～2023年度）の施策体系図＞



II 重点施策の実施状況

重点施策1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

1 施策の内容

(1) 文化財や伝統的な芸能などを活用した文化芸術の発信

市町村と連携しながら、県民が伝統的な芸能の存在意義に対する認識を深め、魅力・価値を再発見し、将来にわたり大切に継承していこうという機運につなげていくことを目指し、「カナガワ リ・古典プロジェクト in 相模原」を開催し、邦楽や民俗芸能の公演とワークショップを行った。

また、横浜紅葉ヶ丘まいらん春祭りにおいて、伝統人形芝居である乙女文楽のミニ公演やワークショップを行う「親子で楽しむ伝統芸能！乙女文楽と義太夫節」の実施、「人形浄瑠璃文楽」の上演など、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を醸成した。



紅葉ヶ丘まいらん春祭り 乙女文楽と義太夫節

(2) 伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成・支援

伝統的な芸能についての理解と認識を深めるとともに、継承者の育成につながるよう、高等学校等において、伝統的な芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行う「相模人形芝居学校交流ワークショップ」や、子どもを対象とした伝統的な芸能の鑑賞に加え、祭礼や民話、昔遊びといった地域の伝統文化の体験プログラムを組み合わせ「かながわ伝統文化こども歳時記」を実施し、地域で継承されている伝統文化への理解を促進した。このほか、市町村と連携しながら、小・中学生を対象に日本舞踊等を体験できる「日本舞踊に学ぶ



日本舞踊に学ぶ「和」の作法

「和」の作法」、能の歩き方や使用する楽器の体験といった「能楽ワークショップ」により、伝統的な芸能の体験機会の充実を図った。

(3) 伝統工芸品等の地域資源の活用

ものづくりに必要な設備機器等の木製品製造事業者への貸出しや、新商品の試作等のための依頼加工・製作を実施し、工芸品を主とする木製品事業者向けの支援を行った。

また、「工芸ヤングフォーラム」を実施し、木製品製造業に携わる若手工芸技術者を対象に、交流の場を提供したほか、専門家による講座を開催することで市場に受け入れられる工芸品の商品づくりを支援し、地域に根付いた工芸品産業の技術・技能を継承する人材の育成を図った。

II 重点施策の実施状況

このほか、伝統的工芸品を有名宿泊施設にて展示・販売し、その魅力を観光客等にアピールした。

(4) 後世に残す伝統的な文化の記録保存

「菊名の飴屋踊り」をはじめとした県内に所在する「飴屋踊り、万作踊り」について、現状等の記録保存を行うことにより、県内の民俗芸能の保存・継承の基礎資料とするとともに、当該芸能の特色を明らかにする調査を開始した。

また、県が実施した伝統的な芸能に係る事業について、報告書の整理を実施し、記録として後世に残していく取組を行った。

2 施策の効果

伝統芸能や地域で受け継がれている貴重な民俗芸能を紹介する公演により、県民の理解・認識を深めることができた。

ワークショップでは、複数回の体験を経て成果発表まで行う構成とすることで、参加する子どもたちの成長や達成感を高めることができた。また、「カナガワ リ・古典プロジェクト in 相模原」のアンケート結果では、公演に「大変満足している」・「満足している」が90.5%、ワークショップに参加して「大変おもしろかった」・「おもしろかった」が96.3%と、好評を得るとともに、本県の伝統文化の魅力を伝えることができた。

3 今後の課題

人口減少、少子高齢化の影響などにより、地域において伝統的な芸能の継承者が不在になり、伝統文化が失われていくおそれがある中において、次世代を担う子ども・若者向けの取組を行っているが、高齢者層の来場者が多く、若年層の来場者を増やす取組が必要である。

4 今後の方向性

県民をはじめ多くの人たちが県内各地域の伝統的な芸能を知る機会を持ち、価値を知って大切に継承していけるような公演・ワークショップ等の事業や、伝統的な芸能の記録を保存し、後世に伝えることを視野に入れた取組を継続して実施する。

その際、県内市町村とも連携しながら、各事業の参加者や対象地域を広げていくとともに、地域に根付かせていく取組を進める。

また、次世代を担う子ども・若者が文化財や伝統的な芸能に興味を持つような企画・広報を目指し、より幅広い世代に発信する取組を進める。特に、子どもに興味関心を持ってもらうため、公演事業においても、体験の要素を取り入れた事業を展開する。

重点施策2 子どもや高齢者・障がい者など、あらゆる人の文化芸術活動の充実等

1 施策の内容

(1) 創作活動の支援

全国公募による「神奈川県美術展」や、中高生を対象とした「神奈川県美術展中高生特別企画展」を開催し、平面立体・工芸・書・写真といった様々な作品発表の機会の充実を図った。

あわせて、障がい者のアート作品を展示する「ともいきアートサポート事業（常設展示）」として、青少年センター内の交流スペース、ブランチ茅ヶ崎2に通年で障がいのあるアーティストなどの作品の常設展示も行った。



ともいきアートサポート事業 常設展示

また、県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「マグカル開放区」を3年ぶりに実施し、日本大通りの更なる活性化を図るとともに、県民の文化芸術活動を後押しした。

さらに、文化芸術オールジャンルの動画コンテスト「バーチャル開放区」では、ペイントアートやアニメーションと実写

を融合させた動画など、映像だからこそ表現できる作品が生まれた。リアルで開催する「マグカル開放区」とは別の、新たな表現の場としての価値が認識され、115件の応募があり、104,407回の総再生回数を記録するなど、全国の文化芸術団体やアーティストに、音楽やダンス、大道芸など文化芸術を発表する機会や、どこでも気軽に文化芸術に触れる機会を提供した。

そのほか、高齢者が行う文化芸術活動の充実を図る事業等を支援するため、「マグカル展開促進補助金」を交付した



バーチャル開放区

(2) アウトリーチやワークショップ等の鑑賞・体験活動の充実

県内10か所の県営団地において、住民等を対象としたシニア合唱事業を展開し、文化芸術の振興とともに、共生社会の実現や、団地におけるコミュニティの活性化、未病改善など健康団地の推進に向けた取組を実施した。

また、県立文化施設での子どもたちを対象とした公演として、KAAT神奈川芸術劇場における「KAATキッズプログラム」や県民ホール本館における「オープンシアター2022」、音楽堂における「子どもと大人の音楽堂」、神奈川近代文学館における「かなぶんキッズクラブ」などを実施し、演劇や音楽、ダンス、文学など、様々な芸術作品を体験する機会を提供した。

II 重点施策の実施状況

さらに、公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団との共催により、県内の小学校にてワークショップによる音楽指導及びオーケストラの演奏を届ける音楽芸術体験事業「ゆめコンサート」や、県内の特別支援学校や病院へ出向く「出張コンサート」を実施した。



神奈川フィルハーモニー管弦楽団 ゆめコンサート

(3) 文化芸術にかかわる人材の育成

青少年センターで実施している、未来のライブパフォーマンスを創造する若い才能の発掘と育成を目指す取組である「マグカルシアター」において、採用された団体や個人に対し、公演会場としてスタジオ HIKARI やかながわアートホールの無料での貸出しを行い、舞台芸術の発表の場を提供したほか、マグカルシアターに出演する団体等の作品制作に関する課題解決を支援し、上演作品の質を向上させることで文化芸術人材の育成を図った。

(4) 文化芸術による共生社会の実現に向けた環境づくり

年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まですべての人が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」において、シニア劇団やシニアダンス企画を運営し集客公演を行ったほか、障がい者等が出演する演劇の舞台公演等を実施した。

また、「神奈川県障害者文化・芸術祭」を実施し、障がい者の文化芸術活動（絵画、工作等）の作品展示の場を用意したほか、ライトセンターにおいて視覚障がい者同士の交歓活動となる文化クラブの場を提供するなど、障がい者の社会参加の推進を図った。「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」では、障がいのある方が、身近な地域で芸術文化に触れることができるよう支援するため、相談支援事業やワークショップの実施、コーディネーターの養成等の人材育成事業等を行った。

その他、文化芸術がより多くの人々の心に届くよう、多言語対応や手話通訳、ヒアリンググループ等による鑑賞サポートを実施した。



共生共創事業 綾瀬シニア劇団

2 施策の効果

県立文化施設での子ども向け公演の開催、県内の小学校等へのアウトリーチやワークショップ

II 重点施策の実施状況

等を実施したことにより、舞台やオーケストラの鑑賞機会が少ない子どもたちや障がい者等が優れた文化芸術に触れ、文化芸術への関心を高めることに繋げることができた。

「マグカルシアター」で公演場所として会場、設備、備品を無料貸出しし、集客公演を行うことで、文化芸術人材の育成と鑑賞の機会の提供に寄与することができた。

「シニア劇団」やシニアダンス企画「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」の参加者へのアンケート結果では、身体や体調・心や気分の変化について「元気になった」と回答した方の割合が79.6%、公演等の鑑賞者へのアンケート結果では、「共生社会の実現が必要だと感じた」と回答した方の割合が73.5%あり、高齢者の文化活動の充実を図るとともに、共生の理念を普及し「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与することができた。

「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」で障がい者の文化芸術を支援するコーディネーター養成のための研修会や勉強会をオンラインでも開催し、多くの方に気軽に見ていただける環境を用意したことで障がい者の文化芸術活動を支援する体制の充実に貢献した。

3 今後の課題

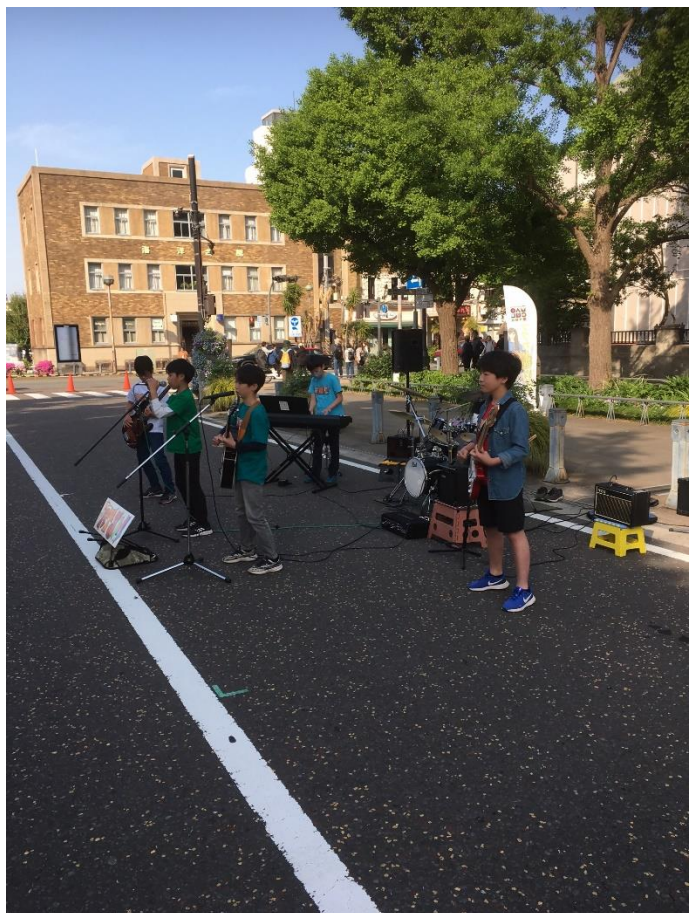
県が行う各種支援の取組において、文化芸術活動を行う団体等が情報を得て、取組を活用できるよう、引き続き広報等による普及を進める必要がある。

共生社会時代に向けた環境づくりにおいては、共生共創事業の実施地域に偏りが生じていることから、共生の理念の一層の浸透を目指し、文化芸術団体等による取組との連携を図ることで、県内全域での事業展開を推進し、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与する必要がある。

4 今後の方向性

年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人までのあらゆる人が文化芸術活動を行うことができる環境づくりのため、他分野との連携も図りつつ創作活動の支援や発表の場の提供を広げていく取組を引き続き行っていくとともに、アウトリーチやワークショップ等については、県立文化施設や関連するNPO等のノウハウやネットワークを生かして、学校や障がい者・高齢者施設等と連携するなど、県内全域での実施を目指す。

また、舞台芸術人材の育成については、青少年センター等の県立文化施設を神奈川の舞台芸術シーンの拠点として、多くの人材が集える場所として整備していくとともに、より多くの人材育成が可能となるよう、関係団体と協力しながら取組を進める。



マグカル開放区

重点施策3 国際文化交流の充実

1 施策の内容

(1) 神奈川の文化芸術の海外発信

KAAT 神奈川芸術劇場において、Y P A M（横浜国際舞台芸術ミーティング）を複数の文化芸術関連団体等と共同で開催し、舞台芸術に係るプロフェッショナルが公演・ディスカッション・ワークショップ等を通じて、舞台芸術の国際交流の拠点としての役割を發揮した。

また、地球市民かながわプラザ等において、「第22回カナガワビエンナーレ国際児童画展」の審査会を開催し、絵画を通じて国際理解と国際交流の推進を図った。



横浜国際舞台芸術ミーティング 2022 (YPAM2022)
ブラレヤン・ダンスカンパニー「LUNA」◎前澤秀登

(2) 三県省道（※）やベトナム等の文化交流事業の推進

ベトナム・神奈川の文化や魅力を感じられるプログラムを盛り込んだイベントを通して、両地域の相互理解を深め、幅広い分野での交流をさらに推進するため、3年ぶりに「ベトナムフェスタ in 神奈川2022」及び「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI 2022」を実施した。

三県省道スポーツ交流事業では、スポーツの親善試合や交流事業実施のため、神奈川県選手団を京畿道に派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

※相互に友好提携を結んでいる、神奈川県、中国・遼寧省（りょうねいしょう）、韓国・京畿道（キョンギド）の3地域のこと。



ベトナムフェスタ in 神奈川 2022

(3) 多文化理解の推進

多文化共生の地域社会づくりに向け、多文化理解を推進するため、地球市民かながわプラザにおいて、展示学習やワークショップなどの学習センター事業、映像・図書資料の収集提供や外国籍県民相談等の情報・相談センター事業やNPO等活動支援などのサポート・ネットワーク事業等を実施した。また、多様な国籍や文化、民族の違いを理解し、認め合うことのできる社会の実現を目指す多文化共生イベント「あーすフェスタかながわ2022」を象の鼻パークで開催した。

II 重点施策の実施状況

(4) 関係団体等との連携

(公財) かながわ国際交流財団は、国際交流や国際協力の積極的な推進、多文化共生社会の実現を目的とした各種事業を展開しており、高校生等を対象に、日本と外国の異なる文化や多様な価値観等を知るための参加型セミナーをオンラインにより開催した。

また、大学生等を対象に、県内 NPO による多文化共生活動について学ぶセミナーを開催し、青少年が国際理解や課題を学ぶことにより、今後、主体的に学ぶきっかけを提供した。

2 施策の効果

Y P A M (横浜国際舞台芸術ミーティング) では、オンライン配信を含む公演をはじめとする多彩なプログラムを通じて、情報交換や相互学習、ネットワーク構築の場を提供できた。

新型コロナウイルス感染症の影響により中止していたベトナム・神奈川両地域の交流イベントが3年ぶりに復活し、これまでに構築してきた駐日ベトナム大使館をはじめとするベトナム政府との関係をより一層強固なものとするとともに、経済や文化、観光など様々な分野において交流を促進した。

多文化理解の推進については、イベントにより外国人や外国籍県民と県民との交流が促進され、また、学生向けのセミナーを開催することにより、多文化共生の意識醸成に繋げることができた。

3 今後の課題

今後も、国際色豊かな文化事業を展開するとともに、相互理解を深めるための国際交流事業の中で文化交流を推進することが必要である。

ベトナムとの交流については、これまでに構築したネットワーク等を活用し、交流を維持・拡大していくとともに、ベトナム政府と締結した覚書を契機として、相互の交流を一層促進する必要がある。

また、若い世代やより多くの外国籍県民等が参加・交流できる事業を実施し、多文化理解の推進に取り組む必要がある。

4 今後の方向性

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止していた国際交流事業の再開の動きが出てきた中で、今後も引き続き、様々な国や地域との国際交流事業を実施しながら、神奈川発の文化芸術を海外に発信していくとともに、県立文化施設において国際色豊かな取組を充実させることで、県民の国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組を推進していく。

また、関係団体等と連携しながら、より多くの青少年や外国籍県民等に参加を促せるような多文化共生をテーマとした事業を企画・開催することによって、国際色豊かな本県の多文化理解を推進する。

重点施策 4 東京 2020 大会を契機とした施策

1 施策の内容

(1) 文化プログラムの展開とレガシーの定着

東京 2020 大会を契機に開始した「神奈川文化プログラム」認証制度により、県内各地の様々な文化イベントなど、605 件を認証し、神奈川全体で一体感を高め、東京 2020 大会で醸成した機運をレガシーとしての継承を図った。

さらに、この取組により築き上げた市町村や関係団体とのネットワークをレガシーとし、県民が幅広く文化芸術に親しむ機会を提供するため、文化の日を中心とした 9 から 12 月に「かながわ県民文化祭」を開催し、参加プログラムの効果的なプロモーションを行った。

(2) 多言語化対応

県内の文化芸術イベント情報をカレンダー形式で掲載する情報誌「イベントカレンダー」を、日英併記で作成し、文化施設、駅、商業施設等での配布のほか、インターネット上でも掲載するなど、適時適切な文化イベント情報の収集・発信を行った。

多言語情報紙「こんにちは神奈川」の発行に当たり、記事や発行趣旨に合ったイラストを盛り込み、より適切な表現になるよう多言語の翻訳チェックを行い、外国籍県民等が手に取りやすい紙面となるよう工夫をした。

また、県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、外国人向け特集記事を作成し、多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。



イベントカレンダー 12月～2月号

(3) 文化財や伝統的な芸能などを活用した文化芸術の発信（重点施策 1 の再掲）

市町村と連携しながら、県民が伝統的な芸能の存在意義に対する認識を深め、魅力・価値を再発見し、将来にわたり大切に継承していこうという機運につなげていくことを目指し、「カナガワ リ・古典プロジェクト in 相模原」を開催し、邦楽や民俗芸能の公演とワークショップを行った。

また、横浜紅葉ヶ丘まいらん春祭りにおいて、伝統人形芝居である乙女文楽のミニ公演や気

II 重点施策の実施状況

軽に親子で楽しめる人形や義太夫節の語りと三味線のワークショップを行う「親子で楽しむ伝統的な芸能！乙女文楽と義太夫節」の実施、「人形浄瑠璃文楽」の上演など、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を醸成した。

(4) 文化芸術による共生社会実現に向けた環境づくり（重点施策2の再掲）

年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まですべての人が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」において、シニア劇団やシニアダンス企画を運営し集客公演を行ったほか、障がい者等が出演する演劇の舞台公演等を実施した。

また、「神奈川県障害者文化・芸術祭」を実施し、障がい者の文化芸術活動（絵画、工作等）の作品展示の場を用意したほか、ライトセンターにおいて視覚障がい者同士の交歓活動となる



共生共創事業 やまゆり園×劇団かかし座

文化クラブの場を提供するなど、障がい者の社会参加の推進を図った。「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」では、障がいのある方が、身近な地域で芸術文化に触れることができるよう支援するため、相談支援事業やワークショップの実施、コーディネーターの養成等の人材育成事業等を行った。

その他、文化芸術がより多くの人の心に届くよう、多言語対応や手話通訳、ヒアリンググループ等による鑑賞サポートを実施した。

2 施策の効果

「イベントカレンダー」により県内の文化芸術イベント情報を積極的に発信するとともに、「マガカル・ドット・ネット」において、今後のインバウンド需要を喚起するため、通年で英語によるインターネット広告を行ったことから、より多くの人々が県内で実施するイベント等の情報を閲覧することで、イベント等の周知に貢献するとともに、将来的な観光客の誘客に寄与することができた。

3 今後の課題

「神奈川文化プログラム」の認証は、過去最多の認証数を記録し、芸術文化団体等に対して認知度を向上させることができた。今後は、各イベントと連携して相乗効果を図るなど、県内の文化芸術活動や地域の継続的な活性化に繋ぐことができるよう、取り組む必要がある。

また、東京2020大会の機会を捉え、官民一体となってオール神奈川で盛り上げてきた文化プログラムや文化芸術振興の取組をレガシーとして継承し、「共生社会」の理念の一層の浸透を図るとともに、誰もが文化芸術活動に参加し楽しめるよう文化芸術活動の裾野を広げる取組を推進する必要がある。

4 今後の方向性

II 重点施策の実施状況

東京 2020 大会終了後も引き続き、「神奈川文化プログラム」の認証により、官民一体となってオール神奈川で文化プログラムに取り組むとともに、各地の文化芸術活動が盛り上がるよう文化プログラムを通じて構築された市町村や関係団体等とのネットワークを生かし、東京 2020 大会のレガシーとしてより充実したマグカル事業を展開していく。

その上で、あらゆる人に情報が伝わるよう、県内に訪れる外国人や外国籍県民等に必要な情報が効果的に提供できるよう努める。



EVENTS MAGAZINE VIDEO INFORMATION FROM THE PREFECTURE

EN ▾ 🔍

Event information in Kanagawa Prefecture

Area Category Purpose All Coming soon ▾



**Dreams in the Room:
From Bonnard to
Tillmans to...**

2023.01.28~2023.07.02 開催
中



**A series of exhibitions
introducing artists who
have receive ...**

2023.01.28~2023.07.02 開催
中



**We will hold an
exhibition to "look
back" on 30 ye ...**

2023.04.08~2023.07.02 開催
中



**A professional
orchestra born in
Shonan! The second...**

2023.07.02

マグカル・ドット・ネット

重点施策5 文化芸術の振興を推進するための環境整備

1 施策の内容

(1) 県立文化施設の計画的な維持・保全・拡充

県民ホール本館では非常放送設備の改修工事、KAAT 神奈川芸術劇場では大スタジオ機構卓・制御系更新工事、近代文学館では電動書架の改修工事など、施設機能の維持や来館者の安全・安心の確保のため、修繕・工事等を実施した。

また、青少年センターではホール天井等の改修工事を行い、舞台用エレベーターの改修工事を開始した。

(2) 施設の機能としての人材育成

県民ホール本館や KAAT 神奈川芸術劇場において、「劇場運営インターン」や県立神奈川総合高校舞台芸術科の生徒を対象とした舞台技術研修を実施し、各施設の特色を生かした文化芸術に関する人材の育成を実施した。

また、青少年センターでは時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供し、青少年による演劇・ダンスの創造活

動の発展向上に資することを目的に、中・高等学校を対象に演劇・ダンスの講習会・発表会の開催に加え、「青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス」として、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム（映像、ダンス振付、舞台美術）を実施した。



生徒を対象とした舞台技術研修



高等学校演劇発表会

II 重点施策の実施状況

(3) 市町村・文化芸術団体等との連携・協力

9月から12月を「かながわ県民文化祭」の期間に位置付け、期間中に県、市町村、民間団体等の文化事業を一体的かつ効果的に広報を行うことで、県民が県内各地の様々な文化芸術活動に参加し、楽しみ、その活動を通じて、地域のにぎわい・つながりを作ることを目指す取組を行った。

また、文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、神奈川の文化プログラムを推進するため、県内市町村と連携しながら取り組むことを目的とした市町村文化行政連絡会議を開催し、県と市町村の文化行政について情報共有を行い、連携を強化した。

(4) 情報発信の強化

県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する特集記事を掲載するとともに、SNS を利用し、各媒体のユーザーに合った情報を提供して情報発信の強化を行った。

情報誌については、県内の文化芸術イベント情報をカレンダー形式で掲載する「イベントカレンダー」を日英併記で作成し、情報発信を行った。



かながわ県民文化祭 2022

2 施策の効果

改修工事等を行い、利用者の方に施設をより安全に利用していただくために必要な整備を行うことができた。

学生等を対象とした各種育成事業では、文化芸術施設の現場に早いうちから触れることで、スキルアップやモチベーションの向上に寄与することができた。

また、市町村・文化芸術団体等の文化事業を統一的な名称やマークを活用し、一体的かつ効果的に広報を行うことで地域のにぎわい・つながりをつくり、文化芸術に触れる機会を創出することができた。

3 今後の課題

県民ホール本館は開館から48年、音楽堂は68年が経ち、必要に応じて改修を行ってきたが、老朽化対策は引き続き課題となっている。県民ホール本館については、施設全体の老朽化の状況を踏まえ、今後のあり方を検討しているが、早急に方向性を決定する必要がある。

今後の文化芸術の継承、発展のため、より魅力的な人材育成事業を充実させ文化芸術の担い手確保につながる取組や、市町村や文化芸術団体等との連携を生かしつつ、コロナ禍で停滞した文化芸術を振興していくための取組を推進する必要がある。

II 重点施策の実施状況

4 今後の方向性

県民ホール本館などの県立文化施設については、計画的な維持、保全、拡充に努め、ソフト面の環境整備については、関係団体と連携して、ニーズに沿った必要な取組を継続して実施しつつ、施設の今後のあり方なども含め検討していく。

情報発信については、「マグカル・ドット・ネット」において、外国人向けに多言語化翻訳記事の作成を行いつつ、訪日外国人の増減を見極め、適切なタイミングで魅力的な情報を発信するなど、国内外向けのインターネットによる広報を継続して展開していく。

また、引き続き、市町村や文化芸術団体との連携し、コロナ禍でその重要性が再認識された文化芸術活動を盛り上げ、地域のにぎわいにつなげていく。

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

1 県民の文化芸術活動の充実

(1) 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

【施策の方向性】

地域の伝統的な芸能の大切さについての理解、認識を深めるとともに、後継者の育成につながるよう、市町村と連携しながら伝統的な芸能の体験・鑑賞機会の提供、発表機会の確保などに取り組む。

文化財の保護を図るため、未指定文化財を調査し、指定等の保護措置を講ずるほか、文化財の活用・保護の普及啓発のため、展覧会や講座などを開催する。

【主な施策の内容】

重点施策1及び4に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して公募により補助金を交付し、支援を行った。
- ・ 指定文化財等の保存修理等に対して、補助金を交付し、文化財の保存活用を図った。
- ・ 県立歴史博物館等において、資料の収集や収蔵資料の定期的な修繕及び展示を行った。

(2) 県民の文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

県立文化施設での文化芸術に関する講座・講演会等の開催や、広報誌やホームページなどで文化芸術に関する情報提供を行うことにより、県民の文化芸術に対する関心や理解を深める。

県立文化施設での公演、展覧会などの鑑賞機会の提供や優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する文化芸術団体への支援により、県民の鑑賞機会の充実を図る。

県民が文化芸術活動（創作・練習・稽古・発表等）を行う際に利用できる文化施設を運営するとともに、県民が参加できる展覧会やコンクールなどの開催により、県民自らが行う文化芸術活動を支援する。

県内各地で開催される文化芸術の催しや文化芸術団体の活動情報など、県民が文化芸術の鑑賞や活動を行う際に必要とする情報を広報誌やホームページなどで提供する。

【主な施策の内容】

- ・ 神奈川近代文学館や県立金沢文庫等の県立文化施設において、展覧会の開催に合わせて説明会や講演会を実施した。
- ・ 県民ホール本館や音楽堂等において、現代音楽やオペラ、バレエ、クラシック音楽コンサートといった様々なジャンルの舞台芸術の公演を実施し、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供した。
- ・ 「神奈川芸術プレス」や「季刊誌 神奈川芸術劇場 KAAT PAPER」を発行し、県民ホール本館、KAAT 神奈川芸術劇場及び音楽堂の公演情報や県内の文化情報等を周知した。

(3) 芸術家等の育成等に関する支援等

【施策の方向性】

将来の活躍が期待される芸術家等の発掘や育成支援を実施し、また、文化施設で催される様々な公演事業を支える舞台技術者等の育成に取り組む。

県立文化施設などを活用し、芸術家等が創作・練習・稽古等に利用しやすい仕組みづくりを行う

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

など、創作のための環境の整備を図る。

芸術家等の創造的活動の成果を発表するための展覧会や公演事業などを開催するとともに、県立文化施設の主催事業などで将来の活躍が期待される芸術家等の積極的な登用を行う。

【主な施策の内容】

重点施策2に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 神奈川県在住、在職又は神奈川に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を、また、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に「未来賞」を贈呈した。
- ・ 次世代を担うと期待される神奈川県ゆかりの才能ある若手奏者を広く県民に紹介し、オーケストラとの共演を通じてその才能の一層の育成を図ることを目的とした、「フレッシュ・コンサート」や「かながわ音楽コンクール」を実施した。

(4) 文化芸術団体の育成等

【施策の方向性】

文化芸術団体の自主的な活動を支援することにより、文化芸術団体の多様な活動を促進するとともに、文化芸術団体との連携・協働に取り組む。

【主な施策の内容】

重点施策5に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 県が推進する「マグカル」の展開を促進する「マグカル展開促進補助金」により、民間団体が行う文化芸術の新たな事業に要する経費に対し、補助金を交付した。
- ・ 県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して公募により補助金を交付し、支援を行った。
- ・ 文化芸術団体等が主催する、県内において実施する事業について、県の文化芸術の振興に寄与すると認められるものに、神奈川県の後援名義の使用を承認した。
- ・ かながわ児童劇グループ交流会を実施し、地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供した。

(5) 子どもの文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

県立文化施設で子どもたちが様々な文化芸術を鑑賞する機会を提供する。

子どもたちが自ら行う文化芸術活動を支援するとともに、文化芸術を体験する機会の充実を図る。

【主な施策の内容】

重点施策2に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ かながわアートホールにおいてコンサートや打楽器演奏、公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団の指導を経て、団員と共演する「ジュニア管弦オーケストラ」を実施した。
- ・ 藤野芸術の家において、気軽に参加できる常設事業や募集型の体験事業、季節限定体験事業を実施し、子どもから大人まで多くの人々が自ら陶芸・木工・ガラス工芸等の制作活動を通して、文化芸術に親しむ機会を提供した。
- ・ 県立近代美術館において、18歳以下の来館者へのオリジナル教材の無償配布とそれを用いたワークショップを行い、学びの支援を実施した。

(6) 学校教育における文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

小中学校などの学校教育における文化芸術に関する体験学習などの充実を県及び市町村の教育委員会と連携して図るとともに、芸術家等や文化芸術団体が学校教育の中で行う文化芸術活動に必要な協力や支援を実施する。

【主な施策の内容】

重点施策2に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 中・高等学校を対象に、演劇の講習会・発表会を開催した。
- ・ 青少年の舞台表現のためのスキルアップクラスでは、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム（映像、舞台美術、ダンス振付）を実施し、時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供した。
- ・ ヒップホップ等の比較的新しい身体表現による創作に取り組む高校ダンス部を対象とした「心技体+創ワークショップ」を実施し、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、ダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供した。
- ・ 音楽堂アウトリーチ事業により、アーティストが地域単位の教員の勉強会等に講師として訪問し、教員が生徒役となって授業のヒントとなるワークショップを行う形式や、子どもたちを相手にしたモデル授業を視察し、その後気付きを総括するディスカッションを行う形式でのアウトリーチを行った。
- ・ 県立神奈川総合高等学校舞台芸術科の取組について、アドバイザーボードの設置など継続的に支援を受ける仕組みを構築し、協議会を開催した。

(7) 高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実

【施策の方向性】

高齢者、障がい者、子育て中の保護者などが、文化芸術に親しみ自ら文化芸術活動を楽しめるよう、文化芸術団体と協力しながら、文化芸術の鑑賞機会の提供や自らが文化芸術活動を楽しむための取組を推進するとともに、文化施設のバリアフリー化や利用サービスの向上に努める。

【主な施策の内容】

重点施策2及び4に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 「かながわシニア美術展」を開催し、高齢者の文化芸術活動の成果を発表する場を提供することで、高齢者の社会参加やふれあい・生きがいを推進した。
- ・ KAAT 神奈川芸術劇場託児ルームを設定し、主催公演において、乳幼児を育てる県民に対する、文化芸術鑑賞機会の提供に寄与した。
- ・ かながわアートホールにおいて、乳幼児・未就学児同伴可能な「赤ちゃんコンサート」を有観客及びオンライン配信により実施し、子育て中の親子が上質な音楽を鑑賞する機会を提供した。

2 文化資源を活用した地域づくりの推進

(1) 文化芸術に関する交流の推進

【施策の方向性】

国民文化祭等への参加や他県との交流事業の実施などにより、文化芸術の地域間交流を推進する。

文化芸術を介した国際交流事業の実施や県立文化施設での海外の作品の鑑賞機会の提供などにより、国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組を推進する。

多文化共生イベントの開催や多文化理解を深めるための講座を実施するなど、多文化理解を推進する。

【主な施策の内容】

重点施策3に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 県立歴史博物館において、大阪府や大分県などの県外の博物館等の展覧会に収蔵資料の貸出しを行い、展覧会の充実に貢献するとともに、博物館同士の連携協力を行った。
- ・ 県立近代美術館において、県外美術館との巡回型の展覧会（「朝倉 摂」展、「マン・レイ」展、「横尾龍彦」展）を企画実施し、他県との文化芸術を介した交流に貢献した。また、「アレック・ソス」展で出品作家をアメリカより招聘してアーティストトークを行い、国際交流に貢献した。
- ・ 県立金沢文庫において、特別展の実施にあたり、他県の博物館や社寺などから文化財の借入れを行い、展示内容を充実させるとともに博物館以外の文化財保有施設との連携協力を行った。
- ・ 県高等学校総合文化祭の開催や全国高等学校総合文化祭への生徒派遣を通して、高校生の相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化の促進を図った。
- ・ 文化芸術の地域間交流推進のため、KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース作品等の公演を他府県で展開した。

(2) 創造的活動等の推進

【施策の方向性】

県立文化施設の活用や文化芸術団体との連携により、新しい文化芸術の創造的活動を推進するとともに、これらを国内外に発信する取組を実施する。

【主な施策の内容】

- ・ 神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、オーケストラとの共演を通じて一層の育成を図った。
- ・ KAAT 神奈川芸術劇場において、新たな舞台芸術作品の創造や新作公演、アトリウムでの現代美術の展覧会を実施した。

(3) 文化資源の活用

【施策の方向性】

県内の文化資源の発掘に努め、その具体的な活用方策を検討する。また、地域の活性化等に活用

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

可能な文化資源については、市町村、文化芸術団体、芸術家、企業などとの連携により有効活用に努めるとともに、その魅力を広くPRするための情報発信に取り組む。

【主な施策の内容】

重点施策4及び5に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 湘南邸園文化祭2022を開催し、相模湾沿岸地域一帯の邸宅・庭園等の価値を周知するとともに、保全活用の必要性について啓発を行った。
- ・ PR活動やフォトコンテスト、ジオツアー、ガイド養成講座等を実施し箱根ジオパークに対する地域の機運醸成及びジオパークとしての環境整備を行った。
- ・ 前川國男が手掛けたモダニズム建築の代表作として神奈川県指定重要文化財（建造物）に指定された県立図書館・音楽堂をはじめ、県立青少年センター、横浜能楽堂、横浜市民ギャラリーの紅葉ヶ丘地域に所在する5館の連携事業として「紅葉ヶ丘まいらん・春祭り」を開催し、文化施設を活用して地域の魅力を発信することができた。
- ・ 「日本遺産」新規認定申請等に係る県内市町村等への周知や、既認定の「日本遺産」に係る文化庁補助金の周知や助言を通じ、市町村や地元協議会による地域活性化の取組を支援した。
- ・ 「観光かながわNOW」において、Webサイト利用者の利便性向上及び誘客の促進のため、美術館等の位置を分かりやすく示した観光マップ（クリックابل）の掲載や、タイムリーなイベント情報の提供を行った。

（4）景観の形成

【施策の方向性】

県内各地の自然景観、歴史的景観、都市景観などの良好な景観の形成に当たっては、文化的諸条件などに配慮し、魅力ある景観づくりに取り組む。

【主な施策の内容】

- ・ 地域の特性を踏まえた景観行政を推進するため、景観行政団体に移行し景観計画を策定することの必要性について、未移行団体に対して啓発を行った。
- ・ 文化庁や全国文化的景観地区連絡協議会による研修や普及啓発について県内市町村に周知した。

3 文化芸術の振興を図るための環境整備

(1) 学校施設、公共的施設の活用等

【施策の方向性】

学校開放などの取組により、空き教室や休日等の学校施設を県民の文化芸術活動のために利用できるよう努める。また、文化施設以外の庁舎などの公共的施設についても、作品の展示などの利用ができるよう取り組む。

【主な施策の内容】

- ・ 県立学校の音楽室などの学習施設やグラウンド・体育館などの体育施設を、県民の学習や文化活動、スポーツ活動の場として提供した。

(2) 県立文化施設の充実

【施策の方向性】

県立文化施設では、文化芸術の鑑賞や活動、交流の場としての機能に加えて、施設の特성에応じて、文化芸術に関する人材の育成や教育普及活動に取り組む。

県立文化施設の機能を最大限に発揮させるため、効果的な事業の実施や効率的な施設運営等について、適切な検証を行う。

県立文化施設の文化芸術発信拠点としての機能を充実させるため、長寿命化や県民ニーズに対応した施設改修や、文化資源を収蔵するための施設整備に取り組む。

【主な施策の内容】

重点施策5に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 音楽堂室内オペラ・制作広報インターンとして音楽堂公式アカウントでインターンによる広報SNSの発信、オペラの衣装のパネルを制作して会場ロビーに展示等を行った。
- ・ 県立文化施設の指定管理者に対して、県の行政管理課が定める「指定管理者制度の運用に関する指針」等に基づき、協定書に定めた利用者満足度調査を実施した。
- ・ 県民ホール本館、KAAT 神奈川芸術劇場及び音楽堂の3館一体による効率的な運営が行われているかをチェックするため「神奈川県立県民ホール及び音楽堂指定管理業務実績評価委員会」を設置し、公募委員を含む委員により指定管理者が行う自主事業公演のモニタリングを行い、その内容について書面会議を開催した。

(3) 情報通信技術の活用

【施策の方向性】

文化芸術に関する情報や資料などを容易に入手できるよう、ホームページや電子メールを活用した情報提供を行うとともに、東京2020大会を契機とし、多言語による情報提供を推進する。

また、県立文化施設が保管・保有する公開資料を容易に利用できるよう、検索や閲覧に情報通信技術を活用するよう取り組む。

県立文化施設の利用手続において、窓口を訪れる負担などを軽減するため、情報通信技術を活用し、自宅から利用予約が可能となるよう、利用者サービスの向上に取り組む。

県立文化施設に保存・保管されている文化芸術にかかわる資料について、デジタル化、データベース化を図り、利用者の利便性を高める取組を推進する。

Ⅲ 基本的な施策の実施状況

【主な施策の内容】

重点施策4及び5に記載した施策のほか、主に次の取組を行った。

- ・ 県立金沢文庫において国宝「金沢文庫文書」の画像のデータベースをインターネットで公開するなど、情報通信技術を活用した利用者の利便性の向上を図った。
- ・ 施設予約システムにおいて、原則24時間どこからでもインターネットを通じて、県内公共施設の空き状況の照会や予約申込を行えるようにすることで、県民の利便性を向上させるとともに、職員側の施設予約管理に関する事務処理の効率化を図った。

(4) 文化芸術活動に対する支援の促進

【施策の方向性】

文化芸術の振興に寄与する寄附税制等の周知などにより、個人や企業からの寄附や支援が活発に行われるよう取り組む。また、文化芸術活動に参加するサポーターについて検討を行う。

【主な施策の内容】

- ・ かながわキンタロウ寄附金（ふるさと納税）を利用し、文化芸術に触れる機会が少ない方々に対して、オーケストラを鑑賞する機会を提供するための支援を実施した。
- ・ （公財）神奈川芸術文化財団が（公社）企業メセナ協議会に会員として参加し、情報収集を行った。

(5) 顕彰の実施

【施策の方向性】

文化芸術活動で顕著な成果を収めた人や団体、また、文化芸術の振興に寄与した人や団体の顕彰を実施する。

【主な施策の内容】

- ・ 神奈川県在住、在職又は神奈川に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に「未来賞」を贈呈した。

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
(1)地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用								
ア伝統的な芸能の普及啓発、鑑賞・発表機会の提供								
001文化財や伝統的な芸能を活用した文化芸術の発信								
カナガワリ・古典プロジェクトin相模原	県内の古典芸能や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、将来にわたり継承していくという機運につなげていくことを目指し、邦楽等のワークショップや民俗芸能団体の演目等の公演を実施。	ワークショップに先立ち、学校などと連携し、わかりやすいテキストや動画を通して、事前に子どもたちが邦楽や民俗芸能に触れることができるような工夫をし、イベントの周知を行った。	来場者数：799人	ホール公演：2023年2月4日～5日	杜のホールはしもと	—		重点施策1、4
「親子で楽しむ伝統芸能！乙女文楽と義太夫節」	「横浜紅葉ヶ丘まいらん春祭り」において伝統人形芝居である乙女文楽のミニ公演を行った後、気軽に親子で楽しめる人形や義太夫節の語りや三味線のワークショップを実施した。	ミニ公演の後に身近に学べるワークショップを開催した。	ミニ公演53人 ワークショップ 人形操作26人、義太夫節6人、三味線演奏10人 計42人	2023年3月4日	青少年センタースタジオHIKARI	—		重点施策1、4
002伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成・支援								
日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	80人	①2022年7月23日、24日 ②2022年7月28日、29日 ③2022年8月9日、10日 ④2022年8月20日、21日	①南足柄市文化会館 ②横須賀市文化会館 ③県立青少年センター ④秦野市立本町公民館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、46名（回答者数）から「とても満足・やや満足」との回答があった。		重点施策1
相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	①239人 ②226人 ③191人 ④160人	①2022年9月27日 ②10月25日 ③11月7日 ④12月8日	①座間総合高等学校 ②足柄高等学校 ③中央農業高等学校 ④平塚中等教育学校	—		重点施策1
能楽ワークショップ	小学生とその保護者を対象に、謡曲・楽器の体験や能の鑑賞のワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	①28人 ②33人	①2023年3月12日・20日 ②2023年3月4日・25日	①松山能舞台、相模女子大学グリーンホール ②県立青少年センター練習室、茅ヶ崎市総合体育館オーケストラ練習室	—		重点施策1
003県立文化施設等での伝統的な芸能にかかわる公演の実施、発表機会の確保								
かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟6団体参加し、創作太鼓の演奏を披露した。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	316人	2022年11月13日	県立音楽堂	—		重点施策1、4
相模人形芝居大会	国指定重要無形民俗文化財または県指定重要無形民俗文化財に指定されている相模人形芝居の5座が一堂に介しての合同公演を開催した。	50回目の開催を記念して、徳島県の阿波人形浄瑠璃 平成座が特別出演した。	出演団体数：6団体 観覧者：1,358人	2023年2月12日	厚木市文化会館	—		重点施策1、4
歌舞伎鑑賞教室	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	今年度から親子券を導入した。また、藤沢市の協力により藤沢市内の全小中学生一人ひとりにチラシを配布した。	703人	2022年6月25日、26日 全2公演	藤沢市民会館大ホール	アンケートでは、2公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると96.8%にのぼった。		重点施策1、4
人形浄瑠璃文楽	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、人形浄瑠璃文楽を上演した。	国立劇場が保有している「文楽入門」という9枚のパネルをホワイトボードに展示した。	652人	2022年10月15日 全2公演	ひらしん平塚文化芸術ホール大ホール	アンケートでは、2公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると98.0%にのぼった。		重点施策1、4
004かながわ伝統芸能祭などの伝統芸能普及振興事業の実施								
かながわ民俗芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に介して、民俗伝統芸能を披露している。 ※2022年度は会場であるはまぎんホールの休館に伴い中止。	—	—	—	—	—		重点施策1、4
かながわ伝統文化子ども歳時記	子どもとその保護者を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	単発で短時間のWSだけではなく、複数回のWSを経て成果発表まで行うWSを実施することで、参加することも達の成長や達成感を高めた。	909人	メインプログラム 2023年2月23日 事前ワークショップ（講談・日本舞踊・ちょうちん）2023年1月21日、22日、29日、2月19日	小田原三の丸ホール（大ホール、小ホール、スタジオ）	・地元市の小中学校全校生徒へのチラシ配布や駅貼りポスター、デジタルサイネージ利用、新聞ミニコミ誌への記事掲載、ケーブルテレビの活用等、多彩な広報手段を活用し、前年度よりも来場者が増えた。 ・神奈川新聞文化部の取材記事が掲載された。		重点施策1、4
005文化芸術団体への支援や連携による発表機会の確保								
神奈川県文化芸術活動団体事業補助金	県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して、公募により補助金を交付した。	2019年度から、「伝統芸能枠」「青少年枠」に「高齢者枠」、「障がい者枠」を設け、門戸を広げて募集を行った。また、実地調査報告を公益財団法人神奈川芸術文化財団に一部委託し、専門の見地からの報告を行った。	要望団体数：72件 助成団体数：37件 助成金交付額：7,857千円	交付申請書の提出期限：2022年2月17日～2022年3月15日（電子申請） 審査会（Zoomによるオンライン開催）：2022年4月7日 交付決定通知書の送付：2022年4月28日～6月15日	—	—		重点施策1、4
006後世に残す伝統的な文化の記録の保存								
伝統的な文化芸術保存ライブラリー	県で実施した伝統的な芸能について、映像及び報告書等の整理をし、後世に残していく取組を実施した。	2019年度から実施した取組であるが、2016年度分から収集した。	—	—	文化課内で紙媒体又はデータで保存	—		重点施策1
民俗芸能調査事業費	「菊名の飴屋踊り」を初めとして、県内に所在する「飴屋踊り、万作踊り」について、現状等の記録保存を行うことにより、県内の民俗芸能の保存・継承の基礎資料とするとともに、調査において当該芸能の特色を明らかにする。令和4年度から調査を開始し、令和6年度に報告書を刊行予定である。	調査員による現地調査及び、事務局による関連文献の調査を実施した。	調査員3人ほか	現地調査・文献調査2022年4月21日ほか28回	横浜市青葉区荏田、横須賀市長沢ほか	—		重点施策1
イ文化財保護の充実等								
007文化財の指定及び指定文化財に対する助成等の実施								

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
指定文化財保存修理等補助金	指定文化財等の保存修理等に対して、補助金を交付し、文化財の保存活用を図った。	—	・有形文化財保存修理等（23件） ・記念物等保存修理等（23件） ・民俗文化財保存修理等（6件） 埋蔵文化財発掘調査等（19件） 合計71件	—	—	—	—	—
008県立の博物館での文化財、伝統芸能等に関する資料の収集、保管、展示								
県立金沢文庫における文化財の管理	2万点を超える国宝・重要文化財をはじめとする文化財を適切に管理した。	日々の温湿度管理や収蔵庫内の整理等を行った。	—	—	県立金沢文庫	—	—	—
県立歴史博物館における資料の収集、修繕	神奈川県内の文化と歴史に主眼を置いた資料を収集した。また、収蔵資料の定期的な修繕を行った。	資料の収集について、購入は市場の動向を注視するとともに、寄贈ではコレクションを補完する関連資料を積極的収集を行った。また、部門毎にまとめた修繕希望資料のリストを集約し、優先順位をつけてた上で、順次修繕を行った。	—	—	県立歴史博物館	「本間有佐軍忠状」1点を購入した。寄贈については、歴史資料は八幡義生氏所蔵資料など12件2472点、美術資料は山内市郎治像など6件1668点、考古資料は赤星直忠学位記など2件8点、民俗資料は紳士服仕立て職人の道具と製品など5件237点の、合計25件4385点を受け入れた。また、弥生土器広口壺、鈴木藤助日記、赤羽刀、国府台風景図屏風、和服姿の米婦人の5件13点の資料の修繕を実施した。	—	—
009県ホームページ等による文化財に関する情報の提供								
指定文化財の所有・保持者に対する周知を行うとともに、県内文化財の目録を時点更新し、ホームページへ掲載した。	—	—	ページビュー数：6,846件	—	—	—	—	—
①伝統工芸品等の地域資源の活用								
010工芸を主とする木製品業者向けにものづくり支援や技術情報の提供、連携・交流								
木製品ものづくり支援事業①	ものづくりに必要な設備機器等を木製品製造業者に貸し出した。	工芸に関する加工、塗装、加飾技術を有する職員が相談に乗り、助言を行った。	機器利用件数：723件	通年	中小企業支援課小田原駐在事務所	—	—	重点施策1
木製品ものづくり支援事業②	木製品製造事業者からの依頼を受け、新商品の試作等のための加工・製作を行った。	工芸に関する加工、塗装、加飾技術を有する職員が相談に乗り、助言を行った。	依頼加工・試作等件数：33件	通年	中小企業支援課小田原駐在事務所	—	—	重点施策1
工芸ヤングフォーラム	小田原・箱根地域の木製品製造業に携わる若手工芸技術者を対象に、交流の場を提供した。	木工技術、産地の歴史等、幅広い知見があり、事業者支援の経験を有する専門家を指導講師として招いた。	述べ参加者数：115人	年10回開催	中小企業支援課小田原駐在事務所	—	—	重点施策1
工芸品産業担い手育成事業	地域に根付いた工芸品産業の技術・技能を次代に継承するため、若手技術者などに専門家を招き、市場に受け入れられる商品づくりを支援した。	事業者が抱える課題等に的確に対応するため、事業者等からの要望を反映して講座を開催した。	参加人数：65人	年8回開催	中小企業支援課小田原駐在事務所	—	—	重点施策1
(2) 県民の文化芸術活動の充実								
ア文化芸術に対する関心、理解を深めるための普及啓発								
011県立文化施設での文化芸術に関する講座、講演会等の開催								
舞台芸術講座	一流のアーティストや音楽学者を講師に迎え、レクチャーコンサートや、シンポジウム付のコンサートを実施した。	レクチャーコンサートでは少女漫画に、シンポジウム付きコンサートでは時代を象徴する一人の作曲家に焦点を当て、テーマ設定に企画性を持たせた。	460人	①2022年8月27日 ②2023年2月4日	県民ホール本館	—	—	—
県立近代文学館における講演会	神奈川県近代文学館のホール等の会場を利用して、企画展や特別展に即した内容の講演会を開催した。	第一線で活躍する作家や研究者を招いて講演会を実施することができた。	1,983人	企画展等に合わせて11回実施	神奈川県近代文学館	会場での質疑応答などを通じ読書意欲の増進を図ることができた。質問は事前に要旨を配って記入いただき回収し、感染対策を徹底した。	—	—
青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	—	239人	2022年8月10日、11日	茅ヶ崎市民文化会館大ホール	—	—	—
中・高等学校演劇講習会	中・高等学校の生徒と教員を対象に、学校演劇における基礎的理論と実技を習得し、演劇発表に活用することを目的に、演出、演技、舞台技術、照明、音響等に係る総合的な創造方法を学習する機会を提供した。	—	中学生：421人 高校生：277人	中学校：2022年8月6日、7日 高等学校：2022年7月30日、31日	中学校・高等学校：小田原三の丸ホール（大ホール、小ホール、スタジオ、展示室）	—	—	—
青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することを目的として、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム（映像、ダンス振付、舞台美術）を実施した。	映像編は実際に講師の創作現場の会場で実施することで、より実践的な体験とした。	①映像編6人 ②ダンス編33人 ③舞台美術編10人	①映像編 2022年7月20日 ②ダンス編 2023年3月29日、30日 ③舞台美術編 2023年3月27日、28日	①映像編：青少年センター スタジオ HIKARI ②ダンス編：相模女子大学グリーンホールリハーサル室 ③舞台美術編：横浜市教育会館4階ホール	—	—	—
心技体+創ワークショップ	コンテンポラリーやヒップホップといった比較的新しい身体表現による創作に取り組む、学校におけるダンス部の活動を対象として、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、青少年が主体的にダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供し、ダンスと向き合う上での心技体の基礎を学ぶもの。	—	20人	2023年3月18日、19日	海老名市門沢橋コミュニティセンターレクリエーション室	—	—	—

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
県立金沢文庫における講座、講演会等の開催	特別講演会、月例講座、解説講座、社会教育施設公開講座等を開催した。	展示会の開催に合わせたものや、地域史に関わるものを中心に実施し、横浜市金沢区とも連携した。	特別講演会：6回、372人 特別講座：1回、48人 月例講座：12回、663人 解説講座：4回、182人 社会教育施設公開講座：6回、133人 金沢区連携講座：2回、134人	特別講演会：2022年6月19日他 特別講座：2022年7月10日 月例講座：2022年4月23日他 解説講座：2022年8月27日他 社会教育施設公開講座：2022年12月3日他 金沢区連携講座：2022年4月30日他	県立金沢文庫	—		
012広報誌、ホームページによる普及啓発の実施								
季刊誌 神奈川芸術劇場 KAAT PAPER発行	長塚芸術監督が掲げる“劇場をひらく”取組の1つとして、毎月、劇場そのものや演劇の魅力を伝える特集企画を立て、芸術監督との対談や、取材記事、主催公演のレビューなどを掲載した。	KAATを知らない方や、演劇を鑑賞したことが無い方にも、興味を持って手に取ってもらえるよう、演劇に寄らない切り口での特集を企画した。また、版型もタブロイド判とし、駅や県有施設などKAAT以外でも配布を行った。	各号5万部発行	年3回発行 春夏号：5月6日、秋号：8月31日、冬号：11月27日	KAAT神奈川芸術劇場他	劇場ホームページにPDF版、電子ブック版を掲載するとともに、対談記事はホームページにロングバージョンを掲載した。		
神奈川芸術プレス発行	冊子を発行・配布することで、公演情報の周知、県内の文化情報等を掲載した。	年2回の発行にし、内容をレビューや読み応えのある特集を盛り込み、芸術文化以外の幅広いジャンルも取り上げた。	年間36,000部	年2回発行（2022年9月、2023年3月発行）	—	—		
県立近代文学館におけるホームページ、SNSの活用	SNSの積極的な活用やコミックとのコラボレーションによりホームページ利用のアクセス数を高く維持し、広く広報周知活動を行った。	展示会紹介、資料紹介等に加え、文学者の誕生日命日などにもSNSで発信するなど、日々新しい話題を提供した。	ホームページアクセス数(公式noteを含む)：282,258件 動画コンテンツ視聴数：計613件	通年	神奈川近代文学館ホームページ及びSNS	講演会の動画公開など新たにコンテンツを公開した。		
マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。	読み物として楽しめる特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。	2021年度PV(ページビュー)数414,764	通年	インターネット上	—		
イベントカレンダー	県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する日英併記の情報誌「イベントカレンダー」を作成した。	毎号特集ページを設け、県事業のPRを行った。	発行部数270,000部	年4回発行 6～8月号 9～11月号 12～2月号 3～5月号	県内、都内の文化施設、駅、商業施設等で配布	—		
県立金沢文庫における普及啓発の実施	金沢文庫で開催する展示会や関連する講座等のイベントについて、金沢文庫HPや地域の情報誌、美術館・博物館関係の雑誌、新聞等で展示会の紹介を行った。	展示会の紹介記事では展示会の目玉となる作品を紹介し、展示会の魅力やみどころを伝え、金沢文庫の知名度を高めるように努めた。	—	—	—	HP閲覧件数：327,914件(※2月からホームページのサーバーが「PLANETかながわ」から「教育委員会ネットワーク」に変わり、「教育委員会ネットワーク」は、サーバーがクラウドなので、閲覧件数のカウントができないため、2～3月分は、「PLANETかながわ」を経由した分のみの件数となっている。)朝日新聞神奈川版(2022年8月10日掲載)他		
県立近代美術館における普及啓発の実施	広報誌『たいせつな風景』を発行し、美術館活動の周知に努めた。また、近代美術館ウェブサイトを通して、開催する展示会の情報を広く県民に発信した。	2022年度の広報誌については、年度中に開催した展示会に関連した内容を掲載した。また、ウェブサイトについては、展示会開催前に代表的な出品作品の画像を含む情報を提供した。	—	—	—	—	—	—
イ鑑賞機会の充実								
013県立文化施設での公演事業の実施								
県民ホール本館での公演事業の実施	故一柳芸術総監督、沼野芸術参事とのディレクションのもと、「浜辺のアインシュタイン」など県民ホール本館における主催・共催公演を実施した。	専門家の助言や業界ガイドラインに基づいた感染症対策を講じた上で施設運営担当と連携し実施した。	41,138人	通年 41演目(44公演)・11企画(14回)・6展覧会(うち、共催等20公演3展覧会)	県民ホール本館ほか	開館50周年(2025年度)に向けて、新しい総合芸術表現を追求・創作する開館50周年シリーズを開始し、現代オペラの金字塔「浜辺のアインシュタイン」の国内初の新制作上演を行った。		
神奈川芸術劇場等での公演事業の実施	芸術監督長塚圭史氏のもと、昨年度に引き続き、劇場の活動をリズムを持っておこなうべく、プレゼンズと「忘」をテーマに掲げたメインシーズンとを構成し、多様な作品制作とその発信に取り組んだ。	国内外の優れたアーティストと協力し、施設の特性を生かした舞台芸術の創造・発信を行った。	50,027人	通年 206公演1展覧会7回(6企画)	KAAT神奈川芸術劇場他	アンスティチュ・フランセ東京の協力のもとカイハツ事業(ルコック国際演劇学校とのワークショップ)の前座としてのトークイベントを行い、フランスの公的団体との協働の機会となった。		
音楽堂での公演事業の実施	音楽堂のブランドイメージ構築に対応して、室内オペラ・プロジェクトやヘリテージ・コンサートなど、各種プログラムを実施した。	音楽堂初登場の演奏家や日本初演作品等に重点を置き、人類の至宝といえる世界的レベルの演奏家による上質な公演・企画の実施に留意した。『音楽堂室内オペラ・プロジェクト』では人材育成事業と連動し、室内オペラの制作過程や広報課題を題材としてインターンシップの活動に活用した。	18,885人	通年 24事業40公演(うち共催等17事業33公演)	音楽堂ほか	室内オペラ・プロジェクト『シッラ』日本初演ではNHK・BSでの全国放送、配信を実現し、更に独UNITEL社との契約により全世界放送、配信、製品化への可能性を拓いた。		

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
①キエフ(キーウ)・クラシック・バレエ『白鳥の湖』全2幕 ②ウクライナ国立バレエ「ドン・キホーテ」	海外の文化芸術の県民への鑑賞機会の提供のために海外のバレエ公演を実施した。	—	3,338人	①2022年8月23日 ②2022年12月17日	県民ホール本館	—		
第55回クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」全曲	長年継続して音楽堂で開催しているクリスマス音楽会。コロナ禍で2年連続行えなかった県民参加による合唱を復活して実施した。	新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインによる舞台上人数制限のため、従来の県民合唱の人数での開催が困難な中、曲の一部を交代制にすることでなるべく多くの参加者が出演できるようにした。今年度から新しく指揮者になったバロック専門家の大塚直哉氏の指導もあり、少人数でも質の高いバロック的な「メサイア」を実現した。	869人	2022年12月11日	音楽堂	県内の高校生による「メサイア未来プロジェクト」も復活し、合計3校が合唱に参加した。		
かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟6団体参加し、創作太鼓の演奏を披露した。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	316人	2022年11月13日	県立音楽堂	—	再掲	
相模人形芝居大会	国指定重要無形民俗文化財または県指定重要無形民俗文化財に指定されている相模人形芝居の5座が一堂に介しての合同公演を開催した。	50回目の開催を記念して、徳島県の阿波人形浄瑠璃 平成座が特別出演した。	出演団体数：6団体 観覧者：1,358人	2023年2月12日	厚木市文化会館	—	再掲	
DVD鑑賞会(かながわアートホール)	月に一度程度、ホールにて、かながわアートホールが所蔵する音源、映像を上演する事業を実施する。	毎回好評である副館長による映画解説を実施するとともに、副館長をモデルにしたゆるキャラを作成し、動員を図る。	4月 179人 5月 143人、187人 6月 160人 7月 111人 8月 101人 9月 125人、125人 10月 96人 11月 183人 12月 161人 1月 103人、215人 2月 144人 3月 161人	2022年4月30日、5月5日、5月29日、6月18日、7月10日、8月9日、9月11日、9月25日、10月15日、11月5日、12月25日、2023年1月22日(午前・午後)、2月19日、3月15日	かながわアートホール	—		
野外コンサート(かながわアートホール)	アートホール前広場に音楽を溢れさせたいという目的で正面玄関横のテラスをステージとして、コンサートを実施した。	季節の良い春と秋に数回程度実施した。	4月 入場者：120 ライブ：17 アライブ：480 5月 ①入場者：130 ライブ：20 アライブ：720 ②入場者：70 ライブ：20 アライブ：629 ③入場者：170(出演者の意向で配信なし) 10月 ①入場者：160 ライブ：23 アライブ：1,396 ②入場者：210 ライブ：18 アライブ：638 ③入場者：100 ライブ：23 アライブ：626 11月 入場者：150 ライブ：26 アライブ：641	4月2日、5月8日、5月14日、5月15日、10月1日、10月16日、10月23日、11月3日	かながわアートホール	—		
赤ちゃんコンサート	子育て支援事業として、子育て中の親子を対象としたランチタイムコンサートの内容を一部変更して実施した。	乳幼児・未就学児の同伴を可能とし、気兼ねなく親子で楽しめるコンサートを実施した。	入場者：191人 視聴者数 ライブ：24 アライブ：972	2023年2月11日	かながわアートホール	—		
神奈川フィル・カジュアルコンサート	神奈川フィル・ジュニア管弦オーケストラ修了公演の第二部として、神奈川フィルによるカジュアルコンサートを実施した。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、無観客ライブ配信で実施した。	入場者(ジュニオケと同一)：168人 視聴者数 ライブ：61 アライブ：1,253	2023年3月30日	かながわアートホール	—		
歌舞伎鑑賞教室	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	今年度から親子券を導入した。また、藤沢市の協力により藤沢市内の全小中学生一人ひとりにチラシを配布した。	703人	2022年6月25日、26日 全2公演	藤沢市民会館大ホール	アンケートでは、2公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると96.8%にのぼった。	再掲	
人形浄瑠璃文楽	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、人形浄瑠璃文楽を上演した。	国立劇場が保有している「文楽入門」という9枚のパネルをホワイエに展示した。	652人	2022年10月15日 全2公演	ひらしん平塚文化芸術ホール大ホール	アンケートでは、2公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると98.0%にのぼった。	再掲	
かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	単発で短時間のWSだけではなく、複数回のWSを経て成果発表まで行うWSを実施することで、参加することも達の成長や達成感を高めた。	909人	メインプログラム 2023年2月23日 事前ワークショップ(講談・日本舞踊・ちょうちん) 2023年1月21日、22日、29日、2月19日	小田原三の丸ホール(大ホール、小ホール、スタジオ)	・地元市の小中学校全校生徒へのチラシ配布や駅貼りポスター、デジタルサイネージ利用、新聞ミニコミ誌への記事掲載、ケーブルテレビの活用等、多彩な広報手段を活用し、前年度よりも来場者が増えた。 ・神奈川新聞文化部の取材記事が掲載された。	再掲	

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
青少年センターでの公演事業の実施	青少年センターにおける演劇・ダンス発表会やマグカルシアター公演など、主催・共催・後援による公演等を実施した。	施設運営担当と連携し、利用日程の調整や当日運営を行った。	14,798人	通年 228公演	青少年センタースタジオHIKARI等（紅葉坂ホールは工事のため休館）	—		
「親子で楽しむ伝統芸能！乙女文楽と義太夫節」	「横浜紅葉ヶ丘まいらん春祭り」において伝統人形芝居である乙女文楽のミニ公演を行った後、気軽に親子で楽しめる人形や義太夫節の語りと三味線のワークショップを実施した。	ミニ公演の後に身近に学べるワークショップを開催した。	ミニ公演53人 ワークショップ 人形操作26人、義太夫節6人、三味線演奏10人 計42人	2023年3月4日	青少年センタースタジオHIKARI	—	再掲	
014県立近代美術館での美術作品の展覧会の開催・普及活動の実施								
県立近代美術館における展覧会の開催、普及活動事業の実施	「生誕100年 朝倉 撰」展をはじめ、葉山館では4つの企画展と3つのコレクション展を開催し、鎌倉別館では2つの企画展と2つのコレクション展を実施した。また、展覧会に関連したトークイベント(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事前予約制)を展開した。	展覧会については、情操教育に資するため、バランスの取れた企画を実施した。また、教育普及活動については、来館者における鑑賞機会の充実を目的として、多様な形態の活動を実践した。	入館者数：101,144人 ギャラリートーク：15回、184人	展覧会：2022年4月16日～2022年6月12日他 教育普及活動：2022年5月21日他	県立近代美術館葉山館、鎌倉別館	—		
県立近代美術館における展覧会記念講演会等事業の開催 葉山町での共催による講座の実施	企画展「アレック・ソス」等に関連した記念トーク・イベント等を実施した。また、学芸員による連続講座として「近代美術館入門講座」を開催した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前予約制で実施した。	展覧会記念トーク・イベント：5回、154人 近代美術館講座：8回、137人	展覧会記念トーク・イベント：2022年7月16日他 近代美術館講座：2022年5月27日他	県立近代美術館葉山館、鎌倉別館 葉山町福祉文化会館、逗子市役所	—		
015県立博物館での文化芸術に関する資料等の展示、展覧会の開催・普及活動の実施								
県立金沢文庫における展覧会の開催	特別展「兼好法師と徒然草」や特別展「運慶」、企画展「湘南電鉄と県立金沢文庫」等の展覧会を6回実施した。	金沢文庫が管理する文化財を中心に、それと関連する外部の文化財の借用を行い、他の研究機関や自治体と連携して魅力ある展覧会を行った。	入館者数：41,072人	特別展「兼好法師と徒然草」：2022年5月27日～7月24日他	県立金沢文庫	—		
県立歴史博物館における資料の展示	常設展では、各テーマごとに年間を通して展示替えを行った。	展示替えに際しては、小規模なテーマ展「トピック展示」を展開するなどの工夫を行った。	常設展入館者数：33,862人	通年 展示替えは資料整理休館日を中心に実施。	県立歴史博物館	年間を通じた計画的な展示替えにより、常設展で1,514件の資料を展示した。		
県立歴史博物館における特別展の実施	特別展「洞窟遺跡を掘る」、「地図最前線」、「永福寺と鎌倉御家人」、特別陳列「松平造酒助江戸在勤日記」を実施した。	「ポケット学芸員」を活用した音声・文字による展示ガイドを行った。また、関連事業として講演会や展示解説を積極的に行った。	特別展「洞窟遺跡を掘る」7,616人、「地図最前線」9,443人、「永福寺と鎌倉御家人」12,220人	特別展「洞窟遺跡を掘る」2022年4月29日～6月26日、「地図最前線」2022年7月16日～9月25日、「永福寺と鎌倉御家人」2022年10月15日～12月4日、特別陳列「松平造酒助江戸在勤日記」2023年2月18日～4月9日	県立歴史博物館	—		
県立歴史博物館における各種講座等の開催	県民の生涯学習支援のための特別展開講講座・講演会・体験教室・子ども向け講座等各種催し物を開催した。	感染防止対策を徹底した上で講座を実施した。	一般向け講座他：67回、1,876人、子ども向け催し物：2回、18人 ミュージアムコンサート：1回、37人 県内学校向け学芸員の出張講座：18回、1,715人	特別展「洞窟遺跡を掘る」展示解説他：2022年4月30日他	県立歴史博物館等	—		
016県立近代文学館での文学資料に関する展示、展覧会の開催・普及活動の実施								
県立近代文学館におけるギャラリートーク	企画展等に合わせて展示説明会を開催した。	展覧会の内容を資料画像等を用いて解説し、観覧者に対してより深い理解を促した。	590人	企画展等に合わせて計22回実施	神奈川近代文学館	観覧者が、展示担当者へ直接質問する場ともなり、観覧者の展示理解に役出た。		
県立近代文学館における朗読会、上映会等	神奈川近代文学館のホール等の会場を利用して、朗読会や上映会等のイベントを実施した。	新たな客層を獲得するため、著名な俳優の出演や文学の枠を超えたイベントなどを実施した。	1433人	企画展等に合わせて13回実施	神奈川近代文学館	文学以外の分野のファン層が文学館に足を運んだ。		
特別展・企画展	各作家の所蔵資料等を活用した特別展・企画展を実施した。 ①特別展「生誕110年 吉田健一文学の楽み」 ②特別展「生誕100年 ドナルド・キーン展－日本文化へのひとすじの道」 ③企画展「堀内誠一 絵の世界」 ④特別展「没後50年 川端康成展 虹をつむぐ人」 ⑤常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第1部－夏目漱石から萩原朔太郎まで コーナー展示：夏目漱石特別コレクションから一漱石あて絵はがきを中心に－ ⑥常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第2部－芥川龍之介から中島敦まで コーナー展示：夏目漱石特別コレクションから一漱石あて絵はがきを中心に－	所蔵資料等を活用し、作家の魅力が伝わる展示を行った。	41,572人 ①5,202人 ②10,851人 ③11,500人 ④7,327人 ⑤1,723人 ⑥4,969人	①2022年4月2日～5月22日 ②5月28日～7月24日 ③7月30日～9月25日 ④10月1日～11月27日 ⑤12月3日～2023年1月29日 ⑥2023年2月11日～3月26日	神奈川近代文学館	展覧会を機に新たな資料が寄贈された。他分野とのコラボレーションが集客につながった。		
かなぶんキッズクラブ（紙芝居、映画会、絵本の読み聞かせ等）	子どもの長期休み期間に合わせて「かなぶんキッズクラブ」として紙芝居、映画会を実施した。	イベントの定員は、通常に戻した。	523人	①紙芝居：2022年8月5日 ②子ども映画会：2022年8月18日、19日 ③読み聞かせ：2022年8月27日 ④紙芝居：2023年3月29日 ⑤子ども映画会：2023年3月30日	神奈川近代文学館	紙芝居のオンライン公開では累計1,012件の視聴があった。		
017文化芸術団体との連携による鑑賞機会の提供								
神奈川芸術劇場(KAAT)での企画制作事業の実施	KAAT神奈川芸術劇場プロデューサー作品等を他府県で上演した。	KAAT神奈川芸術劇場の作品を各地で上演した。	13,631人	通年 4演目22公演	まつもと市民芸術館ほか	—		

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
巡回オペラの実施	子供も対象としたオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を上演した。	県民ホール本館での実施に加え、県域の文化施設出張して子ども向けの名作オペラを実施し、幅広い県民の鑑賞ニーズに対応した。	1,446人	①2022年11月26日、27日 ②2022年12月3日 ③2023年1月22日 ④2023年3月12日	①県民ホール本館 ②寒川町民センターホール ③もみじホール城山多目的ホール ④鎌倉芸術館 小ホール	—		
第38回かながわ音楽コンクール	神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、オーケストラとの共演を通じて一層の育成を図る目的で、2022年8月20日に入賞者を対象としたクリスタルコンサート、10月2日に上位入賞者によるトップコンサートを実施した。	—	参加者数：936人 鑑賞者数：延べ1,300人 (クリスタルコンサート及びトップコンサートの鑑賞者数：444人)	①クリスタルコンサート：2022年8月20日 ②トップコンサート：2022年10月2日 コンクール全体は2022年3月20日～12月3日	①クリスタルコンサート：横浜市緑区民文化センター「みどりアートパーク」 ②トップコンサート：神奈川県立音楽堂	—		
第17回フレッシュ・コンサート	次世代を担うと期待される神奈川県ゆかりの才能ある若手奏者を広く県民に紹介し、オーケストラとの共演を通じてその才能の一層の育成を図った。	—	492人	2023年1月9日	音楽堂	—		
カナガワリ・古典プロジェクトin相模原	県内の古典芸能や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、将来にわたり継承していくことという機運につなげていくことを目指し、邦楽等のワークショップや民俗芸能団体の演目等の公演を実施。	ワークショップに先立ち、学校などと連携し、わかりやすいテキストや動画を通して、事前に子どもたちが邦楽や民俗芸能に触れることができるような工夫をし、イベントの周知を行った。	来場者数：799人	ホール公演：2023年2月4日～5日	社のホールはしもと	—	再掲	
U県民の文化芸術活動や発表機会の支援								
018県立文化施設での練習・発表等の活動の場の提供								
マダカシアター等	主に若手の舞台芸術団体や個人に青少年センター スタジオ「HIKARI」及びかながわアートホールを公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	感染症拡大防止対策を取りながら、集客公演を実施した。	8,357人	2022年4月～2023年3月	青少年センター スタジオ「HIKARI」、かながわアートホール	個性の異なる2つの会場を拠点としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。		
青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演する。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮した。	27人	2022年5月～8月 ※稽古のみ。公演（8月10日～14日）は関係者のコロナ感染により中止	青少年センター	演劇に興味のある青少年が気軽に演劇に触れ、その能力を高められる場であり、参加者の満足度も高い		
かながわ短編演劇アワード2023	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマを「ともに生きる」とした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：33団体 短編戯曲：98作品 22世紀飛翔枠：5団体 【来場者数】 本戦：251人 ライブ視聴者数（瞬間最多視聴者数）61人 22席飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：61人	本戦：2023年3月25日～26日 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：2023年1月8日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：県立神奈川総合高等学校	—		
神奈川フィル・ジュニア管弦オーケストラ2023（第6期生）	小学4年生～高校3年生の子どもたちがアートホールに集い、神奈川フィル団員の指導を経て神奈川フィルと共演する。感染症対策のため、弦楽器のみで規模を縮小して実施した。	受講生が楽器ごとに分かれて行うパート練習やそれぞれの合奏練習を行った。	受講者数：16人 入場者：168人 視聴者数 ライブ：57 アライブ：998	2023年3月30日	かながわアートホール	—		
かながわミュージカルアワード2023	県内の伝説・民話・トレンドなどを題材にした、90分程度の作品による地域色豊かなミュージカルアワードを開催するもの。	2団体各45分の上演時間を、1団体90分目安の公演とした。	【応募数】 7団体 【来場者数】 本戦：178人	2023年3月12日	県民共済みらいホール	—		
中学校創作劇発表会	中学校を対象に、創作劇の発表会を実施した。	—	323人	2022年8月5日	小田原三の丸ホール 大ホール	—		
青少年ダンス発表会	表現芸術の充実と向上を図ることを目的に創作舞踊発表会を実施した。	各学校(団体)における日頃の取組みの成果を発表する場を提供するという「発表会」の本来の趣旨に鑑み、講師による講評を行わないこととした。	2,060人	2022年11月3日	KAAT神奈川芸術劇場ホール	—		
中・高等学校演劇発表会	中・高等学校を対象に、演劇の発表会を実施した。	—	中学生：967人 高校生：1,103人	中学校：2022年12月10日、11日 高等学校：2022年11月19日、20日	中学校：藤沢市民会館大ホール 高等学校：厚木市文化会館大ホール	—		
かながわ児童演劇グループ交流会(かながわ人形劇フェスティバル)	地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供する事業として実施した。	出演団体の募集について、高校や短大で活動している複数の人形劇サークルにも出演協力の依頼を行った。	372人	2023年2月18日、19日 全4公演	青少年センタースタジオHIKARI	出演団体の熱心な意見交流が行なわれ、実のある交流会となった。		
019県美術展の開催								
第57回神奈川県美術展	全国公募による美術展を実施し、作品発表の機会を提供し創作活動の支援を図るため、公募美術展を開催した。また、障がい者の文化芸術の鑑賞及び創作活動の機会創出のため、ともいきアートサポート事業の一環としてともいきアート展を開催した。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。オンラインでの展示を実施した。	応募点数：1,084点 応募人数：753人 入選者数：337人 入賞者数：41人 入場者数：3,707人 来場者数 ・1期展 1,474人 ・2期展 1,859人 ・厚木展 374人 オンライン展示再生回数(3月末) ・平面 187回 ・立体 77回 ・工芸 186回 ・書 42回 ・写真 87回 ・ともいきアート 83回	応募作品搬入：【工芸・書・写真部門】2022年7月2日、3日 【平面立体部門】2022年7月9日、10日 展覧会：2022年9月7日～10月2日(うち2日休・開催24日間)	神奈川県民ホール ギャラリー	—		
020文化芸術団体の創作・発表等の活動への助成等による支援								

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
神奈川県文化芸術活動団体事業補助金	県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して、公募により補助金を交付した。	2019年度から、「伝統芸能枠」「青少年枠」に「高齢者枠」「障がい者枠」を設け、門戸を広げて募集を行った。また、実地調査報告を公益財団法人神奈川県文化芸術文化財団の一部委託し、専門の見地からの報告を行った。	要望団体数：72件 助成団体数：37件 助成金交付額：7,857千円	交付申請書の提出期限：2022年2月17日～2022年3月15日（電子申請） 審査会（Zoomによるオンライン開催）：2022年4月7日 交付決定通知書の送付：2022年4月28日～6月15日	—	—	再掲	
マグカル開放区	県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「開放区」を実施した。	2022年10月より、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら再開。計11回実施。	出演者数：400人 参加者数：35,088人	10/2、10/23、11/6、12/4、12/25、1/15、1/29、2/5、2/19、3/5、3/19	県庁前日本大通り	—		
バーチャル開放区	県庁前日本大通りで音楽やダンスなど自由に発表できる空間「マグカル開放区」の開催場所を路上からオンライン上に移して、文化芸術オールジャンルの動画コンテンツ「バーチャル開放区」を実施した。	—	応募件数：115件 視聴結果 《HP/PV数》 108,997回 《再生数》 104,407回 (HP、再生数ともに2022年8月29日～2023年3月31日)	—	インターネット上	—		
マグカルシアター出演団体等の上演作品制作支援事業	マグカルシアターに出演が決定した団体等を対象に、演劇資料室や稽古場の提供を通して作品制作に関する課題解決を支援し、上演作品の質的向上を図った。	—	研修室利用者 99団体 1,440人	通年	青少年センター	—		
021伝統的な芸能、舞台芸術作品等の公演などの共催等による支援								
県民ホール本館での公演事業の実施	故一柳芸術総監督、沼野芸術参与のディレクションのもと、「浜辺のアインシュタイン」など県民ホール本館における主催・共催公演を実施した。	専門家の助言や業界ガイドラインに基づいた感染症対策を講じた上で施設運営担当と連携し実施した。	41,138人	通年 41演目（44公演）・11企画（14回）・6展覧会（うち、共催等20公演3展覧会）	県民ホール本館ほか	開館50周年（2025年度）に向けて、新しい総合芸術表現を追求・創作する開館50周年シリーズを開始し、現代オペラの金字塔「浜辺のアインシュタイン」の国内初の新制作上演を行った。	再掲	
神奈川県芸術劇場等での公演事業の実施	芸術監督長塚圭史氏のもと、昨年度に引き続き、劇場の活動をリズムを持っておこなうべく、「プレシーズン」と「忘」をテーマに掲げたメインシーズンとを構成し、多様な作品制作とその発信に取り組んだ。	国内外の優れたアーティストと協力し、施設の特徴を生かした舞台芸術の創造・発信を行った。	50,027人	通年 206公演1展覧会 7回（6企画）	KAAT神奈川県芸術劇場他	アンスティチュ・フランセ東京の協力のもとカイハツ事業（ルック国際演劇学校とのワークショップ）の前座としてのトークイベントを行い、フランスの公的団体との協働の機会となった。	再掲	
音楽堂での公演事業の実施	音楽堂のブランドイメージ構築に対応して、室内オペラ・プロジェクトやヘリテージ・コンサートなど、各種プログラムを実施した。	音楽堂初登場の演奏家や日本初演作品等に重点を置き、人々の至宝といえる世界的レベルの演奏家による上質な公演・企画の実施に留意した。『音楽堂室内オペラ・プロジェクト』では人材育成事業と連動し、室内オペラの制作過程や広報課題を題材としてインターンシップの活動に活用した。	18,885人	通年 24事業40公演（うち 共催等17事業33公演）	音楽堂ほか	室内オペラ・プロジェクト『シッラ』日本初演ではNHK・BSでの全国放送、配信を実現し、更に独UNITEL社との契約により全世界放送、配信、製品化への可能性を拓いた。	再掲	
かながわ民俗芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に介して、民俗伝統芸能を披露している。 ※2022年度は会場であるはまぎんホールの休館に伴い中止。	—	—	—	—	—	再掲	
エ文化芸術活動に関する情報の提供								
022文化芸術に関する広報誌の発行								
季刊誌 神奈川県芸術劇場 KAAT PAPER発行	長塚芸術監督が掲げる“劇場をひらく”取組の1つとして、毎月、劇場そのものや演劇の魅力伝える特集企画を立て、芸術監督との対談や、取材記事、主催公演のレビューなどを掲載した。	KAATを知らない方や、演劇を鑑賞したことが無い方にも、興味を持って手に取ってもらえるよう、演劇に寄らない切り口での特集を企画した。また、版型もタブロイド判とし、駅や県有施設などKAAT以外でも配布を行った。	各号5万部発行	年3回発行 春夏号：5月6日、秋号：8月31日、冬号：11月27日	KAAT神奈川県芸術劇場他	劇場ホームページにPDF版、電子ブック版を掲載するとともに、対談記事はホームページにロングバージョンを掲載した。	再掲	
神奈川県芸術プレス発行	冊子を発行・配布することで、公演情報の周知、県内の文化情報等を掲載した。	年2回の発行にし、内容をレビューや読み応えのある特集を盛り込み、芸術文化以外の幅広いジャンルも取り上げた。	年間36,000部	年2回発行（2022年9月、2023年3月発行）	—	—	再掲	
イベントカレンダー	県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する日英併記の情報誌「イベントカレンダー」を作成した。	毎月特集ページを設け、県事業のPRを行った。	発行部数 270,000部	年4回発行 6～8月号 9～11月号 12～2月号 3～5月号	県内、都内の文化施設、駅、商業施設等で配布	—	再掲	
023ホームページ、SNS、ポータルサイトによる公演情報、文化芸術活動のための情報の提供								
県立近代文学館におけるホームページ、SNSの活用	SNSの積極的な活用やコミックとのコラボレーションによりホームページ利用のアクセス数を高く維持し、広く広報周知活動を行った。	展覧会紹介、資料紹介等に加え、文学者の誕生日命日などにもSNSで発信するなど、日々新しい話題を提供した。	ホームページアクセス数（公式noteを含む）：282,258件 動画コンテンツ視聴数：計613件	通年	神奈川県近代文学館ホームページ及びSNS	講演会の動画公開など新たにコンテンツを公開した。	再掲	
マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。併せて、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。また、外国人向け特集記事を作成し、ネイティブによる多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	読み物として楽しめる特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。	2021年度PV（ページビュー）数 414,764	通年	インターネット上	—	再掲	

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
県立金沢文庫における情報提供の実施	金沢文庫で開催する展覧会や講座などのイベントについて、金沢文庫HPやTwitterで広報をおこなった。	展覧会の目玉となる作品や金沢文庫が管理する国宝「金沢文庫文書」の作品紹介を定期的にTwitterで紹介し、展覧会や金沢文庫の保管する資料の魅力を伝えるよう発信した。	HP閲覧件数：327,914件（※2月からホームページのサーバーが「PLANETかながわ」から「教育委員会ネットワーク」に変わり、「教育委員会ネットワーク」は、サーバがクラウドなので、閲覧件数のカウントができなため、2～3月分は、「PLANETかながわ」を経由した分のみの件数となっている。） Twitter発信件数：267件	—	—	—	—	—
県立近代美術館における情報提供の実施	プレスリリースを報道関係者にメールで配信した。また、Twitter上で美術館の日々の活動を発信した。	各々の電子媒体によって、対象に合わせた内容を発信した。	プレスリリースのメール配信件数：11件 Twitter発信数：323回	—	—	—	—	—
県立歴史博物館における情報提供の実施	HP (Twitter含む) を活用した情報提供や刊行物、マスメディア (紙・電波媒体、ネット) による情報発信を行った。	新聞等のマスメディアへの露出機会を増やすために、きめ細やかな情報提供に努めた。また、「おうちでかながわけんぱく」等のオンラインでの情報発信も引き続き継続した。	690件 【内訳】 ・HP (Twitter含む)：433件 ・特等チラシ・ポスター：10件 その他：243件 (新聞：133、雑誌：27、テレビ：13、ラジオ：7、WEB：57、その他：6) ・催し物のご案内：1件 ・博物館だより：3件	—	—	—	—	—
(3) 芸術家等の育成等に関する支援等								
ア芸術家や文化芸術を支える活動を行う者の育成								
024 神奈川文化賞・未来賞等による顕彰の実施								
神奈川文化賞・未来賞表彰事業	神奈川県在住、在職又は神奈川に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を贈呈した。 2001年度に、神奈川文化賞の第50回を記念し、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に贈呈するために「未来賞」を創設した。	3年振りに一般県民を招待したスタイルでの贈呈式を開催するに当たり、使用する施設の新型コロナウイルス感染症の予防対策ガイドラインを遵守するなど、感染症拡大防止対策を十分に講じた。	1,419人	2022年11月3日	神奈川県民ホール大ホール	受賞者6人 (文化賞：4人、未来賞：2人)	—	—
025 舞台技術者等の文化芸術を支える者の研修等による育成支援								
2022年度劇場運営インターン(KAAT神奈川芸術劇場)	現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業政策・劇場運営の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供した。	劇場運営のインターンは、現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業制作・劇場運営の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供した。昨年度は、社会連携ポータル課職員や制作スタッフの指導の下、KAAT神奈川芸術劇場で上演されたKAATキッズ・プログラム2022「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」の公演制作やワークショップの運営業務に携わり、劇場運営の就業体験を行った。	5人	2022年 7月18日～7月24日	KAAT神奈川芸術劇場	—	—	重点施策2
室内オペラ・制作広報インターン事業の実施	室内オペラ制作と広報を軸に公共ホールでの事業実習を含むインターンシップを実施した。	音楽堂室内オペラ・プロジェクトの一環として音楽堂公式アカウントでインターンによる広報SNS発信、オペラの衣装のパネルを制作して会場ロビーに展示する等を行った。また、座学を充実させ、アートマネジメントへの幅広い知見を得る機会となるよう工夫を行った。	2人	2022年9月6日～11月1日	音楽堂	—	—	重点施策2
昭和音楽大学寄付講座	昭和音楽大学と連携し、劇場職員による講義を実施した。	大学院の「音楽マネジメント特殊講義VI」の講義を実施した。	23人	2022年11月13日 2022年11月27日 2023年1月8日 2023年1月9日	県民ホール本館、KAAT神奈川芸術劇場、昭和音楽大学	—	—	重点施策2
劇場体験インターン事業	公共ホールでの文化事業の実習として、音楽事業制作と施設運営の両面を学び・体験する事業を実施した。	公立文化施設における文化事業を学ぶため、座学で学んだうえで、制作の現場を体験する内容とした。	6人	2022年12月19日～2023年1月10日	県民ホール本館	—	—	重点施策2
大学等と連携した人材養成プログラム(県民ホール)	東京音楽大学と連携して、学生たちと教員が声楽、弦楽、ピアノ等を案内する形での人材育成を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	30人	2023年3月5日	県民ホール本館	—	—	重点施策2
劇場運営マネジメント講座	県内の劇場・文化施設の施設利用担当者を主な対象とし、専門性を高く設定した人材育成講座を実施した。	①これからのインクルーシブ社会と公立文化施設の取組、②利用業務の能力をブラッシュアップする「基本を学びなおす」の2つの講座を実施した。	50人	①2023年2月22日 ②2023年3月20日	県民ホール本館	—	—	重点施策2
026 新進芸術家等の育成支援の検討								
プロフェッショナルアーティスト養成事業(県民ホール)	県民ホールで実施する公演のオーディション等により、若手芸術家を養成する事業を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	①27人 ②4人	①2022年4月29日 ②2022年8月3日	県民ホール本館	—	—	重点施策2
創作環境と劇場の未来を考え、劇場の創造活動の核を育てていく取組「カイハツ」	劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指し、クリエイションのアイデアをカイハツするプロジェクトとして、2021年度より開始した。	企画・人材カイハツ、創作プロセスカイハツ、戯曲カイハツの3柱を設け、創作環境と劇場の未来を考える企画とした。	52人	2022年4月1日～2022年12月9日 6企画	KAAT神奈川芸術劇場	劇場ホームページにおいて、この取組と実施内容について広報を行った。	—	重点施策2

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
第38回かながわ音楽コンクール	神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、オーケストラとの共演を通じて一層の育成を図る目的で、2022年8月20日に入賞者を対象としたクリスタルコンサート、10月2日に上位入賞者によるトップコンサートを実施した。	—	参加者数：936人 鑑賞者数：延べ1,300人 (クリスタルコンサート及びトップコンサートの鑑賞者数：444人)	①クリスタルコンサート：2022年8月20日 ②トップコンサート：2022年10月2日 コンクール全体は2022年3月20日～12月3日	①クリスタルコンサート：横浜市緑区民文化センター「みどりアートパーク」 ②トップコンサート：神奈川県立音楽堂	—	再掲	重点施策2
イ創作のための環境の整備								
027県立文化施設の練習・稽古等での活用								
マグカルシアター等	主に若手の舞台芸術団体や個人に青少年センター スタジオ「HIKARI」及びかながわアートホールを公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	感染症拡大防止対策を取りながら、集客公演を実施した。	8,357人	2022年4月～2023年3月	青少年センター スタジオ「HIKARI」、かながわアートホール	個性の異なる2つの会場を拠点としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。	再掲	重点施策2
マグカルシアター出演団体等の上演作品制作支援事業	マグカルシアターに出演が決定した団体等を対象に、演劇資料室や稽古場の提供を通して作品制作に関する課題解決を支援し、上演作品の質的向上を図った。	—	研修室利用者 99団体 1,440人	通年	青少年センター	—	再掲	重点施策2
028新進芸術家の創作環境支援の検討								
2022年度は実施しませんでした。								
ウ創造的活動の成果を発表する機会の確保								
029県美術展の開催								
第57回神奈川県美術展	全国公募による美術展を実施し、作品発表の機会を提供し創作活動の支援を図るため、公募美術展を開催した。また、障がい者の文化芸術の鑑賞及び創作活動の機会創出のため、ともいきアートサポート事業の一環としてともいきアート展を開催した。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。オンラインでの展示を実施した。	応募点数：1,084点 応募人数：753人 入選者数：337人 入賞者数：41人 入場者数：3,707人 来場者数 ・1期展 1,474人 ・2期展 1,859人 ・厚木展 374人 オンライン展示再生回数(3月末) ・平面 187回 ・立体 77回 ・工芸 186回 ・書 42回 ・写真 87回 ・ともいきアート 83回	応募作品搬入：【工芸・書・写真部門】2022年7月2日、3日 【平面立体部門】2022年7月9日、10日 展覧会：2022年9月7日～10月2日(うち2日休・開催24日間)	神奈川県民ホール ギャラリー	—	再掲	重点施策2
030文化芸術団体との連携による新進芸術家を起用した演奏会等の開催								
第17回フレッシュ・コンサート	次世代を担うと期待される神奈川県ゆかりの才能ある若手奏者を広く県民に紹介し、オーケストラとの共演を通じてその才能の一層の育成を図った。	—	492人	2023年1月9日	音楽堂	—	再掲	重点施策2
031県立文化施設主催事業における新進芸術家の積極的登用								
プロフェッショナルアーティスト養成事業(県民ホール)	県民ホールで実施する公演のオーディション等により、若手の芸術家を養成する事業を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	①27人 ②4人	①2022年4月29日 ②2022年8月3日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策2
032新進芸術家の発表機会支援の検討								
マグカル開放区	県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「開放区」を実施した。	2022年10月より、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら再開。計11回実施。	出演者数：400人 参加者数：35,088人	10/2、10/23、11/6、12/4、12/25、1/15、1/29、2/5、2/19、3/5、3/19	県庁前日本大通り	—	再掲	重点施策2
アカデミー登録制度	マグカル・パフォーミングアーツ・アカデミーの履修生による登録制グループを結成し、県の広報媒体への出演等により、活動の場を提供する。	多様な活動機会が提供できるよう、予算や活動条件を柔軟に対応できるように実施要領を定めている。	10人(登録者数)	①2022年4月27日 ②2022年5月10日 ③2022年11月12日 ④2023年1月8日 ⑤2023年3月12日	①青少年センター ②神奈川県庁 ③横浜アリーナ ④神奈川県総合高校 ⑤県民共済みらいホール	—	—	重点施策2
(4)文化芸術団体の育成等								
ア文化芸術団体の育成・支援、連携・協働の推進								
033文化芸術団体への助成等による支援								
神奈川県文化芸術活動団体事業補助金	県内の文化芸術活動団体が行う事業に対して、公募により補助金を交付した。	2019年度から、「伝統芸能枠」「青少年枠」に「高齢者枠」、「障がい者枠」を設け、門戸を広げて募集を行った。また、実地調査報告を公益財団法人神奈川県文化財団に一部委託し、専門的見地からの報告を行った。	要望団体数：72件 助成団体数：37件 助成金交付額：7,857千円	交付申請書の提出期限：2022年2月17日～2022年3月15日(電子申請) 審査会(Zoomによるオンライン開催)：2022年4月7日 交付決定通知書の送付：2022年4月28日～6月15日	—	—	再掲	—
マグカル展開促進補助金	県が推進する「マグカル」の展開促進のため、民間団体が行う文化芸術の新たな事業に要する経費に対し、予算の範囲内において補助金を交付した。	補助率3分の1以上上限額100万円、ただし重点事業は特に展開を促進するため、補助率及び上限額の特認を設けた。	要望団体数：178件 助成団体数：42件 採択額：46,389千円 参加者数：51,342人 オンライン視聴者数：23,461人	1次募集：2022年2月17日～3月28日募集、4月28日交付決定 2次募集：2022年6月1日～7月11日募集、8月24日及び9月14日交付決定	—	—	—	—
034文化芸術団体の活動に対する後援								
文化芸術団体の活動に対する後援	文化芸術団体等が主催する、県内において実施する事業について、県の文化芸術の振興に寄与すると認められるものに、神奈川県の後援名義の使用を承認した。	—	後援名義の使用承認実績：136件	—	—	—	—	—
神奈川県文化プログラム認証制度	県内で実施する事業・活動について、一定の要件を満たすものを神奈川県文化プログラムとして認証した。	—	認証件数：605件	—	県内全域	—	—	—
かながわ県民文化祭	9月から12月を「県民文化祭」の期間に位置付け、期間中に県、市町村、民間団体等の文化事業を一体的かつ効果的に広報を行うことで、県民が県内各地の様々な文化芸術活動に参加し、楽しみ、その活動を通じて、地域のにぎわい・つながりを作ることを目指す。	県の媒体を活用した広報活動を実施するとともに、twitterを活用したリツイートキャンペーンを実施し、事業の周知を図った。	参加プログラム数：235件	—	県内全域	—	—	—
035県実施事業等における文化芸術団体との連携・協働の推進								

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	80人	①2022年7月23日、24日 ②2022年7月28日、29日 ③2022年8月9日、10日 ④2022年8月20日、21日	①南足柄市文化会館 ②横須賀市文化会館 ③県立青少年センター ④秦野市立本町公民館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、46名(回答者数)から「とても満足・やや満足」との回答があった。	再掲	重点施策5
相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	①239人 ②226人 ③191人 ④160人	①2022年9月27日 ②10月25日 ③11月7日 ④12月8日	①座間総合高等学校 ②足柄高等学校 ③中央農業高等学校 ④平塚中等教育学校	—	再掲	重点施策5
能楽ワークショップ	小学生とその保護者を対象に、謡曲・楽器の体験や能の鑑賞のワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	①28人 ②33人	①2023年3月12日・20日 ②2023年3月4日・25日	①松山能舞台、相模女子大学グリーンホール ②県立青少年センター練習室、茅ヶ崎市総合体育館オーケストラ練習室	—	再掲	重点施策5
かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟6団体参加し、創作太鼓の演奏を披露した。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	316人	2022年11月13日	県立音楽堂	—	再掲	重点施策5
相模人形芝居大会	国指定重要無形民俗文化財または県指定重要無形民俗文化財に指定されている相模人形芝居の5座が一堂に介しての合同公演を開催した。	50回目の開催を記念して、徳島県の阿波人形浄瑠璃 平成座が特別出演した。	出演団体数：6団体 観覧者：1,358人	2023年2月12日	厚木市文化会館	—	再掲	重点施策5
カナガワリ・古典プロジェクトin相模原	県内の古典芸能や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、将来にわたり継承していくという機運につなげていくことを目指し、邦楽等のワークショップや民俗芸能団体の演目等の公演を実施。	ワークショップに先立ち、学校などと連携し、わかりやすいテキストや動画を通して、事前に子どもたちが邦楽や民俗芸能に触れることができるような工夫をし、イベントの周知を行った。	来場者数：799人	ホール公演：2023年2月4日～5日	社のホールはしもと	—	再掲	重点施策5
青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演する。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮した。	27人	2022年5月～8月 ※稽古のみ。公演(8月10日～14日)は関係者のコロナ感染により中止	青少年センター	演劇に興味のある青少年が気軽に演劇に触れ、その能力を高められる場であり、参加者の満足度も高い	再掲	重点施策5
かながわ短編演劇アワード2023	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマを「ともに生きる」とした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：33団体 短編戯曲：98作品 22世紀飛翔枠：5団体 【来場者数】 本戦：251人 ライブ視聴者数(瞬間最多視聴者数)61人 22席飛翔枠選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：61人	本戦：2023年3月25日～26日 22世紀飛翔枠選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：2023年1月8日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22世紀飛翔枠選抜大会(県内高校生枠選抜大会)：県立神奈川総合高等学校	—	再掲	重点施策5
共生共創事業	シニア劇団やシニアダンス企画の運営、障がい者等が参加する舞台公演等を実施した。	感染症拡大防止対策をしながら集客公演を実施するとともに、動画配信の手法も活用し、共生社会の理念を普及した。	8,152人 再生回数：27,575回 公演回数：35回	2022年4月～2023年3月	オンライン、横須賀市立青少年会館、かながわアートホール、綾瀬市オーエンス文化会館、小田原三の丸ホール、県民共済みらいホール、ヨコスカ・ベイサイド・ポケット、赤レンガ倉庫	2021年度に制作した映像作品について、デジタルえほんアワード準グランプリ及び日本映像グランプリ優秀科学技術賞を受賞	—	重点施策5
かながわミュージカルアワード2023	県内の伝説・民話・トレンドなどを題材にした、90分程度の作品による地域色豊かなミュージカルアワードを開催するもの。	2団体各45分の上演時間を、1団体90分目安の公演とした。	【応募数】 7団体 【来場者数】 本戦：178人	2023年3月12日	県民共済みらいホール	—	再掲	重点施策5
県営団地におけるシニア合唱事業	県営団地において、住民等を対象に合唱事業を行う。	合唱のレッスンを始めるにあたって、まず音楽に親しむためにコンサート、歌声広場、合唱と段階を踏んで実施	2,035人	2021年4月～2022年3月	各県営団地(10か所)	桜美林大学と覚書を締結し、学生をインターンシップとして本事業に派遣。学生は運営を支援。2団地は3月に大会議場にて成果発表会を実施	—	重点施策5
歌舞伎鑑賞教室	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	今年度から親子券を導入した。また、藤沢市の協力により藤沢市内の全小中学生一人ひとりにチラシを配布した。	703人	2022年6月25日、26日 全2公演	藤沢市民会館大ホール	アンケートでは、2公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると96.8%にのぼった。	再掲	重点施策5
人形浄瑠璃文楽	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、人形浄瑠璃文楽を上演した。	国立劇場が保有している「文楽入門」という9枚のパネルをホワイトに展示した。	652人	2022年10月15日 全2公演	ひらしん平塚文化芸術ホール大ホール	アンケートでは、2公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると98.0%にのぼった。	再掲	重点施策5
かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	単発で短時間のWSだけではなく、複数回のWSを経て成果発表まで行うWSを実施することで、参加することも達の成長や達成感を高めた。	909人	メインプログラム 2023年2月23日 事前ワークショップ(講談・日本舞踊・ちょうちん) 2023年1月21日、22日、29日、2月19日	小田原三の丸ホール(大ホール、小ホール、スタジオ)	・地元市の小中学校全校生徒へのチラシ配布や駅貼りポスター、デジタルサイネージ利用、新聞ミニコミ誌への記事掲載、ケーブルテレビの活用等、多彩な広報手段を活用し、前年度よりも来場者が増えた。 ・神奈川新聞文化部の取材記事が掲載された。	再掲	重点施策5

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
マグカルシアターステップアップ公演事業	マグカルシアター上演団体に代表される若手の舞台芸術団体のうち、将来的に鑑賞事業としてのクオリティに耐えられる作品を制作するステップアップのための公演の機会を提供するとともに、青少年が優れた舞台芸術作品（劇団820製作所「なぜか」）に触れる機会を提供する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	—	—	—	—	—	—	重点施策5
036文化芸術団体相互の連携の促進								
かながわ民俗芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に介して、民俗伝統芸能を披露している。 ※2022年度は会場であるはまぎんホール休館に伴い中止。	—	—	—	—	—	再掲	重点施策5
かながわ児童劇グループ交流会(かながわ人形劇フェスティバル)	地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供する事業として実施した。	出演団体の募集について、高校や短大で活動している複数の人形劇サークルにも出演協力の依頼を行った。	372人	2023年2月18日、19日 全4公演	青少年センタースタジオHIKARI	出演団体の熱心な意見交流が行なわれ、実のある交流会となった。	再掲	重点施策5
(5)子どもの文化芸術活動の充実								
ア文化芸術の鑑賞機会の提供								
037学校等と連携したアウトリーチの展開								
音楽堂アウトリーチ事業	①「先生のためのアウトリーチ」アーティストが地域単位の教員の勉強会「教科研究会」等に講師として訪問し、教員が生徒役となって授業のヒントとなるワークショップを行う形式や、子どもたちを相手にしたモデル授業を視察し、その後気付きを総括するディスカッションを行う形式でのアウトリーチを行った。 ②「子どものためのリハーサル見学」音楽堂共催の神奈川フィル公演当日のリハーサルを小学生～高校生とその保護者に無料で公開した。	①希望する地域に事前訪問し、扱う題材やレベルなどについて講師とともに丁寧にヒアリングして一つのプログラムを創り上げた。 ②オーケストラ事務局、指揮者によるお話、質疑応答タイムなどで、深い理解を促進した。	①257人 ②254人	①2022年6月8日～12月21日 ②2022年7月9日、2023年1月7日	①座間市立相模野小学校、茅ヶ崎市立浜須賀小学校、座間市立東原小学校、ほか ②神奈川県立音楽堂	①記録動画を撮影してダイジェスト版を制作した。今後の参加を検討する教員が閲覧できるよう社会連携ポータルサイトに掲載予定。 ②実施後、音楽堂HPに子どもたちから質問と答えを全文紹介した。	—	重点施策2
神奈川フィル学校出張コンサート	公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団が、県内特別支援学校や小学校、病院等を対象に、学校出張コンサートを実施した。	各楽器の音色の違いや特徴が分かるように楽器紹介のコーナーを設けた。	—	2022年4月～7月（30回実施）	県内の特別支援学校、小学校、中学校、病院	—	—	重点施策2
038県立文化施設での子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施								
KAATキッズプログラム2022「さいごの1つ前」	作・演出は、本作で自身初のキッズ・プログラムを手がける松井周が努め、コロナ禍が生んだ閉塞感や圧迫感に風穴を開ける、驚きと可笑しみのある作品を提供した。	公演前に、作品内に登場する”すてきな地獄”の創作ワークショップをおこない、子供たちがものづくりを体験する機会を創出できただけでなく、演出家・各プランナーの創作のヒントともなり、新たなクリエイションの形となった。	1,639人	2022年8月10日～21日	KAAT神奈川芸術劇場	—	—	重点施策2
子どもと大人の音楽堂<子ども編>「せいかいほともちち！」	夏休みの子どもの音楽体験企画。 多文化共生をテーマに、舞台、ホワイエでのパフォーマンスのほか、リハーサル室での太鼓ワークショップ、ホワイエでの工作ワークショップ、様々な言語による絵本コーナー設置、読み聞かせなど多様な体験ができるワンデイフェスティバル。	神奈川、横浜の多文化環境に留意し、横浜市国際交流協会の協力で英語、中国語、ポルトガル語の言語サポーターを配置して、当日は多言語場内アナウンスを行うだけでなく、チラシや公立小学校への保護者向けレターも多言語表記にするなど、これまでにない踏み込んだサービスを行った。	1,230人（延べ）	2022年8月6日	音楽堂	「紅葉ヶ丘まいらん」参加館と連携し、太鼓ワークショップ、ステージでの仕舞等は横浜能楽堂による、工作ワークショップは横浜市民ギャラリー、外国の絵本コーナーは県立図書館、横浜市中央図書館の協力によるプログラム構成を実現した。	—	重点施策2
子どもと大人の音楽堂<大人編>「音楽堂のピクニック」	若い子育て世代から高齢者まで幅広い年齢層の方々が、ホワイエやステージ等音楽堂全体で映像、電子楽器等も含めて多彩に繰り広げられるパフォーマンスやサウンドインスタレーションを、出入り自由で楽しめるワンデイ音楽フェスティバル。	ステージだけでなくホワイエや開場前の音楽堂周辺でのパフォーマンスなど、音楽堂の施設全体を活用し、実施。 下欄「紅葉ヶ丘まいらん」と連動して一部時間で「まいらん」の参加者をホワイエ無料入場可とし、更に横浜能楽堂第二舞台会場も設営し、サウンドインスタレーションを展示した。	337人	2023年3月4日	音楽堂、横浜能楽堂第二舞台（※下欄「紅葉ヶ丘まいらん」連携プログラム）	夜間に「ヘリテージ・コンサート」の一環として実施した「テリ・ライリースペシャルライブ」とも連携しセット券販売等も行った。公演で一部使用した映像を独立した映像作品としてWEBでも発信予定。	—	重点施策2
オープンシアター2022	県民ホールにて、ホールを身近に感じてもらう取組として、オープンシアターを開催した。	バックステージツアーや無料ロビーコンサート等も実施した。	1,986人	2022年8月20日	県民ホール本館	大ホール公演では、国内初のパレエ公演における視覚障がい者向け音声ガイドに取り組んだ。	—	重点施策2
「子どもたちの音楽芸術体験事業」神奈川フィル・ゆめコンサート	神奈川フィルによる実演指導やオーケストラとの共演を通じ、本物の芸術に触れる機会を提供することにより、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を育むことを目的として実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により演奏会が全て中止となった。	新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらワークショップによる音楽指導と演奏会を組み合わせた独自の企画を行った。	ワークショップ：350人 演奏会：825人	ワークショップ：2022年7月1日、12日 演奏会：2022年9月27日～30日	ワークショップ：海老名市立上星小学校、逗子市立小坪小学校、秦野市立上小学校、松田町立松田小学校 演奏会：海老名市立上星小学校、逗子市立小坪小学校、	—	—	重点施策2
赤ちゃんコンサート	子育て支援事業として、子育て中の親子を対象としたランチタイムコンサートの内容を一部変更して実施した。	乳幼児・未就学児の同伴を可能とし、気兼ねなく親子で楽しめるコンサートを実施した。	入場者：191人 視聴者数ライブ：24 7-ライブ：972	2023年2月11日	かながわアートホール	—	再掲	重点施策2
神奈川フィル・カジュアルコンサート	神奈川フィル・ジュニア管弦オーケストラ修了公演の第二部として、神奈川フィルによるカジュアルコンサートを実施した。	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、無観客ライブ配信で実施した。	入場者（ジュニオケと同一）：168人 視聴者数ライブ：61 7-ライブ：1,253	2023年3月30日	かながわアートホール	—	再掲	重点施策2

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
歌舞伎鑑賞教室	文化芸術の鑑賞機会の充実と活動の場づくりの一環として、県民の伝統文化への理解を促進し、継承、発展への機運を盛り上げるために、青少年・一般県民を対象に、歌舞伎を上演した。	今年度から親子券を導入した。また、藤沢市の協力により藤沢市内の全小中学生一人ひとりにチラシを配布した。	703人	2022年6月25日、26日 全2公演	藤沢市民会館大ホール	アンケートでは、2公演を通算して「大変良かった」「良かった」を合わせると96.8%にのぼった。	再掲	重点施策2
かながわ児童劇グループ交流会(かながわ人形劇フェスティバル)	地域で人形劇などの児童文化活動を行っているアマチュアグループに活動成果の発表と相互交流の場を提供する事業として実施した。	出演団体の募集について、高校や短大で活動している複数の人形劇サークルにも出演協力の依頼を行った。	372人	2023年2月18日、19日 全4公演	青少年センタースタジオHIKARI	出演団体の熱心な意見交流が行なわれ、実のある交流会となった。	再掲	重点施策2
青少年芸術劇場	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供して舞台芸術に対する理解を深め、教養の向上を通じて豊かな人間性を育むとともに、県民に鑑賞する機会を提供し、舞台芸術の普及を図ることを目的に、演劇及び舞踊の鑑賞会(ニブロール「距離のない旅」)を実施した。	初めての周遊型の企画であり、また、作品としても、特徴的な映像と共に、前半は演劇、後半はダンスの要素が強くなるという、これまでにない個性的な作品となった。	アンサンブル出演12人+本番168人	2022年7月22日～7月24日 全5公演	青少年センター交流スペース、2Fパルコニー、スタジオHIKARI	・アンサンブル出演者として公募した高校生達にプロの舞台に立つかけがえのない機会を提供した。 ・神奈川新聞文化部の取材記事が掲載された。 ・冊子「舞踊年鑑2022」にカラー写真で掲載された。		重点施策2
県立金沢文庫における子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	小学校高学年を対象に、称名寺と金沢文庫についての学習事業を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	—	—	—	—	—		重点施策2
県立近代美術館における子どもたちを対象とした鑑賞事業の実施	18歳以下の来館者への「夏のたね(おたのしみと学びのセット)」の無償配布とそれを用いたワークショップの実施	オリジナルの配布教材を開発した。	教材配布数：889個	教材配布時期：2022年7月18日～8月27日 ワークショップ参加者：計47人	教材配布場所：葉山館、鎌倉別館	—		重点施策2
県立歴史博物館における子どもたちを対象とした鑑賞事業等の実施	子ども向け催し物2本を開催するとともに、近隣館と共同企画した夏休み子ども向けイベント「ミュージアムミッション」をWEBと実地の併開催とした。また、子ども向けサイト「おうちでかながわけんぱく」に継続的にコンテンツを追加した。	新型コロナウイルス感染防止対策の観点からWEBで実施していたミュージアムミッションについてWEBと実地の併開催にした。また、「おうちでかながわけんぱく」に継続的にコンテンツを追加した。	【参加者】子ども向け催し物：18人 【閲覧者】ミュージアムミッション：4,003pv(実施期間中) 【実来館者】147人	ミュージアムミッション 2022年7月21日～8月31日 他	県立歴史博物館	—		重点施策2
039文化芸術団体との連携による子どもたちを対象とした音楽体験事業等の実施								
巡回オペラの実施	子ども対象としたオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を上演した。	県民ホール本館での実施に加え、県域の文化施設に出張して子ども向けの名作オペラを実施し、幅広い県民の鑑賞ニーズに対応した。	1,446人	①2022年11月26日、27日 ②2022年12月3日 ③2023年1月22日 ④2023年3月12日	①県民ホール本館 ②寒川町民センターホール ③もみじホール城山多目的ホール ④鎌倉芸術館 小ホール	—	再掲	重点施策2
神奈川フィル・ジュニア管弦オーケストラ2023(第6期生)	小学4年生～高校3年生の子どもたちがアートホールに集い、神奈川フィル団員の指導を経て神奈川フィルと共演する。感染症対策のため、弦楽器のみで規模を縮小して実施した。	受講生が楽器ごとに分かれて行うパート練習やそれぞれの合奏練習を行った。	受講者数：16人 入場者：168人 視聴者数ライブ：57 7-ライブ：998	2023年3月30日	かながわアートホール	—	再掲	重点施策2
かなフィルランド・夏休みファミリーコンサート	神奈川フィルによるコンサートや打楽器演奏。	子どもにも親しみやすい選曲や、楽器紹介などを実施し、ファミリーで音楽・芸術に親しみ、アートホールに親んでもらった。	入場者：207 視聴者数ライブ：94 7-ライブ：2,361	2022年8月21日	かながわアートホール	—		重点施策2
神奈川フィルハーモニー管弦楽団公開リハーサル	アートホールで行う神奈川フィルのリハーサルを無料公開した。	希望者にはヘッドホンを貸出し、指揮者の声が聞こえ、オーケストラが「音楽を創る」様子を楽しむことができる工夫をした。	523人	毎月(不定期)	かながわアートホール	—		重点施策2
040県立近代文学館での児童文学を題材とした展覧会等の実施								
企画展「堀内誠一 絵の世界」	「anan」「BRUTUS」「Olive」など有名雑誌のロゴやデザインを手がけ、時代をリードするデザイナー、アートディレクターとして活躍する一方、「ぐるんぱのようちえん」「たろうのおでかけ」などの数多くの名作絵本を生み出した堀内誠一(1932～1987)。生誕90年を記念して、その画業全般を回顧した。	県内の小学校、図書館への広報に力を入れた。	11,500人	2022年7月30日～9月25日	神奈川近代文学館	—		重点施策2
ギャラリートーク企画展「堀内誠一 絵の世界」	企画展「堀内誠一 絵の世界」に即した内容の展示説明会を実施した。	—	84人	企画展企画展「堀内誠一 絵の世界」会期中の金曜日計3回。	神奈川近代文学館	観覧者が、展示担当者へ直接質問する場ともなった。		重点施策2
朗読コンサート「岡本かの子の世界」	神奈川近代文学館のホール等の会場を利用して、常設展に即した内容の朗読コンサートを開催した。	—	173人	2022年9月23日	神奈川近代文学館	朗読コンサート後、多くの参加者が展覧会場にも入場してくれた。		重点施策2
イ文化芸術活動の体験機会の充実								
041子どもを対象とした公募美術展開催等の創作活動の支援								
第57回神奈川県美術展中高生特別企画展	青少年の作品発表の機会の提供、創作活動の支援及び県美術展の活性化を図るため、県美術展と併催し、公募美術展を開催した。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	応募点数：457点 応募人数：347人 入選者数：87人 入賞者数：18人 来場者数 3,333人 オンライン展示再生回数 50回	応募作品搬入：2022年7月2日、3日 展覧会：2022年9月7日～10月2日(うち2日休・開催24日間)	神奈川県民ホールギャラリー	—		重点施策2
042文化芸術団体との連携・協働による子どもたちの文化芸術活動の推進								
巡回オペラの実施	子ども対象としたオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を上演した。	県民ホール本館での実施に加え、県域の文化施設に出張して子ども向けの名作オペラを実施し、幅広い県民の鑑賞ニーズに対応した。	1,446人	①2022年11月26日、27日 ②2022年12月3日 ③2023年1月22日 ④2023年3月12日	①県民ホール本館 ②寒川町民センターホール ③もみじホール城山多目的ホール ④鎌倉芸術館 小ホール	—	再掲	重点施策2
043青少年センター、藤野芸術の家での文化芸術を体験する機会の提供								
青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演する。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮した。	27人	2022年5月～8月 ※稽古のみ。公演(8月10日～14日)は関係者のコロナ感染により中止	青少年センター	演劇に興味のある青少年が気軽に演劇に触れ、その能力を高められる場であり、参加者の満足度も高い	再掲	重点施策2

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
青少年芸術劇場	青少年に優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供して舞台芸術に対する理解を深め、教養の向上を通じて豊かな人間性を育むとともに、県民に鑑賞する機会を提供し、舞台芸術の普及を図ることを目的に、演劇及び舞踊の鑑賞会（ニブロール「距離のない旅」）を実施した。	初めての周遊型の企画であり、また、作品としても、特徴的な映像と共に、前半は演劇、後半はダンスの要素が強くなるという、これまでにない個性的な作品となった。	アンサンブル出演12人+本番168人	2022年7月22日～7月24日 全5公演	青少年センター交流スペース、2Fパルコニー、スタジオHIKARI	・アンサンブル出演者として公募した高校生達にプロの舞台に立つかけがえのない機会を提供した。 ・神奈川新聞文化部の取材記事が掲載された。 ・冊子「舞踊年鑑2022」にカラー写真で掲載された。	再掲	重点施策2
藤野芸術の家での文化芸術を体験する機会の提供	【体験事業】 多くの方が気軽に陶芸やガラス工芸などの芸術体験を親しむための常設事業、募集型の体験事業や季節限定体験事業を実施した。 【活動支援事業】 地域と連携して、絵画や写真等の展示・芸術活動発表の場を提供した。なお、新型コロナウイルスの影響により中止だった藤野村歌舞伎公演は3年ぶりに実施し、藤野席書き大会も感染対策を講じて実施した。地元講師を迎えた工芸講座は、参加者の接する時間が長時間になるため、新型コロナウイルス感染症防止のため、中止した。	【体験事業】 体験事業では、季節に合った期間限定メニューの実施のほか、昨年度人気のあったメニューに新たな体験メニューを追加して実施するなど、何回でも新たな体験を楽しめる工夫を行った。 【活動支援事業】 活動支援事業では、地域人材や資源を活用し、藤野村歌舞伎公演は人数を制限し、予約制で実施した。また、藤野席書き大会も換気を十分にするなど、感染対策を講じて実施した。	【体験事業】 体験事業合計27,219人 木工体験 8,405人 陶芸体験 5,571人 ガラス工芸等13,243人 【活動支援事業】 活動支援事業合計529人 絵画等展示 613人	【体験事業】 通年 【活動支援事業】 通年 絵画等展示	藤野芸術の家	体験活動事業において、夏休みに自由研究に適した教室「ガリレオ温度計作り」一日2回を実施し好評だった。		重点施策2
044伝統芸能ワークショップの実施								
日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	80人	①2022年7月23日、24日 ②2022年7月28日、29日 ③2022年8月9日、10日 ④2022年8月20日、21日	①南足柄市文化会館 ②横須賀市文化会館 ③県立青少年センター ④秦野市立本町公民館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、46名（回答者数）から「とても満足・やや満足」との回答があった。	再掲	重点施策2
相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	①239人 ②226人 ③191人 ④160人	①2022年9月27日 ②10月25日 ③11月7日 ④12月8日	①座間総合高等学校 ②足柄高等学校 ③中央農業高等学校 ④平塚中等教育学校	—	再掲	重点施策2
能楽ワークショップ	小学生とその保護者を対象に、謡曲・楽器の体験や能の鑑賞のワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	①28人 ②33人	①2023年3月12日・20日 ②2023年3月4日・25日	①松山能舞台、相模女子大学グリーンホール ②県立青少年センター練習室、茅ヶ崎市総合体育館オーケストラ練習室	—	再掲	重点施策2
045県立近代文学館での子どもたちが読書に親しむための事業の実施								
かなぶんキッズクラブ（紙芝居、映画会、絵本の読み聞かせ等）	子どもの長期休み期間に合わせて「かなぶんキッズクラブ」として紙芝居、映画会を実施した。	イベントの定員は、通常に戻した。	523人	①紙芝居：2022年8月5日 ②子ども映画会：2022年8月18日、19日 ③読み聞かせ：2022年8月27日 ④紙芝居：2023年3月29日 ⑤子ども映画会：2023年3月30日	神奈川近代文学館	紙芝居のオンライン公開では累計1,012件の視聴があった。	再掲	重点施策2
046子どもを対象とした民俗芸能フェスティバルの開催								
かながわ伝統文化子ども歳時記	子どもとその保護者を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	単発で短時間のWSだけではなく、複数回のWSを経て成果発表まで行うWSを実施することで、参加することも達の成長や達成感を高めた。	909人	メインプログラム 2023年2月23日 事前ワークショップ（講談・日本舞踊・ちょうちん）2023年1月21日、22日、29日、2月19日	小田原三の丸ホール（大ホール、小ホール、スタジオ）	・地元市の小中学校全校生徒へのチラシ配布や駅貼りポスター、デジタルサイネージ利用、新聞ミニコミ誌への記事掲載、ケーブルテレビの活用等、多彩な広報手段を活用し、前年度よりも来場者が増えた。 ・神奈川新聞文化部の取材記事が掲載された。	再掲	重点施策2
「親子で楽しむ伝統芸能！乙女文楽と義太夫節」	「横浜紅葉ヶ丘まいらん春祭り」において伝統人形芝居である乙女文楽のミニ公演を行った後、気軽に親子で楽しめる人形や義太夫節の語りや三味線のワークショップを実施した。	ミニ公演の後に身近に学べるワークショップを開催した。	ミニ公演53人 ワークショップ 人形操作26人、義太夫節6人、三味線演奏10人 計42人	2023年3月4日	青少年センタースタジオHIKARI	—	再掲	重点施策2
(6)学校教育における文化芸術活動の充実								
ア文化芸術に関する体験学習等の充実								
047文化芸術団体との連携による音楽体験事業等の実施								
神奈川フィル学校出張コンサート	公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団が、県内特別支援学校や小学校、病院等を対象に、学校出張コンサートを実施した。	各楽器の音色の違いや特徴が分かるように楽器紹介のコーナーを設けた。	—	2022年4月～7月（30回実施）	県内の特別支援学校、小学校、中学校、病院	—	再掲	重点施策2
「子どもたちの音楽芸術体験事業」神奈川フィル・ゆめコンサート	神奈川フィルによる実演指導やオーケストラとの共演を通じ、本物の芸術に触れる機会を提供することにより、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を育むことを目的として実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により演奏会が全て中止となった。	新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながらワークショップによる音楽指導と演奏会を組み合わせた独自の企画を行った。	ワークショップ：350人 演奏会：825人	ワークショップ：2022年7月1日、12日 演奏会：2022年9月27日～30日	ワークショップ：海老名市立上星小学校、逗子市立小坪小学校、秦野市立上小学校、松田町立松田小学校 演奏会：海老名市立上星小学校、逗子市立小坪小学校、	—	再掲	重点施策2
048かながわ伝統芸能祭などの伝統芸能普及振興事業の実施								
日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	80人	①2022年7月23日、24日 ②2022年7月28日、29日 ③2022年8月9日、10日 ④2022年8月20日、21日	①南足柄市文化会館 ②横須賀市文化会館 ③県立青少年センター ④秦野市立本町公民館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、46名（回答者数）から「とても満足・やや満足」との回答があった。	再掲	重点施策2
相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演等を行うワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	①239人 ②226人 ③191人 ④160人	①2022年9月27日 ②10月25日 ③11月7日 ④12月8日	①座間総合高等学校 ②足柄高等学校 ③中央農業高等学校 ④平塚中等教育学校	—	再掲	重点施策2

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
かながわ民俗芸能祭	県内各地で活動中の県民俗芸能保存協会加盟団体等が一堂に介して、民俗伝統芸能を披露している。 ※2022年度は会場であるはまぎんホールは休館に伴い中止。	—	—	—	—	—	再掲	重点施策2
かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	単発で短時間のWSだけではなく、複数回のWSを経て成果発表まで行うWSを実施することで、参加することも達の成長や達成感を高めた。	909人	メインプログラム 2023年2月23日 事前ワークショップ（講演・日本舞踊・ちょうちん）2023年1月21日、22日、29日、2月19日	小田原三の丸ホール（大ホール、小ホール、スタジオ）	・地元市の小中学校全校生徒へのチラシ配布や駅貼りポスター、デジタルサイネージ利用、新聞ミニコミ誌への記事掲載、ケーブルテレビの活用等、多彩な広報手段を活用し、前年度よりも来場者が増えた。 ・神奈川新聞文化部の取材記事が掲載された。	再掲	重点施策2
049文化芸術による子供の育成事業（文化庁事業）の県内での展開								
文化芸術による子供育成総合事業—コミュニケーション能力総合事業—学校申請方式—	文化庁「文化芸術による子供育成総合事業—コミュニケーション能力総合事業—学校申請方式」による芸術家と連携した授業を実施するもの。	—	2校が応募し、1校が採択となった。	—	—	—	—	重点施策2
文化芸術による子供育成推進事業	子どもたちに対し質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、ワークショップ等を実施することにより、子供たちの豊かな想像力やコミュニケーション能力等を養い、文化芸術に対する知識および教養の向上を図った。	一方的に公演を行うだけでなく、児童・生徒と共演したり、実技指導をするなど、児童・生徒が芸術体験できるような工夫している。	巡回公演事業：25校実施 派遣事業：40校実施 子供 夢・アート・アカデミー：3校実施	2022年6月～2023年2月	各学校の教室・体育館など	—	—	—
050中学・高校文化部活動の充実・支援の実施								
青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	—	239人	2022年8月10日、11日	茅ヶ崎市民文化会館大ホール	—	再掲	—
中・高等学校演劇講習会	中・高等学校の生徒と教員を対象に、学校演劇における基礎的理論と実技を習得し、演劇発表に活用することを目的に、演出、演技、舞台技術、照明、音響等に係る総合的な創造方法を学習する機会を提供した。	—	中学生：421人 高校生：277人	中学校：2022年8月6日、7日 高等学校：2022年7月30日、31日	中学校・高等学校：小田原三の丸ホール（大ホール、小ホール、スタジオ、展示室）	—	再掲	—
青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することを目的として、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム（映像、ダンス振付、舞台美術）を実施した。	映像編は実際に講師の創作現場の会場で実施することで、より実践的な体験とした。	①映像編6人 ②ダンス編33人 ③舞台美術編10人	①映像編 2022年7月20日 ②ダンス編 2023年3月29日、30日 ③舞台美術編 2023年3月27日、28日	①映像編：青少年センター スタジオ HIKARI ②ダンス編：相模女子大学グリーンホールリハーサル室 ③舞台美術編：横浜市教育会館4階ホール	—	再掲	—
心技体+創作ワークショップ	コンテンポラリーやヒップホップといった比較的新しい身体表現による創作に取り組む、学校におけるダンス部の活動を対象として、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、青少年が主体的にダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供し、ダンスと向き合う上での心技体の基礎を学ぶもの。	—	20人	2023年3月18日、19日	海老名市門沢橋コミュニティセンターレクリエーション室	—	再掲	—
中学校創作劇発表会	中学校を対象に、創作劇の発表会を実施した。	—	323人	2022年8月5日	小田原三の丸ホール大ホール	—	再掲	—
青少年ダンス発表会	表現芸術の充実と向上を図ることを目的に創作舞踊発表会を実施した。	各学校（団体）における日頃の取組みの成果を発表する場を提供するという「発表会」の本来の趣旨に鑑み、講師による講評を行わないこととした。	2,060人	2022年11月3日	KAAT神奈川芸術劇場ホール	—	再掲	—
中・高等学校演劇発表会	中・高等学校を対象に、演劇の発表会を実施した。	—	中学生：967人 高校生：1,103人	中学校：2022年12月10日、11日 高等学校：2022年11月19日、20日	中学校：藤沢市民会館大ホール 高等学校：厚木市文化会館大ホール	—	再掲	—
演劇部実践指導塾「演劇部お助け講座」	中・高等学校の演劇部を対象に、演劇部の底上げを図るための実践的な講座を実施した。	中高演劇部のニーズや演劇界の情勢などを考慮し講師を選定した。	中学校：179人 高等学校：38人	中学校：2023年1月21日、2月26日 高等学校：2023年1月29日、3月19日	中学校：桐光学園、平塚市立江陽中学校 高等学校：新名学園旭丘高等学校、神奈川大学附属中・高等学校	中学校：講師による講習や、他校との練習ができたことで、日頃の学内活動では得られないものがあつたという意見が多かった。 高等学校：講座の内容について、参加者全員から「とてもよい」または「よい」と高評価を得た。	—	—
文化部活動指導者研修講座の実施	文化部の部活動インストラクターを対象とした研修講座を実施した。	講座を受講し、条件を満たしており、1年以上の指導実績があり、校長が認めれば、部活動の校外の活動について単独引率を可能としている。	文化部部活動インストラクター10人	2022年10月1日	県立総合教育センター	—	—	—
横浜美術館「中高生プログラム」の周知	中学生、高校生が本物の美術作品、普段なかなか会うことのできないアーティストや専門家との出会いを通して、美術のいろいろな魅力を体験することができる長期のプログラムを高校生等に周知するもの。	—	令和4年度は開催中止。	2023年まで改修による休館のため、事業を中止している。	—	—	—	—
051県中学・高等学校総合文化祭の開催								

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
県高等学校総合文化祭の開催	県高等学校総合文化祭において、高校生等の相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化を促進した。	—	34,191人	2022年10月22日～2023年1月15日	県内各所	—		
052県立高校における文化芸術にかかわる科目等の充実及び文化芸術の発展に寄与する人材の育成								
生徒を対象とした舞台技術研修	2021年度に新設された神奈川総合高校・舞台芸術科を対象とした講座を実施。教育課程カリキュラムの一環としたプログラムを提供する。	施設見学や芸術監督から直に話を聞くことで文化施設での業務全体を体験できるようにした。	①のべ105人 26日(火)27人 27日(水)28人 28日(木)25人 29日(金)25人 ②32人	①2022年7月6日～9日 ②2022年9月27日	KAAT神奈川芸術劇場	—		重点施策2
県立高校における舞台芸術に関する学科の新設と支援	県立高校改革実施計画(Ⅱ期)に基づき、県立神奈川総合高校に舞台芸術科を設置。令和3年4月に一期生が入学した。	アドバイザーボードを設置し、神奈川総合高等学校舞台芸術科の取組について継続的に支援を受ける仕組みを構築し、令和4年度協議会を開催した。	協議会構成アドバイザーボード構成員2人、神奈川総合高等学校6人、高校教育課3人、計11人(アドバイザーボード構成員3人中1人欠席)	2023/3/23	神奈川総合高等学校	神奈川総合高校多目的ホール改修工事請負契約締結		重点施策2
053芸術家等や文化芸術団体との連携した教育の実施								
大学等と連携した人材養成プログラム(県民ホール)	東京音楽大学と連携して、学生たちと教員が声楽、弦楽、ピアノ等を案内する形で人材育成を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	30人	2023年3月5日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策2
054学校と文化施設との連携の推進								
音楽堂アウトリーチ事業	①「先生のためのアウトリーチ」アーティストが地域単位の教員の勉強会「教科研究会」等に講師として訪問し、教員が生徒役となって授業のヒントとなるワークショップを行う形式や、子どもたちを相手にしたモデル授業を視察し、その後気付きを総括するディスカッションを行う形式でのアウトリーチを行った。 ②「子どものためのリハーサル見学」音楽堂共催の神奈川フィル公演当日のリハーサルを小学生～高校生とその保護者に無料で公開した。	①希望する地域に事前訪問し、扱う題材やレベルなどについて講師とともに丁寧にヒアリングして一つ一つのプログラムを創り上げた。 ②オーケストラ事務局、指揮者によるお話、質疑応答タイムなどで、深い理解を促進した。	①257人 ②254人	①2022年6月8日～12月21日 ②2022年7月9日、2023年1月7日	①座間市立相模野小学校、茅ヶ崎市立浜須賀小学校、座間市立東原小学校、ほか ②神奈川県立音楽堂	①記録動画を撮影してダイジェスト版を制作した。今後の参加を検討する教員が閲覧できるよう社会連携ポータルサイトに掲載予定。 ②実施後、音楽堂HPに子どもたちから質問と答えを全文紹介した。	再掲	重点施策2
国立劇場「親子で楽しむ歌舞伎教室」の周知	(本県の取組) ・政令市を除く市町村教育委員会を通じて、公立小・中学校等にチラシを周知した。(イベントには直接関与していない。) (イベント内容) ・歌舞伎俳優が、歌舞伎の魅力や芝居の見どころなどを紹介 ・歌舞伎の鑑賞	—	—	2022年7月20日～26日	国立劇場	—		
(7)高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実								
ア高齢者、障がい者等の文化芸術活動の充実								
055美術展など高齢者を対象とした文化芸術事業の実施								
かながわニア美術展	県内在住で1964年4月1日以前生まれ(2023年3月31日時点で59歳以上の者)のアマチュアを対象に、日本画、洋画、彫刻・工芸、書、写真の5部門で作品を公募し、入選作品を展示するとともに、優秀作品の表彰を行った。	過去出品者や神奈川県老人クラブ連合会をはじめ、県内の高齢者団体、県施設へ募集要項や開催通知を配布し、周知に努めた。作品の搬入時間を指定し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で実施した。	応募者数：278人 出品者数：266人 入選者数：266人 延べ来場者数：596人	2022年9月1日～9月3日(作品展示期間)	神奈川県民ホールギャラリー	—		重点施策2、4
056県立施設における文化芸術活動の場の提供などによる障がい者の自主的な活動の支援								
ライトセンター普及啓発事業	神奈川県ライトセンターにおいて、視覚障がい者同士の交歓活動となる文化クラブの場を提供した。	機関紙「ライトセンターだより」やホームページによる情報提供などで広い周知を行った。	686人	月1回～月3回(クラブ活動により異なる)	神奈川県ライトセンター	YouTubeを活用し6種類の動画配信を行った。(施設紹介、視覚障がい者への接し方、スポーツ紹介、娯楽アプリの紹介、手軽に作れる料理紹介、ボランティア紹介)		重点施策2、4
神奈川県障害者社会参加推進センター事業(文化・芸術祭の開催)(県委託事業)	障がい当事者の文化的活動(絵画、工作、ダンス、合唱等)の発表を行う場を用意し、社会参加の推進を図った。	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、舞台発表及び作品展示を行った。	86人	2023年1月14日(土)、15日(日)	伊勢原市民文化会館小ホール、展示室	—		重点施策2、4
障がい者芸術文化活動普及支援事業	「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」を設置し、相談支援事業やワークショップの実施・コーディネーターの養成等の人材育成事業等を行った。	コーディネーター養成のための研修会や勉強会、事業成果発表の報告会をオンラインでも開催し、多くの方に気軽にもらえるように工夫した。	相談件数：86件 研修等参加者数：延べ194人(全4回) ワークショップ実施事業参加者数：延べ174人(7箇所21回) 事業成果発表：延べ55人(全1回)	相談：平日11時～17時 研修：①2022年9月7日～9月14日 ②2022年10月7日 ③2022年11月7日 ワークショップ実施事業：2022年9月22日～2023年2月1日 事業成果発表：2023年3月17日～3月31日(オンライン配信)	相談：神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター 研修：①オンライン配信②横浜市桂台地域ケアプラザ③クアーズテック秦野カルチャーホール ワークショップ実施事業：障害福祉サービス事業所等 事業成果発表：オンライン配信	—		重点施策2、4
057特別支援学校、障がい者施設、高齢者施設等での文化芸術団体によるアウトリーチ事業の実施								
神奈川フィル学校出張コンサート	公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団が、県内特別支援学校や小学校、病院等を対象に、学校出張コンサートを実施した。	各楽器の音色の違いや特徴が分かるように楽器紹介のコーナーを設けた。	—	2022年4月～7月(30回実施)	県内の特別支援学校、小学校、中学校、病院	—	再掲	重点施策2、4
ともいきアートサポート事業(創作×地域展示)①	県立小田原養護学校(小中学部・高等部)及び湯河原校舎(中学部、高等部)にアーティストを派遣し、授業でワークショップを実施するとともに、創作作品の展示会をギャラリーで開催した。	創作中の生徒たちの様子がわかる写真や教師からのコメントなどをパネル展示した。	ワークショップ計2日間25人 展示会来場者数247人	ワークショップ 2022年7月22日、2023年1月18日 展示会 2023年3月8日～3月13日	ワークショップ 県立小田原養護学校及び湯河原校舎 展示会 ギャラリーNEW新九郎	—		重点施策2、4

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
ともいきアートサポート事業（創作×地域展示）②	県立中原養護学校にアーティストを派遣し、授業でワークショップを実施するとともに、創作作品の展示会をギャラリーで開催した。	ギャラリーでの展示に加え、360° VR で実際のギャラリースペースでの展示をオンラインで体験できるように工夫をした。	ワークショップ 21人参加 展示会 来場者数38人 (オンライン524ビュー)	ワークショップ 2022年11月24日、12月8日、12月15日 計3日 展示会 2023年3月17日～24日	ワークショップ 県立中原養護学校 展示会 ギャラリーFLAT	—		重点施策 2、4
ともいきアートサポート事業（創作×地域展示）③	県立平塚盲学校小学部にアーティストを派遣し、授業でワークショップを実施するとともに、創作作品の展示会を大学の博物館スペースで開催した。	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン展示も同時開催した。 ・学芸員を目指す大学生が実習として授業でアシスタントとして参加した。	ワークショップ 9人参加 展示会 来場者数896人	ワークショップ 2022年6月9日、6月23日、7月7日、9月29日 計3日 展示会 2023年3月1日～31日	ワークショップ 県立平塚盲学校 展示会 東海大学松前記念館	—		重点施策 2、4
ともいきアートサポート事業（創作×地域展示）④	県立伊勢原養護学校伊志田分教室にアーティストを派遣し、授業でワークショップを実施するとともに、創作作品の展示会を大学の博物館スペースで開催した。	・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン展示も同時開催した。 ・学芸員を目指す大学生が実習として授業でアシスタントとして参加した。	ワークショップ 15人参加 展示会来場者数 896人	ワークショップ 2022年6月6日、6月13日、7月4日、9月12日 計4日 展示会 2023年3月1日～31日	ワークショップ 県立伊勢原養護学校 伊志田分教室 展示会 東海大学松前記念館	—		重点施策 2、4
ともいきアートサポート事業（創作×地域展示）⑤	特別支援学校の児童・生徒の鑑賞・創作の場づくりを目指して、特別支援学校の教員等を対象に、外部アーティストを招へいた場合の指導案づくりに向けた、参加体験を含んだ研修講義を企画、実施した。	・参加しやすいよう、オンライン配信も行った。 ・学芸員を目指す大学生が実習として授業でアシスタントとして参加した。	ワークショップ 32人参加	ワークショップ 2022年7月29日、8月24日 計2日	ワークショップ ・ひらしん平塚文化芸術ホール大会議室 ・県立平塚養護学校 (平塚市寺田縄590)	—		重点施策 2、4
058 県立文化施設での託児サービス等の実施								
託児サービスの実施	県民ホール及びKAAT 神奈川芸術劇場、音楽堂にて託児ルームを設置し、運用した。	乳幼児を育てる県民に対する、文化芸術の鑑賞機会の提供に寄与するため、主催公演において、託児ルームを設置した。	県民ホール本館：24人 KAAT神奈川芸術劇場：52人 音楽堂：4人	県民ホール本館：主催公演 17公演（17演目）※利用申込があったのは、10回（10演目） KAAT神奈川芸術劇場：主催公演 20回（8演目）音楽堂：主催公演 8公演（7演目）※利用申し込みがあったのは3公演（2演目）	県民ホール本館、KAAT神奈川芸術劇場、音楽堂	—		重点施策 2、4
059 文化芸術を通じた共生社会の実現に向けた取組みの検討								
KAAT大学連携事業 KAAT×北海道教育大学・公立小松大学・静岡文化芸術大学	多文化共生について文化芸術分野として各地域で何ができるのかを大学機関と連携し、考えるシンポジウムを実施。	大学連携事業として、新たな切り口と開催方法に挑んだ。	参加者：62人 オンライン視聴：123人	2022年8月1日	県民ホール本館 6階 大会議室	—		重点施策 2、4
オープンシアター2022	県民ホールにて、ホールを身近に感じてもらう取組として、オープンシアターを開催した。	バックステージツアーや無料ロビーコンサート等も実施した。	1,986人	2022年8月20日	県民ホール本館	大ホール公演では、国内初のパレエ公演における視覚障がい者向け音声ガイドに取り組んだ。	再掲	重点施策 2、4
鑑賞サポート事業	芸術文化がより多くの人の心に届くよう、その間にある障壁を、さまざまな鑑賞サポートの実施や、鑑賞携帯のあり方を工夫して解消していく。	2021年度に新設した社会連携ポータル課の2年目として、鑑賞サポートの研究や知見の集積を生かしより効果的に実施した。	79人（申し込みが必要なサポートの申込者数。申し込み不要なサポートは含まれない）	2022年8月～2023年3月 (28回)	県民ホール本館、KAAT神奈川芸術劇場、音楽堂等	—		重点施策 2、4
共生共創事業	シニア劇団やシニアダンス企画の運営、障がい者等が参加する舞台公演等を実施した。	感染症拡大防止対策をしながら集客公演を実施するとともに、動画配信の手法も活用し、共生社会の理念を普及した。	8,152人 再生回数：27,575回 公演回数：35回	2022年4月～2023年3月	オンライン、横須賀市立青少年会館、かながわアートホール、綾瀬市オーエンス文化会館、小田原三の丸ホール、県民共済みらいホール、ヨコスカ・ベイサイド・ポケット、赤レンガ倉庫	2021年度に制作した映像作品について、デジタルえほんアワード準グランプリ及び日本映像グランプリ優秀科学技術賞を受賞	再掲	重点施策 2、4
県営団地におけるシニア合唱事業	県営団地において、住民等を対象に合唱事業を行う。	合唱のレッスンを始めるにあたって、まず音楽に親しむためにコンサート、歌声広場、合唱と段階を踏んで実施	2,035人	2021年4月～2022年3月	各県営団地（10か所）	桜美林大学と覚書を締結し、学生をインターンシップとして本事業に派遣。学生は運営を支援。2団地は3月に大会議場にて成果発表会を実施	再掲	重点施策 2、4
ともいきアートサポート事業（常設展示）①	県立青少年センター・スタジオHIKARIの「交流スペース」に通年で、障がいのあるアーティストなどの作品の常設展示を行った。	・3か月をめぐりにアート3団体の作品を入れ替えて展示した。 ・県のたより7月号企画面で広く県民に広報周知を図った。	第1期展 来場者数 2,648人、オンライン ビュー、動画 57回 再生 第2期展 3,379人、 オンライン 847ビュー、 動画22回再生 第3期展 3,763人、 オンライン 923 ビュー、動画 11回 再生	第1期展 2022年4月26日～7月10日 第2期展 2022年8月2日～11月6日 第3期展 2022年11月22日～2023年3月5日	県立青少年センター・スタジオHIKARIの「交流スペース」	—		重点施策 2、4
ともいきアートサポート事業（常設展示）②	ランチ茅ヶ崎2に通年で、障がいのあるアーティストなどの作品の常設展示を行った。	・3か月をめぐりにアート3団体の作品を入れ替えて展示した。 ・県のたより7月号企画面で広く県民に広報周知を図った。	第1期展 観覧者数 約49,000人、オンライン 594ビュー、動画 32 回再生 第2期展 約78,000 人、オンライン 884 ビュー、動画12回再生 第3期展 約71,400 人、オンライン 977 ビュー、動画 9回再生	第1期展 2022年4月23日～7月7日 第2期展 2022年7月16日～11月10日 第3期展 2022年11月19日～2023年3月9日	ランチ茅ヶ崎2サンノイイベントスペース及び2階エントランス	—		重点施策 2、4
ともいきアートサポート事業（巡回展示）①	神奈川県庁新庁舎1階ロビーで障がいのあるアーティストなどの作品の展示を行った。	①ねんりんピックかながわ2022の時期にあわせて、大会目標の1つである「誰もがともに生きる社会の実現」をテーマに展示を行った。 ②新規の団体が展示を実施した。	①1,302人 ②1,096人	①2022年11月14日～25日 ②2023年3月13日～24日	神奈川県庁新庁舎1階ロビー	—		重点施策 2、4

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
ともいきアートサポート事業（巡回展示）②	神奈川県民ホールギャラリーで障がいのあるアーティストなどの作品の展示を行った。	神奈川県美術展 1 期展、中高生特別企画展と併催した。	来場者数 1474人 動画再生数 60回	2022年8月25日～9月5日	神奈川県民ホールギャラリー	—		重点施策 2、4
ともいきアートサポート事業（リース支援事業）	障害福祉サービス事業所の作品を知事執務室でリース展示した。	2～3か月ごとに展示替えを行った。	—	2022年4月～2023年3月	知事執務室	—		重点施策 2、4

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績									
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策	
(1) 文化芸術に関する交流の推進									
ア地域間交流の推進									
060他県との文化芸術を介した交流の推進									
神奈川芸術劇場(KAAT)	KAAT神奈川芸術劇場プロデューサー作品等を他府県で上演した。	KAAT神奈川芸術劇場の作品を各地で上演した。	13,631人	通年 4演目22公演	まつもと市民芸術館ほか	—	再掲		
県立金沢文庫における文化財の貸出、借入れ	金沢文庫での特別展の実施にあたり、他の博物館や社寺などから資料の借入れを行った。	—	—	—	—	他の博物館や社寺などからの借入れ：57点			
県立近代美術館における巡回展の実施	国内外の近現代美術の調査研究に基づく、巡回型の展覧会（「朝倉 撰」展、「マン・レイ」展、「横尾龍彦」展）を実施した。	—	入館者数 「朝倉 撰」展：10,876人、「マン・レイ」展：12,391人、「横尾龍彦」展：4,609人(3月末時点)	「朝倉 撰」展：2022年4月16日～6月12日、「マン・レイ」展：2022年10月22日～2023年1月22日、「横尾龍彦」展：2023年2月4日～4月9日	近代美術館	—			
県立歴史博物館における収蔵資料の貸出	県外の博物館等の展覧会への収蔵資料の貸出を行った。	貸出先における展示環境等の把握に努め、より良い形での公開ができるよう貸出先と調整を行った。	—	—	—	貸出資料点数：234点（郡山市立美術館、大阪府立弥生文化博物館、九州国立博物館、大分県立歴史博物館など19館の博物館・美術館等）。			
061国民文化祭への県内文化芸術団体の参加促進									
国民文化祭	国民文化祭の開催県である沖縄県と連携し、参加団体へ国民文化祭の開催及び参加を周知した。	チラシやパンフレットの配架や県内市町村への周知を行い、参加者・来場者への広報に協力した。	—	各イベントによる	沖縄県内	—			
062全国高等学校総合文化祭への参加									
全国高等学校総合文化祭への参加	全国高等学校総合文化祭への生徒派遣を通して、相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化を促進した。	—	全国高等学校総合文化祭・東京大会（開会式・専門部門26部門各会場、閉会式県内参加生徒数：約557人）	2022年7月31日～8月4日	東京都内各所（開会式：東京国際フォーラム）	—			
063県高等学校総合文化祭の開催									
県高等学校総合文化祭の開催	県高等学校総合文化祭において、高校生等の相互交流・啓発、文化・芸術活動の一層の活性化を促進した。	—	34,191人	2022年10月22日～2023年1月15日	県内各所	—	再掲		
イ国際文化交流の推進									
064神奈川の文化芸術の海外発信									
横浜国際舞台芸術ミーティング 2022 (YPAM2022)	舞台芸術に係るプロフェッショナルが公演・ディスカッション・ワークショップ等の多彩なプログラムを通じて、情報交換・相互学習・ネットワークの構築の場を提供した。	横浜市や地域のステークホルダーとの共同を進め、多様な表現を実現し社会をみつめる機会を県民に提供した。	1,312人	2022年12月3日～11日	KAAT神奈川芸術劇場ほか	—		重点施策3	
①キエフ(キーウ)・クラシック・バレエ『白鳥の湖』全2幕 ②ウクライナ国立バレエ「ドン・キホーテ」	海外の文化芸術の県民への鑑賞機会の提供のために海外のバレエ公演を実施した。	—	3,338人	①2022年8月23日 ②2022年12月17日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策3	
県立近代美術館における展覧会記念講演会等事業の開催 葉山町での共催による講座の実施	企画展「アレック・ソス」等に関連した記念トーク・イベント等を実施した。また、学芸員による連続講座として「近代美術館入門講座」を開催した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前予約制で実施した。	展覧会記念トーク・イベント：5回、154人 近代美術館講座：8回、137人	展覧会記念トーク・イベント：2022年7月16日他 近代美術館講座：2022年5月27日他	県立近代美術館葉山館、鎌倉別館 葉山町福祉文化会館、逗子市役所	—	再掲	重点施策3	
065三県省道やベトナム等との文化交流事業の推進									
ベトナム文化等交流事業	「ベトナムフェスタin神奈川2022」及び「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI 2022」を開催した。	3年ぶりの開催となったため、新型コロナウイルス対策等を講じて実施した。	ベトナムフェスタ約18万人 KANAGAWA FESTIVAL約8万人	ベトナムフェスタ2022年9月9日～11日 KANAGAWA FESTIVAL2022年11月17日～20日	ベトナムフェスタ日本大通り、神奈川県庁、象の鼻パーク等 KANAGAWA FESTIVALハノイ市・リータイトー公園	—		重点施策3	
友好県省道交流会議	2年ごとの開催のため、令和4年度は実施せず。	—	—	—	—	—		重点施策3	
三県省道スポーツ交流事業	神奈川県、中国・遼寧省、韓国・京畿道の青少年によるスポーツの親善試合や交流事業実施のため、神奈川県選手団を京畿道に派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。	—	—	—	—	—		重点施策3	
066国際児童画展の開催									
カナガワビエンナーレ国際児童画展	次代を担う子どもたちの夢と創造力を育み、絵画を通じてお互いの生活や文化を理解し、交流を深めるふれあいの場となることを目的として、昭和56年(1981年)から隔年で開催している(応募資格：満4歳以上15歳以下。テーマは自由。)	広く世界各地から作品を募集し、また受賞作品の地球市民かながわプラザでの展覧会や巡回展等を行った。	①作品募集 ②一次審査及び二次審査	①2022年9月から11月にかけて作品を募集し、海外56か国3地域から9,408点、県内及び外国人学校から2,566点、合計11,974点の応募があった。 ②2023年1月に一次審査、2023年2月に二次審査を実施して、520点の入賞を選定した。	地球市民かながわプラザ等	—		重点施策3	
067アーティストインレジデンス									
2022年度は実施しませんでした。									
ウ多文化理解の推進									
068「あーすフェスタかながわ」など多文化理解を推進するためのイベントの実施									

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
共生共創事業	シニア劇団やシニアダンス企画の運営、障がい者等が参加する舞台公演等を実施した。	感染症拡大防止対策をしながら集客公演を実施するとともに、動画配信の手法も活用し、共生社会の理念を普及した。	8,152人 再生回数：27,575回 公演回数：35回	2022年4月～2023年3月	オンライン、横須賀市立青少年会館、かながわアートホール、綾瀬市オーエンス文化会館、小田原三の丸ホール、県民共済みらいホール、ヨコスカ・ベイサイド・ポケット、赤レンガ倉庫	2021年度に制作した映像作品について、デジタルえほんアワード準グランプリ及び日本映像グランプリ優秀科学技術賞を受賞	再掲	重点施策3
あーすフェスタかながわ2022	多様な国籍文化や民俗の違いを理解し、認め合うことのできる多文化共生社会の実現をめざし、「あーすフェスタかながわ2022」を開催した。	新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じつつ、会場を象の鼻パークに移して初めて開催した。来場者の回遊性を考え、従来の企画に加えてスタンブラリー企画等を行った。	約1万人	2022年12月4日	象の鼻パーク、神奈川県本庁舎	アンケートの結果、86%の人が「たのしかった」「すこしたのしかった」と回答している。		重点施策3
069地球市民かながわブラザ等での多文化理解を推進するための講座等の実施								
地球市民かながわブラザ指定管理事業（学習センター事業、情報・相談センター事業、サポート・ネットワーク事業）	多文化共生の地域社会づくりに向け、多文化理解を推進するため、地球市民かながわブラザにおいて、展示学習などの学習センター事業、映像・図書資料の収集提供や外国籍県民相談等の情報・相談センター事業やNPO等活動支援などのサポート・ネットワーク事業等を実施した。	指定管理により、子どもから大人まで幅広い年齢層にブラザの理念や趣旨を魅力的に伝え、家族連れや友達同士で楽しく遊べるプログラムを実施する展示学習事業や大人も対象とした企画展及び関連イベントをバランスよく実施し、また校外学習の受入れ等を行った。	348,107人	2022年4月1日～2023年3月31日	地球市民かながわブラザ	アンケートの結果、98%の人が「満足」「どちらかといえば満足」と回答している。		重点施策3
070かながわ国際交流財団との連携による留学生との交流を図る取組の推進								
高等学校等多文化理解推進事業	青少年世代が多様な文化や言語を持つ人たちとより密接にかかわり共生してゆくため、多文化共生について学ぶ授業、講演会等を実施した。	講演だけではなく、ワークショップなど、より理解を深められる手法を検討し実施している。	15校（3,271人）	2022年5月～2022年12月	県内高校（15校）	—		重点施策3
青少年国際交流セミナー等開催事業①	①多文化共生社会を担う青少年世代に自発的、主体的な学びの場を提供するためのセミナーを開催した。 ②日本と外国の異なる文化や多様な価値観等について理解を深めるための参加型セミナーを実施した。	コロナ禍でも実施可能なオンライン形式でフィールドワークを実施し、県内の文化的な背景を伝えた。	①11人 ②28人	①2022年12月10日 ②2022年7月16日、10月22日	オンライン	—		重点施策3
青少年国際交流セミナー等開催事業②	多文化共生社会の実現をけん引できるリーダー的人材育成のため、大学生や若手社会人等を対象に、市民による多文化共生活動への理解を深めるためのセミナーを実施した。	セミナーはオンライン及び対面とし、フィールドワークは対面での現地視察を行った。	10人	2022年8月9日	オンライン	—		重点施策3
(2) 創造的活動等の推進								
ア創造的活動の推進と発信								
071県立文化施設における新たな舞台芸術作品等の創造・発信								
神奈川芸術劇場における新たな舞台芸術作品の創造や新作公演の実施	新たな舞台芸術作品の創造や新作公演、アトリウムでの現代美術の展覧会を実施した。	気鋭のアーティストを起用し、また国内外の優れた制作者との共同制作公演にも積極的に取り組み、施設の特徴を生かした舞台芸術や現代美術の創造・発信を行った。	10演目82公演1企画1回 1展覧会 計 25,545人	2022年5月～2023年3月	KAAT神奈川芸術劇場	—		
かながわ短編演劇アワード2023	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマを「ともに生きる」とした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：33団体 短編戯曲：98作品 22世紀飛翔枠：5団体 【来場者数】 本戦：251人 ライブ視聴者数（瞬間最多視聴者数）61人 22席飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：61人	本戦：2023年3月25日～26日 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：2023年1月8日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：県立神奈川総合高等学校	—	再掲	
かながわミュージカルアワード2023	県内の伝説・民話・トレンドなどを題材にした、90分程度の作品による地域色豊かなミュージカルアワードを開催するもの。	2団体各45分の上演時間を、1団体90分目安の公演とした。	【応募数】 7団体 【来場者数】 本戦：178人	2023年3月12日	県民共済みらいホール	—	再掲	
072文化芸術団体や民間企業・芸術系大学等との連携による先駆的で発信性の高い文化芸術の創造								
神奈川芸術劇場における新たな舞台芸術作品の創造や新作公演の実施	新たな舞台芸術作品の創造や新作公演、アトリウムでの現代美術の展覧会を実施した。	気鋭のアーティストを起用し、また国内外の優れた制作者との共同制作公演にも積極的に取り組み、施設の特徴を生かした舞台芸術や現代美術の創造・発信を行った。	10演目82公演1企画1回 1展覧会 計 25,545人	2022年5月～2023年3月	KAAT神奈川芸術劇場	—	再掲	
073新進芸術家等への支援の検討								
創作環境と劇場の未来を考え、劇場の創造活動の核を育てていく取組「カイハツ」	劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指し、クリエイションのアイデアをカイハツするプロジェクトとして、2021年度より開始した。	企画・人材カイハツ、創作プロセスカイハツ、戯曲カイハツの3柱を設け、創作環境と劇場の未来を考える企画とした。	52人	2022年4月1日～2022年12月9日 6企画	KAAT神奈川芸術劇場	劇場ホームページにおいて、この取組と実施内容について広報を行った。	再掲	
第38回かながわ音楽コンクール	神奈川県ゆかりの才能ある若手演奏者を紹介し、オーケストラとの共演を通じて一層の育成を図る目的で、2022年8月20日に入賞者を対象としたクリスタルコンサート、10月2日に上位入賞者によるトップコンサートを実施した。	—	参加者数：936人 鑑賞者数：延べ1,300人 (クリスタルコンサート及びトップコンサートの鑑賞者数：444人)	①クリスタルコンサート：2022年8月20日 ②トップコンサート：2022年10月2日 コンクール全体は2022年3月20日～12月3日	①クリスタルコンサート：横浜市緑区民文化センター「みどりアートパーク」 ②トップコンサート：神奈川県立音楽堂	—	再掲	
(3) 文化資源の活用								
ア文化芸術事業の発信力の強化								
074神奈川発のコンテンツの創出								

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
共生共創事業	シニア劇団やシニアダンス企画の運営、障がい者等が参加する舞台公演等を実施した。	感染症拡大防止対策をしながら集客公演を実施するとともに、動画配信の手法も活用し、共生社会の理念を普及した。	8,152人 再生回数：27,575回 公演回数：35回	2022年4月～2023年3月	オンライン、横須賀市立青少年会館、かながわアートホール、綾瀬市オーエンス文化会館、小田原三の丸ホール、県民共済みらいホール、ヨコスカ・ベイサイド・ポケット、赤レンガ倉庫	2021年度に制作した映像作品について、デジタルえほんアワード準グランプリ及び日本映像グランプリ優秀科学技術賞を受賞	再掲	
県営団地におけるシニア合唱事業	県営団地において、住民等を対象に合唱事業を行う。	合唱のレッスンを始めるにあたって、まず音楽に親しむためにコンサート、歌声広場、合唱と段階を踏んで実施	2,035人	2021年4月～2022年3月	各県営団地（10か所）	桜美林大学と覚書を締結し、学生をインターンシップとして本事業に派遣。学生は運営を支援。2団地は3月に大会議場にて成果発表会を実施	再掲	
075「マグカル」の全県展開								
神奈川文化プログラム認証制度	県内で実施する事業・活動について、一定の要件を満たすものを神奈川県文化プログラムとして認証した。	—	認証件数：605件	—	県内全域	—	再掲	
かながわ県民文化祭	9月から12月を「県民文化祭」の期間に位置付け、期間中に県、市町村、民間団体等の文化事業を一体的かつ効果的に広報を行うことで、県民が県内各地の様々な文化芸術活動に参加し、楽しみ、その活動を通じて、地域のにぎわい・つながりを作ることを目指す。	県の媒体を活用した広報活動を実施するとともに、twitterを活用したリツイートキャンペーンを実施し、事業の周知を図った。	参加プログラム数：235件	—	県内全域	—	再掲	
マグカル開放区	県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「開放区」を実施した。	2022年10月より、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら再開。計11回実施。	出演者数：400人 参加者数：35,088人	10/2、10/23、11/6、12/4、12/25、1/15、1/29、2/5、2/19、3/5、3/19	県庁前日本大通り	—	再掲	
バーチャル開放区	県庁前日本大通りで音楽やダンスなど自由に発表できる空間「マグカル開放区」の開催場所を路上からオンライン上に移して、文化芸術オールジャンルの動画コンテンツ「バーチャル開放区」を実施した。	—	応募件数：115件 視聴結果 《HP/PV数》 108,997回 《再生数》 104,407回 (HP、再生数ともに2022年8月29日～2023年3月31日)	—	インターネット上	—	再掲	
マグカル展開促進補助金	県が推進する「マグカル」の展開促進のため、民間団体が行う文化芸術の新たな事業に要する経費に対し、予算の範囲内において補助金を交付した。	補助率3分の1以上上限額100万円、ただし重点事業は特に展開を促進するため、補助率及び上限額の特認を設けた。	要望団体数：178件 助成団体数：42件 採択額：46,389千円 参加者数：51,342人 オンライン視聴者数：23,461人	1次募集： 2022年2月17日～3月28日募集、4月28日交付決定 2次募集： 2022年6月1日～7月11日募集、8月24日及び9月14日交付決定	—	—	再掲	
076舞台芸術に関わる人材の育成								
2022年度劇場運営インターン(KAAT神奈川芸術劇場)	現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業政策・劇場運営の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供した。	劇場運営のインターンは、現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業制作・劇場運営の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供した。昨年度は、社会連携ポータル課職員や制作スタッフの指導の下、KAAT神奈川芸術劇場で上演されたKAATキッズ・プログラム2022「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」の公演制作やワークショップの運営業務に携わり、劇場運営の就業体験を行った。	5人	2022年7月18日～7月24日	KAAT神奈川芸術劇場	—	再掲	重点施策5
室内オペラ・制作広報インターン事業の実施	室内オペラ制作と広報を軸に公共ホールでの事業実習を含むインターンシップを実施した。	音楽堂室内オペラ・プロジェクトの一環として音楽堂公式アカウントでインターンによる広報SNS発信、オペラの衣装のパネルを制作して会場ロビーに展示する等を行った。また、座学を充実させ、アートマネジメントへの幅広い知見を得る機会となるよう工夫を行った。	2人	2022年9月6日～11月1日	音楽堂	—	再掲	重点施策5
昭和音楽大学寄付講座	昭和音楽大学と連携し、劇場職員による講義を実施した。	大学院の「音楽マネジメント特殊講義VI」の講義を実施した。	23人	2022年11月13日 2022年11月27日 2023年1月8日 2023年1月9日	県民ホール本館、KAAT神奈川芸術劇場、昭和音楽大学	—	再掲	重点施策5
劇場体験インターン事業	公共ホールでの文化事業の実習として、音楽事業制作と施設運営の両面を学び・体験する事業を実施した。	公立文化施設における文化事業を学ぶため、座学で学んだうえで、制作の現場を体験する内容とした。	6人	2022年12月19日～2023年1月10日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策5
大学等と連携した人材養成プログラム(県民ホール)	東京音楽大学と連携して、学生たちと教員が声楽、弦楽、ピアノ等を案内する形での人材育成を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	30人	2023年3月5日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策5
劇場運営マネジメント講座	県内の劇場・文化施設の施設利用担当者を主な対象とし、専門性を高く設定した人材育成講座を実施した。	①これからのインクルーシブ社会と公立文化施設の取組、②利用業務の能力をブラッシュアップする「基本を学びなおす」の2つの講座を実施した。	50人	①2023年2月22日 ②2023年3月20日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策5
プロフェッショナルアーティスト養成事業(県民ホール)	県民ホールで実施する公演のオーディション等により、若手の芸術家を養成する事業を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	①27人 ②4人	①2022年4月29日 ②2022年8月3日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策5

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
マダカシター等	主に若手の舞台芸術団体や個人に青少年センター スタジオ「HIKARI」及びかながわアートホールを公演場所として会場・設備・備品を無料で提供した。	感染症拡大防止対策を取りながら、集客公演を実施した。	8,357人	2022年4月～2023年3月	青少年センター スタジオ「HIKARI」、かながわアートホール	個性の異なる2つの会場を拠点としたことから、出演団体の種別や東京所在の団体が増えるなど、すそ野が広がっている。	再掲	重点施策5
青少年のための芝居塾	県内の地域・歴史等を取り入れた演劇・ミュージカルを創作し、公募した青少年により上演する。	数年おきに担当劇団を替えるなど、一般の青少年が参加しやすいように考慮した。	27人	2022年5月～8月 ※稽古のみ。公演（8月10日～14日）は関係者のコロナ感染により中止	青少年センター	演劇に興味のある青少年が気軽に演劇に触れ、その能力を高められる場であり、参加者の満足度も高い	再掲	重点施策5
かながわ短編演劇アワード2023	短編演劇及び短編戯曲の全国公募によるコンペティションを開催した。	短編戯曲において、作品テーマを「ともに生きる」とした。また、最終選考に残った戯曲をweb公開することで、より多くの方に作品に触れてもらう機会を設けた。	【応募数】 短編演劇：33団体 短編戯曲：98作品 22世紀飛翔枠：5団体 【来場者数】 本戦：251人 ライブ視聴者数（瞬間最多視聴者数）61人 22席飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：61人	本戦：2023年3月25日～26日 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：2023年1月8日	本戦：KAAT神奈川芸術劇場 22世紀飛翔枠選抜大会（県内高校生枠選抜大会）：県立神奈川総合高等学校	—	再掲	重点施策5
かながわミュージカルアワード2023	県内の伝説・民話・トレンドなどを題材にした、90分程度の作品による地域色豊かなミュージカルアワードを開催するもの。	2団体各45分の上演時間を、1団体90分目安の公演とした。	【応募数】 7団体 【来場者数】 本戦：178人	2023年3月12日	県民共済みらいホール	—	再掲	重点施策5
青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	—	239人	2022年8月10日、11日	茅ヶ崎市民文化会館大ホール	—	再掲	重点施策5
青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することを目的として、中高生向けの3つの先端的なワークショッププログラム（映像、ダンス振付、舞台美術）を実施した。	映像編は実際に講師の創作現場の会場で実施することで、より実践的な体験とした。	①映像編6人 ②ダンス編33人 ③舞台美術編10人	①映像編 2022年7月20日 ②ダンス編 2023年3月29日、30日 ③舞台美術編 2023年3月27日、28日	①映像編：青少年センター スタジオ HIKARI ②ダンス編：相模女子大学グリーンホールリハーサル室 ③舞台美術編：横浜市教育会館4階ホール	—	再掲	重点施策5
心技体+創ワークショップ	コンテンポラリーやヒップホップといった比較的新しい身体表現による創作に取り組む、学校におけるダンス部の活動を対象として、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、青少年が主体的にダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供し、ダンスと向き合う上での心技体の基礎を学ぶもの。	—	20人	2023年3月18日、19日	海老名市門沢橋コミュニティセンターレクリエーション室	—	再掲	重点施策5
演劇部実践指導塾「演劇部お助け講座」	中・高等学校の演劇部を対象に、演劇部の底上げを図るための実践的な講座を実施した。	中高演劇部のニーズや演劇界の情勢などを考慮し講師を選定した。	中学校：179人 高等学校：38人	中学校：2023年1月21日、2月26日 高等学校：2023年1月29日、3月19日	中学校：桐光学園、平塚市立江陽中学校 高等学校：新名学園旭丘高等学校、神奈川大学附属中・高等学校	中学校：講師による講習や、他校との練習ができたことで、日頃の学内部活動では得られないものが多かったという意見が多かった。高等学校：講座の内容について、参加者全員から「とてもよい」または「よい」と高評価を得た。	再掲	重点施策5
県立高校における舞台芸術に関する学科の新設と支援	県立高校改革実施計画（Ⅱ期）に基づき、県立神奈川総合高校に舞台芸術科を設置。令和3年4月に一期生が入学した。	アドバイザーボードを設置し、神奈川総合高等学校舞台芸術科の取組について継続的に支援を受ける仕組みを構築し、令和4年度協議会を開催した。	協議会構成アドバイザーボード構成員2人、神奈川総合高等学校6人、高校教育課3人、計11人（アドバイザーボード構成員3人中1人欠席）	2023年3月23日	神奈川総合高等学校	神奈川総合高校多目的ホール改修工事請負契約締結	再掲	重点施策5
077文化プログラムの展開とレガシーづくり								
神奈川文化プログラム認証制度	県内で実施する事業・活動について、一定の要件を満たすものを神奈川県文化プログラムとして認証した。	—	認証件数：605件	—	県内全域	—	再掲	重点施策4
かながわ県民文化祭	9月から12月を「県民文化祭」の期間に位置付け、期間中に県、市町村、民間団体等の文化事業を一体的かつ効果的に広報を行うことで、県民が県内各地の様々な文化芸術活動に参加し、楽しみ、その活動を通じて、地域のにぎわい・つながりを作ることを目指す。	県の媒体を活用した広報活動を実施するとともに、twitterを活用したリツイートキャンペーンを実施し、事業の周知を図った。	参加プログラム数：235件	—	県内全域	—	再掲	重点施策4
イ文化資源を活用した地域の活性化								
078相模湾沿岸地域一帯に残る邸宅・庭園や歴史的建造物を保全・活用した地域づくりの推進								
湘南邸園文化祭2022	9月～12月にかけて相模湾沿岸の12市町の邸園等において、26の市民団体等により46のイベントを実施した。	—	延べ約8,200人	2022年9月10日～12月8日	相模湾沿岸地域一帯の邸宅・庭園等	—	—	—
079県西地域の豊かな自然環境や歴史的・文化的遺産などを保全・活用した箱根ジオパーク等の取組の推進								
箱根ジオパーク推進協議会事業	・箱根ジオパーク認定10周年記念講演の開催 ・保全活動の実施 ・PRイベントの実施 ・ガイド養成講座の開催実施 ・サポーター講座の開催 ・ジオツアーの実施 ・小中学生等を対象とした教育活動 ・ジオパーク特産品の開発 ・サインの整備 ・パンフレット等作成 ・フォトコンテストの開催 ・防災活動	・サイン整備事業において、多言語版ページを作成した。 ・ガイド養成講座において、オンラインで開催することで参加しやすい方法とした。 ・ジオツアーはオンラインで実施した。	・サポーター講座（第一回：14人 第二回：6人 第三回：4人） ・ジオツアー13人 ・小学生を対象とした講座（春休み：18人 夏休み：61人）	通年	通年	—	—	—

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
080「鎌倉」の世界文化遺産登録の推進								
「鎌倉」の世界文化遺産登録の推進	世界遺産登録を目指す「鎌倉」の構成資産について、適切な保存管理と積極的な公開活用を図るため、県費補助金による助成を行った。また、文化財保護ポスター事業に係り「世界遺産登録をめざす鎌倉」部門の最優秀作品をポスターとして県内各地に掲示し、機運の醸成を図った。	—	—	—	—	—	—	—
081日本遺産の新たな認定の推進と活用による地域活性化								
「日本遺産」に関する情報提供及び支援	「日本遺産」の新規認定申請について、県内市町村等に周知を行った。また、既認定の「日本に関する情報」について、文化庁補助金の周知や助言を通じ、市町村や地元協議会による地域活性化の取組を支援した。	—	—	—	—	「日本遺産」の「候補地域」の募集について、県内市町村等に周知を行った。また、既認定の「日本遺産」について、文化庁補助金の周知や助言を通じ、市町村や地元協議会による地域活性化の取組を支援した。	—	—
082地域に伝承されてきた文化等の発掘・発信・体験の促進								
日本舞踊に学ぶ'和'の作法	小・中学生を対象に、着物の着方の練習、日本舞踊等を体験するワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	80人	①2022年7月23日、24日 ②2022年7月28日、29日 ③2022年8月9日、10日 ④2022年8月20日、21日	①南足柄市文化会館 ②横須賀市文化会館 ③県立青少年センター ④秦野市立本町公民館	ワークショップの総合的な満足度を聞いたアンケートの結果、46名(回答者数)から「とても満足・やや満足」との回答があった。	再掲	—
相模人形芝居学校交流ワークショップ	高等学校等において、伝統芸能への関心を喚起し、団体の活動の紹介や上演を行うワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	①239人 ②226人 ③191人 ④160人	①2022年9月27日 ②10月25日 ③11月7日 ④12月8日	①座間総合高等学校 ②足柄高等学校 ③中央農業高等学校 ④平塚中等教育学校	—	再掲	—
能楽ワークショップ	小学生とその保護者を対象に、謡曲・楽器の体験や能の鑑賞のワークショップを行った。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	①28人 ②33人	①2023年3月12日・20日 ②2023年3月4日・25日	①松山能舞台、相模女子大学グリーンホール ②県立青少年センター練習室、茅ヶ崎市総合体育館オーケストラ練習室	—	再掲	—
かながわの太鼓	神奈川県太鼓連合加盟6団体参加し、創作太鼓の演奏を披露した。	マスク着用、手指消毒及び換気の徹底等、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意した。	316人	2022年11月13日	県立音楽堂	—	再掲	—
カナガワリ・古典プロジェクトin相模原	県内の古典芸能や各地の貴重な伝統文化の魅力・価値を再発見し、将来にわたり継承していくことという機運につなげていくことを目指し、邦楽等のワークショップや民俗芸能団体の演目等の公演を実施。	ワークショップに先立ち、学校などと連携し、わかりやすいテキストや動画を通して、事前に子どもたちが邦楽や民俗芸能に触れることができるような工夫をし、イベントの周知を行った。	来場者数：799人	ホール公演：2023年2月4日～5日	社のホールはしもと	—	再掲	—
かながわ伝統文化こども歳時記	子どもとその保護者を対象に、伝統芸能のみならず、年中行事やお祭り、昔話や伝承遊びといった、生活に密着した地域の伝統文化が持つ魅力を、多彩なプログラムを通して紹介した。	単発で短時間のWSだけではなく、複数回のWSを経て成果発表まで行うWSを実施することで、参加することも達の成長や達成感を高めた。	909人	メインプログラム 2023年2月23日 事前ワークショップ(講談・日本舞踊・ちょうちん) 2023年1月21日、22日、29日、2月19日	小田原三の丸ホール(大ホール、小ホール、スタジオ)	・地元市の小中学校全校生徒へのチラシ配布や駅貼りポスター、デジタルサイネージ利用、新聞ミニコミ誌への記事掲載、ケーブルテレビの活用等、多彩な広報手段を活用し、前年度よりも来場者が増えた。 ・神奈川県新聞文化部の取材記事が掲載された。	再掲	—
県立歴史博物館における特別展の実施	特別展「洞窟遺跡を掘る」、「地図最前線」、「永福寺と鎌倉御家人」、特別陳列「松平造酒助江戸在勤日記」を実施した。	「ポケット学芸員」を活用した音声・文字による展示ガイドを行った。また、関連事業として講演会や展示解説を積極的に行った。	特別展「洞窟遺跡を掘る」7,616人、「地図最前線」9,443人、「永福寺と鎌倉御家人」12,220人	特別展「洞窟遺跡を掘る」2022年4月29日～6月26日、「地図最前線」2022年7月16日～9月25日、「永福寺と鎌倉御家人」2022年10月15日～12月4日、特別陳列「松平造酒助江戸在勤日記」2023年2月18日～4月9日	県立歴史博物館	—	再掲	—
民俗芸能調査事業費	「菊名の飴屋踊り」を初めとして、県内に所在する「飴屋踊り、万作踊り」について、現状等の記録保存を行うことにより、県内の民俗芸能の保存・継承の基礎資料とするとともに、調査において当該芸能の特色を明らかにする。令和4年度から調査を開始し、令和6年度に報告書を刊行予定である。	調査員による現地調査及び、事務局による関連文献の調査を実施した。	調査員3人ほか	現地調査・文献調査2022年4月21日ほか28回	横浜市青葉区荏田、横須賀市長沢ほか	—	再掲	—
083県立文化施設の地域の賑わい創出等への活用								
前川建築見学ツアー	ボランティアグループbridgeと協働し、音楽堂の見学ツアーを定期的に実施した。	主催公演とあわせた開催とすることや、フルコース、無料のショートコースを設けるなど参加しやすい形式を取り入れた。	255人	2022年6月4日～2023年2月1日	音楽堂	—	—	—
音楽堂、県立青少年センター、県立図書館、横浜能楽堂、横浜市民ギャラリーの5館の連携事業	「音楽堂のピクニック」と同日に5館共同で「紅葉ヶ丘まいらん・春祭り」を開催し、地域を回遊するスタンプラリーやクイズラリーを実施したほか、「せいかいほともだち！」の日は同時開催の横浜能楽堂オープンデーと共同で、県立図書館、能楽堂、市民ギャラリーの協力プログラムを取り入れた。	「紅葉ヶ丘まいらん・春祭り」では5館それぞれで無料入場のイベントを開催するだけでなく、紅葉ヶ丘広場にキッチンカーを誘致し、前年度に作成した「まいらんさんぽマップ」「公式SNS」を活用して地域回遊促進とイベント開催中の同時発信を行った。	1,963人(3月4日/5館合計・延べ) 8月6日は「子どもと大人の音楽堂 せいかいほともだち！」に掲載	2022年8月6日、2023年3月4日	音楽堂、県立図書館、県立青少年センター、横浜能楽堂、横浜市民ギャラリーほか周辺地域	イベント広報にあたり、横浜市西区役所、伊勢山皇大神宮等地域の様々な組織の協力を得ることで地域ネットワークの強化ができた。	—	—
084ホームページ等による、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報の発信								

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
観光かながわNOW情報発信事業	ホームページ等による、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報の発信した。	美術館等の位置を分かりやすく示した観光マップ（クリックابل）を掲載する。トップページにて、イベント情報を発信する他、文化芸術イベントの公演情報等の詳細を発信する「マグカル・ドット・ネット」と「観光かながわNOW」をリンクさせる。	—	通年	—	—	—	—
無形民俗文化財及び民俗行事等の情報提供	神奈川県が無形民俗文化財及び民俗行事等の開催日時の掲載、「鹿島踊」報告書の掲載を行った。	—	ページビュー数：2,468件	—	—	「民俗芸能記録保存調査（胎屋踊り、万作踊り）」の調査を行うことができた。民俗芸能・祭礼行事のコロナ禍を踏まえた現状について各市町村担当者あてにアンケート調査を実施した。	—	—
085地域の産品の普及、伝統的工芸品の製品フェア開催など文化資源の普及、育成								
関東ブロック伝統的工芸品展2022	関東甲信越静地区の伝統的工芸品展に伝統的工芸品産業（産地）従事者が出展するための支援を行った。	県のより多くの伝統的工芸品（箱根寄木細工、小田原漆器、鎌倉彫 計3品）を周知するため、産地組合を通じ、各産地すべてに参加を促した。	来場者数：2,500人	2022年11月5日、6日	東京国際フォーラム（ロビーギャラリー2）	—	—	—
伝統的工芸品祭 銀座名匠市	大消費地での全国伝統的工芸品展に伝統的工芸品産業（産地）従事者が出展するための支援を行った。	県のより多くの伝統的工芸品（箱根寄木細工、小田原漆器、鎌倉彫 計3品）を周知するため、産地組合を通じ、各産地すべてに参加を促した。	来場者数：22,938人	2023年2月23日から28日まで	松屋銀座	—	—	—
工芸技術所所内公開と寄木ストラップ作り	かながわサイエンスサマーの参加行事として、工芸技術所の所蔵品を専門員の解説付きで案内するとともに、寄木ストラップ作りの体験を行った。	地元広報誌での情報掲載や、地元小学校への個別広報等、広く周知活動を行った。	来場者数：237人	2022年8月4日	中小企業支援課小田原駐在事務所	—	—	—
工芸技術所所蔵品公開	11月の伝統的工芸品月間に合わせ、所蔵する伝統工芸品を専門員の解説付きで公開するとともに、かながわ県民センターにおいて伝統工芸品の小展示を行った。	県のたよりや、地元広報誌での情報掲載等、広く周知活動を行った。	来場者数：29人（中小企業支援課小田原駐在事務所会場）	2022年11月16日、11月22日、11月30日（中小企業支援課小田原駐在事務所会場） 2022年11月1日から15日まで（かながわ県民センター会場）	中小企業支援課小田原駐在事務所及びかながわ県民センター	—	—	—
伝統的工芸品と宿泊事業者とのマッチング事業	有名宿泊施設と連携して、本県の伝統的工芸品を宿泊施設にて展示・販売する。	有名宿泊施設と本県の伝統的工芸品産地との連携を構築した。	—	①2022年10月7日から2023年1月31日 ②2023年2月8日から5月7日	①インターコンチネンタルホテル横浜 Pier 8 ②ホテル椿山荘東京	—	—	—
086フィルムコミッション活動支援事業の推進								
フィルムコミッション活動支援事業	神奈川ロケーションサポートデスクの設置（制作会社からの問合せに対して、お薦めロケ地のPRや、フィルムコミッションの紹介、市町村との調整などの機能を担う。）	公益社団法人神奈川県観光協会の実施する各種観光プロモーション事業と効果的かつ一体的に実施するため、2018年4月から同協会に神奈川ロケーションサポートデスク事業を移管。	神奈川ロケーションサポートデスクへの問い合わせ件数…178件 4月…19件 5月…17件 6月…18件 7月…18件 8月…13件 9月…11件 10月…19件 11月…17件 12月…21件 1月…8件 2月…13件 3月…4件	通年	（公社）神奈川県観光協会	—	—	—
087各市町村における文化活動の情報交換・連携								
かながわ県民文化祭	9月から12月を「県民文化祭」の期間に位置付け、期間中に県、市町村、民間団体等の文化事業を一体的かつ効果的に広報を行うことで、県民が県内各地の様々な文化芸術活動に参加し、楽しみ、その活動を通じて、地域のにぎわい・つながりを作ることを目指す。	県の媒体を活用した広報活動を実施するとともに、twitterを活用したリツイートキャンペーンを実施し、事業の周知を図った。	参加プログラム数：235件	—	県内全域	—	再掲	重点施策5
市町村文化行政連絡会議	文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、神奈川の文化プログラムを推進するため、県内市町村と連携しながら取り組むことを目的とした会議を開催するもの。	県からの一方的な発信にならないよう、参加した全市町村からそれぞれの文化政策について発言をしていただき、情報共有を行っている。	第一回：35人 第二回：31人 第三回：31人	第一回：2022年4月21日 第二回：2022年12月1日 第三回：2023年3月14日	第一回：対面・オンライン併用 第二回・第三回：オンライン	—	—	重点施策5
(4) 景観の形成								
ア 良好な景観の形成								
088「神奈川景観づくり基本方針」に基づく魅力ある景観づくりの推進								
景観計画策定等に係る意見交換会	神奈川景観づくり基本方針では、景観づくりを推進する上で市町村の役割の重要性から「全ての市町村が景観行政団体となるよう支援する」旨を定めており、未移行団体の町と意見交換を実施した。	—	7町1村	2022年12月19日～27日	WEB開催（ZOOM）	—	—	—
089文化財保護法に基づく重要文化的景観の選定に係る検討								
文化財保護法に基づく重要文化的景観の選定に係る検討	文化庁や全国文化的景観地区連絡協議会による研修や普及啓発について県の関係部局及び県内市町村に周知した。	—	—	—	—	文化庁や全国文化的景観地区連絡協議会による研修や普及啓発について県の関係部局及び県内市町村に周知した。	—	—

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
(1) 学校施設、公共的施設の活用等								
ア 公共的施設等の活用								
090 学校施設、公共的施設の文化芸術活動の練習、稽古、発表の場としての活用								
マガル開放区	県庁前の日本大通りを活用し、音楽、ダンス、大道芸等のジャンルを問わず自由に発表できる開放的な空間である「開放区」を実施した。	2022年10月より、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら再開。計11回実施。	出演者数：400人 参加者数：35,088人	10/2、10/23、11/6、12/4、12/25、1/15、1/29、2/5、2/19、3/5、3/19	県庁前日本大通り	—	再掲	
県立学校施設開放事業	県立学校の図書室・音楽室などの学習施設や、グラウンド・体育館などの体育施設を県民の学習・文化活動やスポーツ活動の場として提供した。	地域住民が利用しやすいよう、土曜日又は日曜日のいずれか半日以上を原則開放日として設定している。	学習施設：開放校数22校、利用人数2,137人 体育施設：開放校数147校、利用人数181,460人	通年	各県立学校	—		
(2) 県立文化施設の充実								
ア 県立文化施設の機能の充実								
091 県立文化施設（ホール、劇場等）の計画的な維持・保全・拡充								
県民ホール本館の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	県民ホール本館	非常放送設備改修工事など、29件の修繕・工事を実施した。		重点施策5
KAAT神奈川芸術劇場の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	KAAT神奈川芸術劇場	大スタジオ機構卓・制御系更新工事など、20件の修繕・工事を実施した。		重点施策5
県立音楽堂の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	音楽堂	神奈川県の工事として客席扉更新工事、地下漏水対応工事、建物外東側緑石補修工事を行った。音楽堂の工事として、積立金を活用し防犯カメラ、モニター増設工事を行った。		重点施策5
県立近代文学館の整備・修繕	施設の円滑な運営及び利用者の利便に供するための修繕・工事等を実施した。	施設の利用に支障を来すことなく、適切な時期に工事を実施することができた。	—	通年	神奈川近代文学館	空調関連設備、電動書架などの修繕・工事を実施した。		重点施策5
青少年センターホール天井等改修工事	青少年センターホール天井等の改修工事を行った。また、舞台用エレベーターの改修工事を開始した。	施設利用者への影響をなるべく少なくするように工夫しながら、改修工事を実施することができた。	—	(天井工事、人用エレベーター工事の契約期間) 2022年2月7日～2023年1月4日 (舞台用エレベーター改修工事契約期間) 2022年9月14日～2023年6月30日	—	—		重点施策5
092 施設の機能としての人材育成								
2022年度劇場運営インターン(KAAT神奈川芸術劇場)	現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業政策・劇場運営の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供した。	劇場運営のインターンは、現場での実務を通して、公立文化施設のあり方や、事業政策・劇場運営の基本的な業務について実践的に学ぶ場を提供した。昨年度は、社会連携ポータル課職員や制作スタッフの指導の下、KAAT神奈川芸術劇場で上演されたKAATキッズ・プログラム2022「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」の公演制作やワークショップの運営業務に携わり、劇場運営の就業体験を行った。	5人	2022年7月18日～7月24日	KAAT神奈川芸術劇場	—	再掲	重点施策5
生徒を対象とした舞台技術研修	2021年度に新設された神奈川総合高校・舞台芸術科を対象とした講座を実施。教育課程カリキュラムの一環としたプログラムを提供する。	施設見学や芸術監督から直に話を聞くことで文化施設での業務全体を体験できるようにした。	①のべ105人 26日(火)27人 27日(水)28人 28日(木)25人 29日(金)25人 ②32人	①2022年7月6日～9日 ②2022年9月27日	KAAT神奈川芸術劇場	—	再掲	重点施策5
室内オペラ・制作広報インターン事業の実施	室内オペラ制作と広報を軸に公共ホールでの事業実習を含むインターンシップを実施した。	音楽堂室内オペラ・プロジェクトの一環として音楽堂公式アカウントでインターンによる広報SNS発信、オペラの衣装のパネルを制作して会場ロビーに展示する等を行った。また、座学を充実させ、アートマネジメントへの幅広い知見を得る機会となるよう工夫を行った。	2人	2022年9月6日～11月1日	音楽堂	—	再掲	重点施策5
昭和音楽大学寄付講座	昭和音楽大学と連携し、劇場職員による講義を実施した。	大学院の「音楽マネジメント特殊講義VI」の講義を実施した。	23人	2022年11月13日 2022年11月27日 2023年1月8日 2023年1月9日	県民ホール本館、KAAT神奈川芸術劇場、昭和音楽大学	—	再掲	重点施策5
劇場体験インターン事業	公共ホールでの文化事業の実習として、音楽事業制作と施設運営の両面を学び・体験する事業を実施した。	公立文化施設における文化事業を学ぶため、座学で学んだうえで、制作の現場を体験する内容とした。	6人	2022年12月19日～2023年1月10日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策5
大学等と連携した人材養成プログラム(県民ホール)	東京音楽大学と連携して、学生たちと教員が声楽、弦楽、ピアノ等を案内する形での人材育成を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	30人	2023年3月5日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策5
劇場運営マネジメント講座	県内の劇場・文化施設の施設利用担当者を主な対象とし、専門性を高く設定した人材育成講座を実施した。	①これからのインクルーシブ社会と公立文化施設の取組、②利用業務の能力をブラッシュアップする「基本を学びなおす」の2つの講座を実施した。	50人	①2023年2月22日 ②2023年3月20日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策5
プロフェッショナルアーティスト養成事業(県民ホール)	県民ホールで実施する公演のオーディション等により、若手の芸術家を養成する事業を実施した。	主にホールで実施する公演事業のリハーサルや上演の機会を活用して劇場ならではの人材育成プログラムを実施した。	①27人 ②4人	①2022年4月29日 ②2022年8月3日	県民ホール本館	—	再掲	重点施策5
青少年ダンス講習会	青少年、教員等を対象に、ダンス創作の基礎的理論や創作方法の習得を目的に講習会を実施した。	—	239人	2022年8月10日、11日	茅ヶ崎市民文化会館大ホール	—	再掲	重点施策5

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
中・高等学校演劇講習会	中・高等学校の生徒と教員を対象に、学校演劇における基礎的理論と実技を習得し、演劇発表に活用することを目的に、演出、演技、舞台技術、照明、音響等に係る総合的な創造方法を学習する機会を提供した。	—	中学生：421人 高校生：277人	中学校：2022年8月6日、7日 高等学校：2022年7月30日、31日	中学校・高等学校：小田原三の丸ホール（大ホール、小ホール、スタジオ、展示室）	—	再掲	重点施策5
青少年の舞台表現のためのスキルアップクラス	時代に合ったより実践的な支援内容を幅広く提供し、青少年による演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することを目的として、中高生向けの3つの先進的なワークショッププログラム（映像、ダンス振付、舞台美術）を実施した。	映像編は実際に講師の創作現場の会場で実施することで、より実践的な体験とした。	①映像編6人 ②ダンス編33人 ③舞台美術編10人	①映像編 2022年7月20日 ②ダンス編 2023年3月29日、30日 ③舞台美術編 2023年3月27日、28日	①映像編：青少年センター スタジオ HIKARI ②ダンス編：相模女子大学グリーンホールリハーサル室 ③舞台美術編：横浜市教育会館4階ホール	—	再掲	重点施策5
心技体+創ワークショップ	コンテンポラリーやヒップホップといった比較的新しい身体表現による創作に取り組む、学校におけるダンス部の活動を対象として、第一線で活躍するアーティストが指導を行い、青少年が主体的にダンスに取り組む姿勢や、グループでの創作のための基礎を実践的に学ぶ機会を提供し、ダンスと向き合う上での心技体の基礎を学ぶもの。	—	20人	2023年3月18日、19日	海老名市門沢橋コミュニティセンターレクリエーション室	—	再掲	重点施策5
イ運営方法の点検等								
093施設利用者を対象としたアンケート調査の実施								
利用者満足度調査	来館者・貸館利用者・ホームページ閲覧者等を対象に満足度調査を実施した。	調査回答数を増やすため、期間を2カ月程度で実施。	—	2022年11月4日～2023年1月31日（県民ホールは11月4日～12月29日、KAATは11月30日～1月31日、音楽堂は、12月1日～1月31日）	県民ホール本館、KAAT神奈川芸術劇場、音楽堂、各館ホームページ	—	—	—
094施設運営会議等による施設運営や実施事業の点検・検証								
神奈川県立県民ホール及び音楽堂指定管理業務実績評価委員会	3館一体による効率的な運営が行われているか、チェックするため、公募委員を含む6名により指定管理者が行う自主事業公演のモニタリングを行い、その内容について年1回会議を開催した。	—	—	2022年4月1日～2023年3月31日	県民ホール本館、KAAT神奈川芸術劇場、音楽堂等	—	—	—
095施設運営全般についてのモニタリングの実施								
行政によるモニタリング（月報、事業報告書、モニタリング結果報告、指定管理業務総括調査）	指定管理者に対して、県の行政管理課が定める「指定管理者制度の運用に関する指針」等に基づくモニタリングを実施した。	—	—	月例報告書の確認：毎月 モニタリング結果報告書作成：年1回	—	—	—	—
(3) 情報通信技術の活用								
ア情報の発信								
096ホームページ、SNS、ポータルサイト、電子メールを活用した文化芸術情報の提供の強化								
県立近代文学館におけるホームページ、SNSの活用	SNSの積極的な活用やコミックとのコラボレーションによりホームページ利用のアクセス数を高く維持し、広く広報周知活動を行った。	展覧会紹介、資料紹介等に加え、文学者の誕生日命日などにもSNSで発信するなど、日々新しい話題を提供した。	ホームページアクセス数(公式noteを含む)：282,258件 動画コンテンツ視聴数：計613件	通年	神奈川近代文学館ホームページ及びSNS	講演会の動画公開など新たにコンテンツを公開した。	再掲	重点施策5
マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。併せて、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。また、外国人向け特集記事を作成し、ネイティブによる多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	読み物として楽しめる特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。	2021年度PV（ページビュー）数414,764	通年	インターネット上	—	再掲	重点施策5
観光かながわNOW情報発信事業	ホームページ等による、県内の伝統的な行事や祭りの開催など文化資源に関する地域情報の発信した。	美術館等の位置を分かりやすく示した観光マップ（クリックタブ）を掲載する。トップページにて、イベント情報を発信する他、文化芸術イベントの公演情報等の詳細を発信する「マグカル・ドット・ネット」と「観光かながわNOW」をリンクさせる。	—	通年	—	—	再掲	重点施策5
外国語観光情報ウェブサイト多言語化・運用管理等業務	外国語観光情報ウェブサイト「Tokyo Day Trip—Kanagawa Travel Info—」と「Magcul.net」の双方が多言語化されているため、言語別にリンク先のURLを切り替えている。	—	—	通年	—	—	—	重点施策5
県立金沢文庫における情報提供の実施	金沢文庫で開催する展覧会や講座などのイベントについて、金沢文庫HPやTwitterで広報をおこなった。	展覧会の目玉となる作品や金沢文庫が管理する国宝「金沢文庫文書」の作品紹介を定期的にTwitterで紹介し、展覧会や金沢文庫の保管する資料の魅力を伝えるよう発信した。	HP閲覧件数：327,914件（※2月からホームページのサーバーが「PLANETかながわ」から「教育委員会ネットワーク」に変わり、「教育委員会ネットワーク」は、サーバがクラウドなので、閲覧件数のカウントができないため、2～3月分は、「PLANETかながわ」を経由した分のみの件数となっている。） Twitter発信件数：267件	—	—	—	再掲	重点施策5

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
県立近代美術館における情報提供の実施	プレスリリースを報道関係者にメールで配信した。 また、Twitter上で美術館の日々の活動を発信した。	各々の電子媒体によって、対象に合わせた内容を発信した。	プレスリリースのメール配信件数：11件 Twitter発信数：323回	—	—	—	再掲	重点施策5
県立歴史博物館における情報提供の実施	HP (Twitter含む) を活用した情報提供や刊行物、マスメディア (紙・電波媒体、ネット) による情報発信を行った。	新聞等のマスメディアへの露出機会を増やすために、きめ細やかな情報提供に努めた。 また、「おうちでかながわわけんぱく」等のオンラインでの情報発信も引き続き継続した。	690件 【内訳】 ・HP (Twitter含む) : 433件 ・特等チラシ・ポスター : 10件 その他 : 243件 (新聞 : 133、雑誌 : 27、テレビ : 13、ラジオ : 7、WEB : 57、その他 : 6) ・催し物のご案内 : 1件 ・博物館だより : 3件	—	—	—	再掲	重点施策5
097保存資料等の検索・閲覧等に関する情報通信技術の活用								
県立金沢文庫における「国宝 金沢文庫文書データベース」の公開	金沢文庫が管理する国宝「金沢文庫文書」の画像を、PCやスマートフォンで検索・閲覧できるデータベースを改良し、他の史料データベースとの連携を可能にして、利便性を向上させた。	より検索しやすいシステムに改良するとともに、公開件数を増加させた。	アクセス件数 : 54,330件	—	—	—	—	—
イ利便性の向上								
098施設利用予約システムの運用								
施設予約システムの運用	公共施設利用予約の共同運営を実現するための神奈川電子自治体共同運営サービスを県と市町村が共同して提供する。	原則24時間どこからでもインターネットを通じて、県内公共施設の空き状況の照会や予約申込を行えるようにすることで、県民の利便性を向上させるとともに、職員側の施設予約管理に関する事務処理の効率化を図る。	2022年度利用件数 1,088,119件 (県のみ) (内訳) ・抽選申込数 926,820件 ・予約申込数 161,299件	通年	—	—	—	—
ウ文化芸術にかかわる資料、作品、情報等の保存								
099県立文化施設等における取蔵資料等のデジタル化、データベース化の推進								
県立近代文学館における所蔵資料のデータベース化	所蔵資料 (図書、雑誌、特別資料) のデータベース化は、利用者の利便性向上のために重要であることから、当年度もインターネット公開を進めた。	独自の入力項目等により、近代文学の専門館としてのデータ水準を維持している。	特別資料検索利用登録者 : 135人 (累計 2,641人)	通年	神奈川近代文学館	本年度の図書、雑誌、特別資料を合わせた電算化入力件数は11,419冊 (件) となり、累計は1,277,613冊 (件) となった。 特別資料 (原稿、自筆資料、書簡など) に関しては、新たに7,932件のデータがインターネットで検索可能となった。	—	—
県立金沢文庫における「国宝 金沢文庫文書データベース」の公開	金沢文庫が管理する国宝「金沢文庫文書」の画像を、PCやスマートフォンで検索・閲覧できるデータベースを改良し、他の史料データベースとの連携を可能にして、利便性を向上させた。	より検索しやすいシステムに改良するとともに、公開件数を増加させた。	アクセス件数 : 54,330件	—	—	—	再掲	—
県立近代美術館における取蔵資料等のアーカイブ事業	開館以来の活動により蓄積された貴重な記録資料の整理・保存並びに提供ができる環境を整備した。	アーカイブ化した資料はインターネット上で公開を行っている。	公開件数 : 2,302件	—	—	—	—	—
県立歴史博物館における博物館情報システムデータ整備	取蔵資料のデータベース化を推進した。	—	登録件数 : 6,388件	—	—	—	—	—
エ東京2020大会を契機とした取組								
100多言語による情報提供								
マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。 併せて、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。 また、外国人向け特集記事を作成し、ネイティブによる多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	読み物として楽しめる特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。	2021年度PV (ページビュー) 数 414,764	通年	インターネット上	—	再掲	重点施策4、5
イベントカレンダー	県内の文化イベント情報をカレンダー形式で掲載する日英併記の情報誌「イベントカレンダー」を作成した。	毎月特集ページを設け、県事業のPRを行った。	発行部数 270,000部	年4回発行 6～8月号 9～11月号 12～2月号 3～5月号	県内、都内の文化施設、駅、商業施設等で配布	—	再掲	重点施策4、5
外国籍県民施策推進事業費	①多言語情報紙「こんにちは神奈川県」の作成 ②多言語による県民情報提供	記事や発行趣旨に合ったイラストを盛り込み、より適切な表現になるよう多言語の翻訳チェックを行い、外国籍県民等が手に取りやすい紙面の作成をしている。	6言語 (日本語併記) 1回当たり20,300部 発行 A4版4ページ。	①8月、11月、3月の年3回の発行 ②年間随時	①県機関、市町村、都道府県、国際関係協会・センター、医療機関等約800箇所 ②ホームページ上	—	—	重点施策4、5
外国語観光情報ウェブサイト多言語化・運用管理等業務	外国語観光情報ウェブサイト「Tokyo Day Trip Kanagawa Travel Info」と「Magcul.net」の双方が多言語化されているため、言語別にリンク先のURLを切り替えている。	「Tokyo Day Trip Kanagawa Travel Info」と「Magcul.net」の双方が多言語化されているため、言語別にリンク先のURLを切り替えている。	—	通年	—	—	再掲	重点施策4、5
(4)文化芸術活動に対する支援の促進								
ア文化芸術活動に対する個人や企業等からの寄附や支援の促進								
101寄付税制等に関する周知								

IV 施策事業の実施状況一覧

令和4年度実績								
事業名	事業の内容	工夫点	参加者数	実施日	実施場所	その他の実績	再掲	重点施策
かながわキンタロウ寄附金（ふるさと納税）	県のふるさと納税及びかながわキンタロウブックキフの寄附メニューに文化事業のメニューとして「あらゆる人が文化芸術に触れ笑顔になれる社会を！」を掲載し、寄附を募った。	—	77人、6団体	通年	—	寄附総額 16,749,892円		
102文化芸術団体への寄附の促進								
神奈川芸術文化財団への寄附の促進	神奈川芸術文化財団HPに掲載するほか、主催公演時に芳名一覧とともに募集の告知を行い寄附を集めた。	チケット発売情報を掲載するメールマガジンにて小口寄付の募集を告知した。	賛助会員数 法人：47社 個人：16人 永年個人：2人	通年	—	個別協賛：7件 その他寄付：13件 広告協力：3社		
県立近代文学館への寄附の促進「友の会」	神奈川近代文学館「友の会」は、近代文学館を積極的に利用していただく方に向けて、入館料無料、行事や刊行物の会員価格割引、会員限定行事の開催など、さまざまな事業を行った。	—	会員数：1,033人	—	—	会員数は新型コロナウイルス感染症に伴う休館等の影響から徐々に回復しつつある。		
県立近代文学館への寄附の促進「神奈川近代文学館を支援する会」	「神奈川近代文学館を支援する会」は、法人、団体、事業主または個人を対象に近代文学館の広報や支援に協力いただくとともに寄付による税額控除を行っている。	—	会員数：101人(120口)	—	—	会員による支援によって、近代文学館の事業が充実するとともに、広報活動を幅広く行うことができた。		
103メセナ企業等に関する情報の提供								
企業メセナ協議会の相談窓口	「助成認定制度」の相談窓口として周知や積極的な活用を促進した。	県民ホールの入り口でのプレートを設置やパンフレットの設置等を行った。	—	通年	—	公益財団法人企業メセナ協議会の準会員として、報告会等に参加し、情報収集を行う。 また、財団音楽事業部長兼音楽堂館長がメセナ協議会の研修会の企画委員として参画している。		
マグカル・ドット・ネット	県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」において、県内の演劇・ダンス・音楽・映像など、各種イベント情報をリアルタイムで発信するほか、文化芸術に関する記事を作成した。併せて、ツイッター等のSNSにおいても情報発信を行った。また、外国人向け特集記事を作成し、ネイティブによる多言語翻訳を行うとともに、国内外向けのインターネット広告を通年で展開した。	読み物として楽しめる特集やコラムの作成を行い、内容の充実を図った。	2021年度 PV（ページビュー） 数 414,764	通年	インターネット上	—	再掲	
104メセナ企業と芸術家を結びつける方策の検討								
2022年度は実施しませんでした。								
(5) 顕彰の実施								
ア 顕彰の実施								
105神奈川文化賞・未来賞等による顕彰の実施								
神奈川文化賞・未来賞表彰事業	神奈川県在住、在職又は神奈川県に深いゆかりのある者で、神奈川の文化の向上発展に尽力し、その功績顕著な個人又は団体に対して「神奈川文化賞」を贈呈した。 2001年度に、神奈川文化賞の第50回を記念し、神奈川の文化の向上発展に貢献することが大いに期待される若い世代に贈呈するために「未来賞」を創設した。	3年振りに一般県民を招待したスタイルでの贈呈式を開催するに当たり、使用する施設の新型コロナウイルス感染症の予防対策ガイドラインを遵守するなど、感染症拡大防止対策を十分に講じた。	1,419人	2022年11月3日	神奈川県民ホール大ホール	受賞者6人 (文化賞：4人、未来賞：2人)	再掲	

V 進行管理のための参考指標等

1 総合計画「かながわグランドデザイン」における文化芸術の位置付け

総合計画は、県政運営の総合的・基本的指針として、神奈川の将来のあるべきすがたを描き、それに向けて県がどのような政策を展開するのか、県民の皆さんにお示しするものです。

県では、2012年に「かながわグランドデザイン基本構想」及び「かながわグランドデザイン実施計画」を策定するとともに、2015年には「かながわグランドデザイン第2期実施計画」を策定し、様々な課題への対応を着実に進めてきました。

そして、2018年度に「第2期実施計画」が最終年度を迎えたことから、2025年を年次目標とした「基本構想」の実現に向けて、2019～2022年度の4年間に取り組む政策を示した「第3期実施計画」を策定しました。

第3期実施計画においては、5つの「めざすべき姿」を掲げ、重点施策を分野横断的にとりまとめた23のプロジェクトなどに着実に取り組むこととしています。文化芸術は「ひとのチカラを最大限に生かす神奈川」の実現を目指す柱IV「ひとのチカラ」のプロジェクト15「文化芸術～文化芸術の魅力で人を引きつけ、心豊かで活力ある地域の実現～」として位置付けられています。

また、超高齢社会や人口減少社会への対応など非常に大きな課題を乗り越えるために、プロジェクトをさらに複合的に実施する取組を「神奈川の戦略」として8つの戦略をまとめており、神奈川の戦略6「マグネット・カルチャーの推進」として、文化芸術だけでなく各関連分野が有機的な連携を図りながら、「マグカル」の取組を推進することとしています。

なお、総合計画を補完する個別計画として「かながわ文化芸術振興計画」が位置付けられています。

プロジェクト15 文化芸術～文化芸術の魅力で人を引きつけ、心豊かで活力ある地域の実現～

文化芸術により真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな県民生活と、活力に満ちた地域づくりの実現が求められています。特に、東京2020大会に向け、伝統芸能を含む文化芸術により地域のにぎわいを創出するとともに、その成果をレガシーとして、大会後もコミュニティの再生・活性化に生かしていくことが必要です。そこで、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグカル（マグネット・カルチャー）の取組のさらなる展開を図るとともに、笑いがあふれる社会の実現を後押しします。また、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで、あらゆる人の文化芸術活動の充実を図ることで、共生社会づくりに寄与するとともに、心豊かな県民生活の実現に向けて取り組みます。

指標

○ 県文化芸術事業参加者数

2018年度	1,514,142人
2019年度	1,590,900人
2020年度	470,453人
2021年度	846,262人
2022年度	1,259,513人
(目標値)	(1,694,000人)

○ 神奈川県民ホール、神奈川芸術劇場、県立音楽堂、かながわアートホール及び神奈川近代文学館の利用者満足度

2018年度	97%
2019年度	97%
2020年度	97%
2021年度	95%
2022年度	97%
(目標値)	(97%)

具体的な取組

A 県民の文化芸術活動の充実

- 県内各地域の伝統的な文化芸術を次代に継承していくため、市町村との連携による地域の伝統芸能の発表の場を設け、県内外に発信していくとともに、技術・技能の継承者の育成に取り組みます。
- 年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで、あらゆる人が文化芸術に親しめるよう、鑑賞・参加機会を確保するとともに、年齢や障がいなどで異なる鑑賞・参加の手法などを整理し、文化芸術を通じた共生社会実現の環境づくりを進めます。
- 神奈川の文化芸術の将来を担う人材を輩出するため、県立施設などにおいて、あらゆる人を対象とした鑑賞事業、体験事業を実施していきます。特に、県立青少年センターではマグカルシアターなどの取組を軸として舞台芸術の裾野を広げるとともに、神奈川芸術劇場では国際的に通用する人材を育成する取組を推進します。

KPI（重要業績評価指標）※1	年度	目標値	実績値	進捗率
① 伝統芸能の体験・ワークショップ等の回数(回)	2018		12	
	2019	13	12	92.3%
	2020	13	1	7.6%
	2021	14	3	21.4%
	2022	14	20	142.8%
② 共生共創事業の公演等の参加者数(人)	2018		2,532	
	2019	5,000	6,947	138.9%
	2020	5,400	4,267	79.0%
	2021	5,700	4,764	83.5%
	2022	6,000	8,152	135.8%
③ マグカルシアター等参加者数(人)	2018		6,572	
	2019	10,000	7,252	72.5%
	2020	10,200	2,912	28.5%
	2021	10,400	6,083	58.4%
	2022	10,500	8,357	79.5%

※1 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、事業が中止等となったことで、実績値が目標値を下回った。

V 進行管理のための参考指標等

B 文化資源を活用した地域づくりの推進

- 文化資源を活用した地域づくりを進めるため、文化芸術の魅力を発信する文化プログラムについて、官民一体となったオール神奈川による展開と定着を図ります。特に東京2020大会を契機に、インバウンドも意識した展開を図り、その後もレガシーとして地域の継続的な活性化につなげます。
- 県内の文化資源の発掘に努め、その具体的な活用を進めます。また、地域の活性化などに活用可能な文化資源については、市町村、文化芸術団体、芸術家などとの連携により有効活用を図ります。

KPI(重要業績評価指標)	年度	目標値	実績値	進捗率
① 神奈川文化プログラム認証件数(件)	2018		425	
	2019	430	497	115.6%
	2020	460	486	105.6%
	2021	460	277	60.2%
	2022	460	605	131.5%
② 県文化芸術振興審議会が選定した質の高い文化芸術活動を行う非営利活動団体数(団体)	2018		36	
	2019	37	38	102.7%
	2020	38	41	107.8%
	2021	39	50	128.2%
	2022	40	43	107.5%

V 進行管理のための参考指標等

C 文化芸術の振興を図るための環境整備

- 地域からの持続的な文化芸術の振興が図られるよう、市町村との会議による情報交換や、市町村や文化芸術団体と協力した事業の実施や人材育成の支援に取り組みます。
- 県内外にマグカルファンが広がるよう、県の文化芸術ポータルサイト「マグカル・ドット・ネット」による情報発信や「イベントカレンダー」の発行など、県内各地の文化芸術イベント情報の掲載に加え多言語対応を行うなど、積極的な情報発信を推進します。

KPI(重要業績評価指標)	年度	目標値	実績値	進捗率
① 県立文化施設で育成した文化芸術を担う人材数(計画期間中の累計)(人)	2018		—	
	2019	145	85	58.6%
	2020	290	282	97.2%
	2021	435	556	127.8%
	2022	580	872	150.3%
② 「マグカル・ドット・ネット」のページビュー数(PV)	2018		357,231	
	2019	364,600	398,712	109.4%
	2020	372,200	307,480	82.6%
	2021	379,800	414,764	109.2%
	2022	387,400	478,223	123.4%

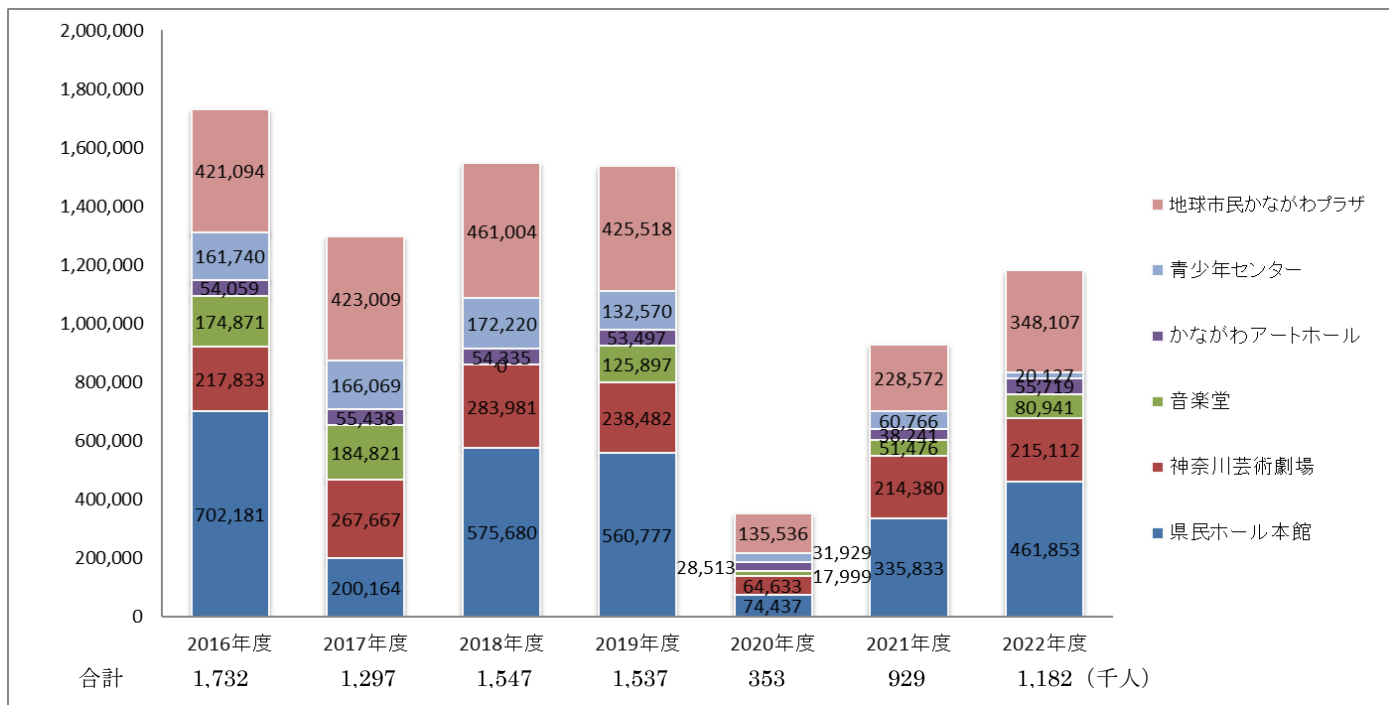
SDGsとの関係について

「第3期実施計画」では23のプロジェクトとSDGsの17のゴールとの関連を分析し、整理しています。プロジェクト15「文化芸術」は、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」、ゴール4「質の高い教育をみんなに」、ゴール8「働きがいも経済成長も」、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連しています。



2 県立文化施設の利用者数

(1) ホール・劇場等



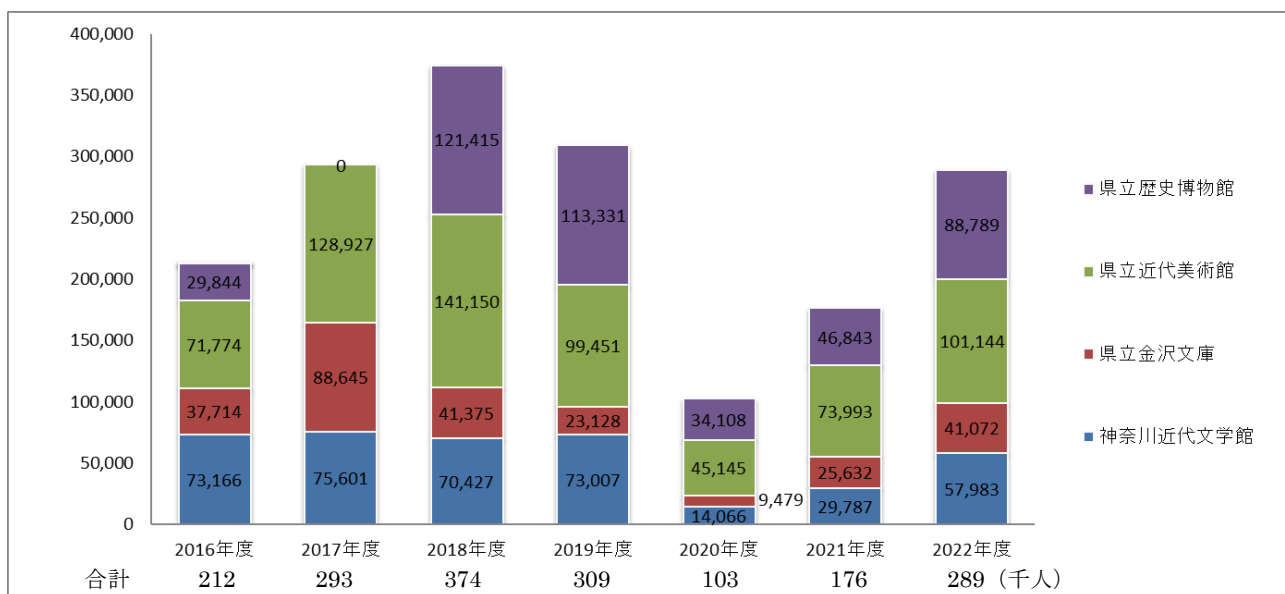
○休館期間

県民ホール本館：2013年12月2日から2014年9月30日、
 2017年7月3日から2018年3月31日、
 2018年4月1日から5月31日（大ホールのみ）
 音楽堂：2018年4月1日から2019年5月31日

【新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る休館期間】

県民ホール本館：2020年4月7日から8月31日
 2021年1月9日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
 KAAT 神奈川芸術劇場：2020年4月7日から7月13日
 2021年1月9日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
 音楽堂：2020年4月7日から8月31日
 2021年1月9日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
 かながわアートホール：2020年4月13日から6月19日
 2021年1月9日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
 青少年センター：2020年4月7日から8月31日
 2021年1月8日から10月24日（既に予約済みのものは除く）
 地球市民かながわプラザ：2020年4月9日から5月31日
 2021年1月9日から10月25日（既に予約済みのものは除く）

(2) 美術館・博物館等



※県立近代美術館：葉山館、鎌倉別館のこと

○休館期間等

県立金沢文庫：2019年11月18日から2020年3月26日

県立近代美術館

鎌倉別館：2016年2月1日から7月29日、

2016年12月26日から2017年3月31日

2017年9月4日から2019年10月11日

2020年7月6日から2021年9月30日

葉山館：2020年1月から6月（展示休止）

県立歴史博物館：2016年6月1日から2018年4月27日

神奈川近代文学館：2021年12月1日から2022年3月31日

2023年1月31日から2月10日

【新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る休館期間】

神奈川近代文学館：2020年3月4日から6月12日

2021年1月12日から3月19日

2021年3月20日から10月24日（事前予約した方に限り入館可能）

県立金沢文庫、県立近代美術館、県立歴史博物館：

2020年3月4日から6月8日

2021年1月12日から3月21日

2021年3月26日から10月25日（事前予約した方に限り入館可能）

2022年1月21日から3月21日（事前予約した方に限り入館可能）

V 進行管理のための参考指標等

3 文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識、満足度

(1) 全県

文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識は高いが、満足度は低い。

質問項目	年度	生活重要度		生活満足度	
		重要	重要でない	満たされている	満たされていない
文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること	2022	51.4%	14.4%	21.8%	22.3%
	2021	49.9%	14.9%	20.2%	24.0%
	2020	51.3%	12.2%	21.3%	22.0%
	2019	48.4%	14.4%	26.4%	19.5%
自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること	2022	79.2%	2.8%	21.3%	35.4%
	2021	76.4%	3.3%	21.4%	36.2%
	2020	75.6%	3.5%	20.4%	31.3%
	2019	71.9%	5.1%	17.5%	33.6%
自然や歴史・文化、景観など地域の特性を生かしたまちづくりが行われること	2022	65.7%	6.8%	19.2%	18.0%
	2021	63.8%	6.5%	20.2%	18.0%
	2020	67.1%	5.6%	21.6%	17.1%
	2019	65.8%	4.9%	19.1%	16.7%

(2019、2020、2021、2022 年度県民ニーズ調査)

V 進行管理のための参考指標等

(2) 地域別

文化芸術の鑑賞・活動の重要性に関する意識は高いが、満足度は低い。

「文化や芸術を鑑賞したり、活動に参加できる場が身近に整っていること」

重要性に関する意識

(人、%) 満足度

(人、%)

数 段：%	上段：実 下		全 体	非 常 に 重 要 で あ る	か な り 重 要 で あ る	ど ち ら と も い え な い	さ ほ ど 重 要 で な い	ま つ た く 重 要 で は な い	分 か ら な い	無 回 答
	人	%								
全体	1,404	100.0	203	518	426	165	36	31	25	
横 浜	533	100.0	90	202	141	59	16	13	12	
川 崎	190	100.0	36	75	51	18	4	5	1	
相模原	99	100.0	16	23	39	15	4	1	1	
横須賀三浦	128	100.0	18	52	38	16	-	4	-	
県 央	141	100.0	15	50	43	21	5	3	4	
湘 南	220	100.0	18	80	83	25	6	5	3	
県 西	48	100.0	2	19	20	7	-	-	-	
無回答	45	100.0	8	17	11	4	1	-	4	
性別	全体	1,404	203	518	426	165	36	31	25	
男 性	629	100.0	77	210	219	74	27	12	10	
女 性	722	100.0	118	289	194	85	8	18	10	
無回答	53	100.0	8	19	13	6	1	1	5	
年代別	全体	1,404	203	518	426	165	36	31	25	
18～19歳	10	100.0	6	3	1	-	-	-	-	
20歳代	90	100.0	26	25	19	12	4	4	-	
20歳代以下	100	100.0	32	28	20	12	4	4	-	
30歳代	185	100.0	44	58	44	26	7	5	1	
40歳代	319	100.0	48	108	94	47	12	4	6	
50歳代	300	100.0	33	96	108	46	10	4	3	
60歳代	195	100.0	17	94	58	15	1	6	4	
70～74歳	153	100.0	13	66	53	11	1	5	4	
75歳以上	105	100.0	9	49	36	4	-	3	4	
無回答	47	100.0	7	19	13	4	1	-	3	

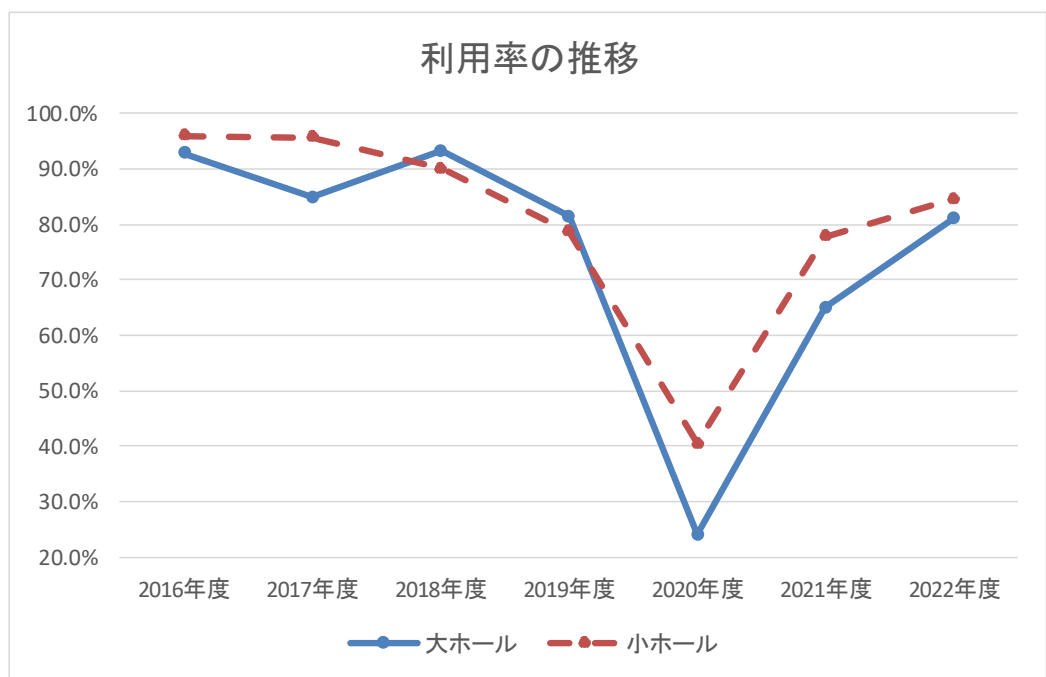
段：実数 下段：%	全 体	十 分 満 た さ れ て い る	か な り 満 た さ れ て い る	ど ち ら と も い え な い	い あ ま り 満 た さ れ て い な い	ほ と ん ど 満 た さ れ て い な い	分 か ら な い	無 回 答
全体	1,404	40	267	606	225	88	135	43
横 浜	533	19	116	212	90	27	50	19
川 崎	190	3	37	85	23	14	24	4
相模原	99	2	12	42	12	5	13	2
横須賀三浦	128	6	27	63	10	10	11	1
県 央	141	5	25	57	27	11	11	5
湘 南	220	4	37	108	36	13	18	4
県 西	48	1	4	26	9	2	5	1
無回答	45	-	9	13	7	6	3	7
性別	全体	40	267	606	225	88	135	43
男 性	629	21	103	285	105	40	61	14
女 性	722	19	154	307	111	42	68	21
無回答	53	-	10	14	9	6	6	8
年代別	全体	40	267	606	225	88	135	43
18～19歳	10	-	4	4	-	2	-	-
20歳代	90	11	18	29	15	4	12	1
20歳代以下	100	12.2	20.0	32.2	16.7	4.4	13.3	1.1
30歳代	185	6	34	74	29	11	29	2
40歳代	319	11	68	130	52	22	29	7
50歳代	300	8	51	150	31	21	32	7
60歳代	195	2	41	90	35	8	13	6
70～74歳	153	-	23	68	30	12	13	7
75歳以上	105	2	18	44	26	4	4	7
無回答	47	-	10	17	7	4	3	6

(2022年度県民ニーズ調査)

4 県立文化施設の利用率（ホール・劇場等）

(1) 県民ホール本館

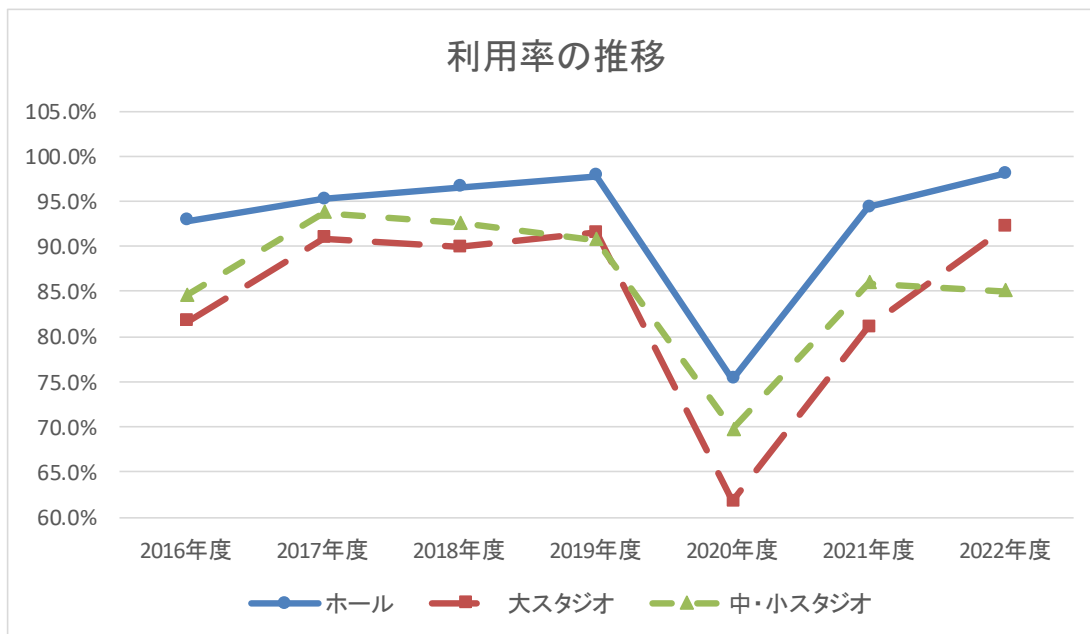
年度	大ホール			小ホール		
	利用可能日数（日）	利用日数（日）	利用率	利用可能日数（日）	利用日数（日）	利用率
2016年度	333	309	92.8%	340	326	95.9%
2017年度	92	78	84.8%	93	89	95.7%
2018年度	282	263	93.3%	339	305	90.0%
2019年度	337	274	81.3%	341	268	78.6%
2020年度	297	71	23.9%	304	123	40.5%
2021年度	334	217	65.0%	338	263	77.8%
2022年度	322	261	81.1%	325	275	84.6%



※ 2017年7月3日から2018年5月31日までの期間については、改修工事のため休館

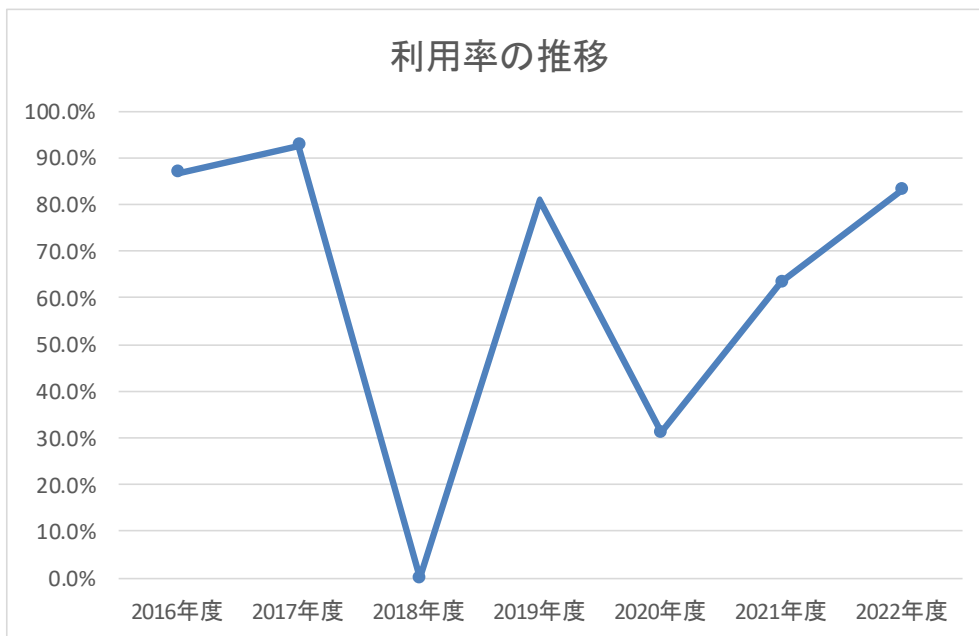
(2) KAAT 神奈川芸術劇場

利用状況 年度	ホール			大スタジオ			中・小スタジオ		
	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率
2016年度	323	300	92.9%	333	272	81.7%	351	297	84.6%
2017年度	315	300	95.2%	330	300	90.9%	349	327	93.7%
2018年度	319	308	96.6%	336	302	89.9%	349	323	92.6%
2019年度	317	310	97.8%	340	311	91.5%	345	313	90.7%
2020年度	291	219	75.3%	306	189	61.8%	320	223	69.7%
2021年度	281	265	94.3%	338	274	81.1%	349	300	86.0%
2022年度	317	311	98.1%	319	294	92.2%	354	301	85.0%



(3) 音楽堂

年度	利用状況	ホール		
		利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率
2016年度		295	256	86.8%
2017年度		297	275	92.6%
2018年度		-	-	0.0%
2019年度		246	199	80.9%
2020年度		273	85	31.1%
2021年度		295	187	63.4%
2022年度		278	231	83.1%

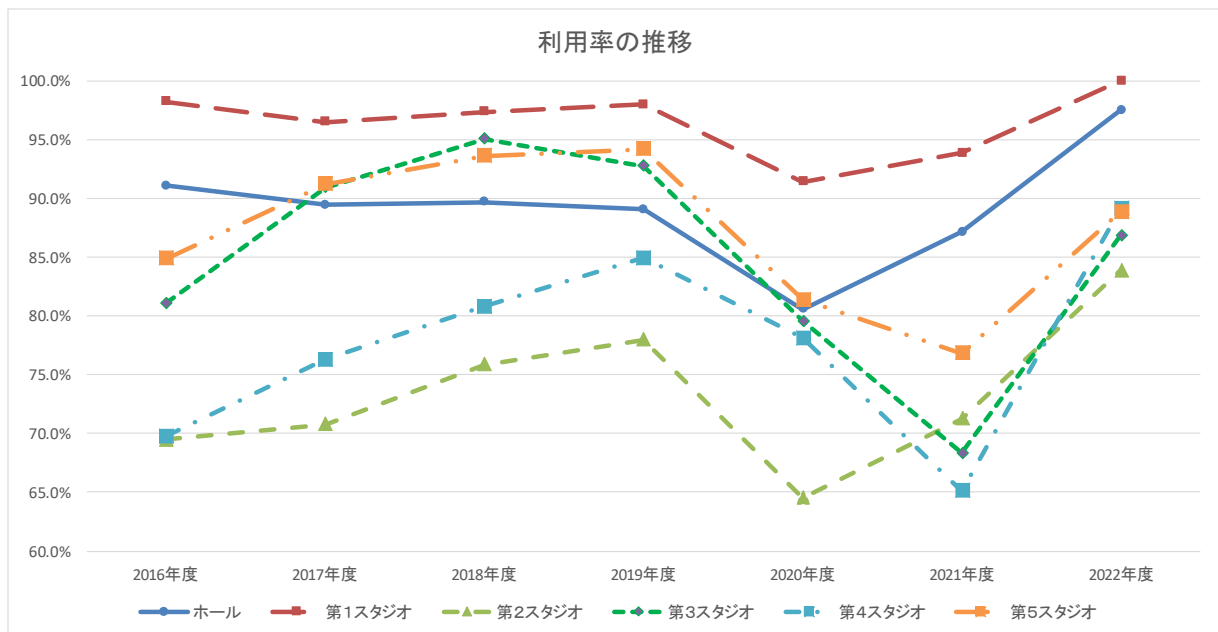


※ 2018年4月1日から2019年5月31日までの期間については、改修工事のため休館

V 進行管理のための参考指標等

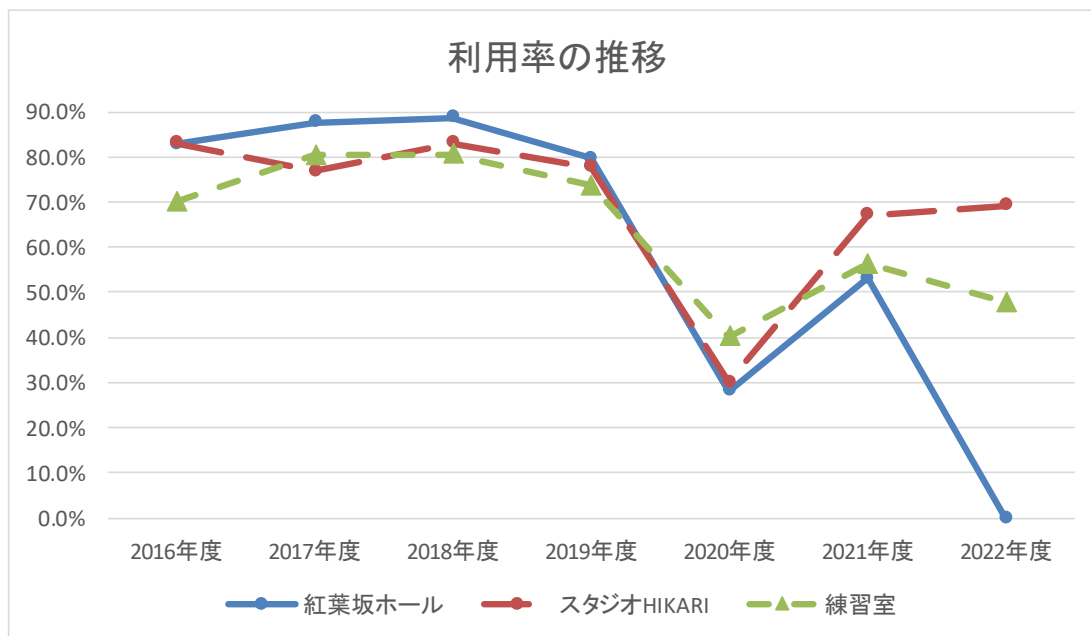
(4) かながわアートホール

利用状況 年度	ホール			第1スタジオ			第2スタジオ			第3スタジオ			第4スタジオ			第5スタジオ		
	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率
2016年度	336	306	91.1%	344	338	98.3%	344	239	69.5%	344	279	81.1%	344	240	69.8%	344	292	84.9%
2017年度	332	297	89.5%	342	330	96.5%	342	242	70.8%	342	311	90.9%	342	261	76.3%	342	312	91.2%
2018年度	320	287	89.7%	344	335	97.4%	344	261	75.9%	344	327	95.1%	344	278	80.8%	344	322	93.6%
2019年度	338	301	89.1%	345	338	98.0%	345	269	78.0%	345	320	92.8%	345	293	84.9%	345	325	94.2%
2020年度	278	224	80.6%	279	255	91.4%	279	180	64.5%	279	222	79.6%	279	218	78.1%	279	227	81.4%
2021年度	335	292	87.2%	341	320	93.8%	341	243	71.3%	341	233	68.3%	341	222	65.1%	341	262	76.8%
2022年度	322	314	97.5%	340	340	100.0%	341	286	83.9%	342	297	86.8%	342	305	89.2%	341	303	88.9%



(5) 青少年センター

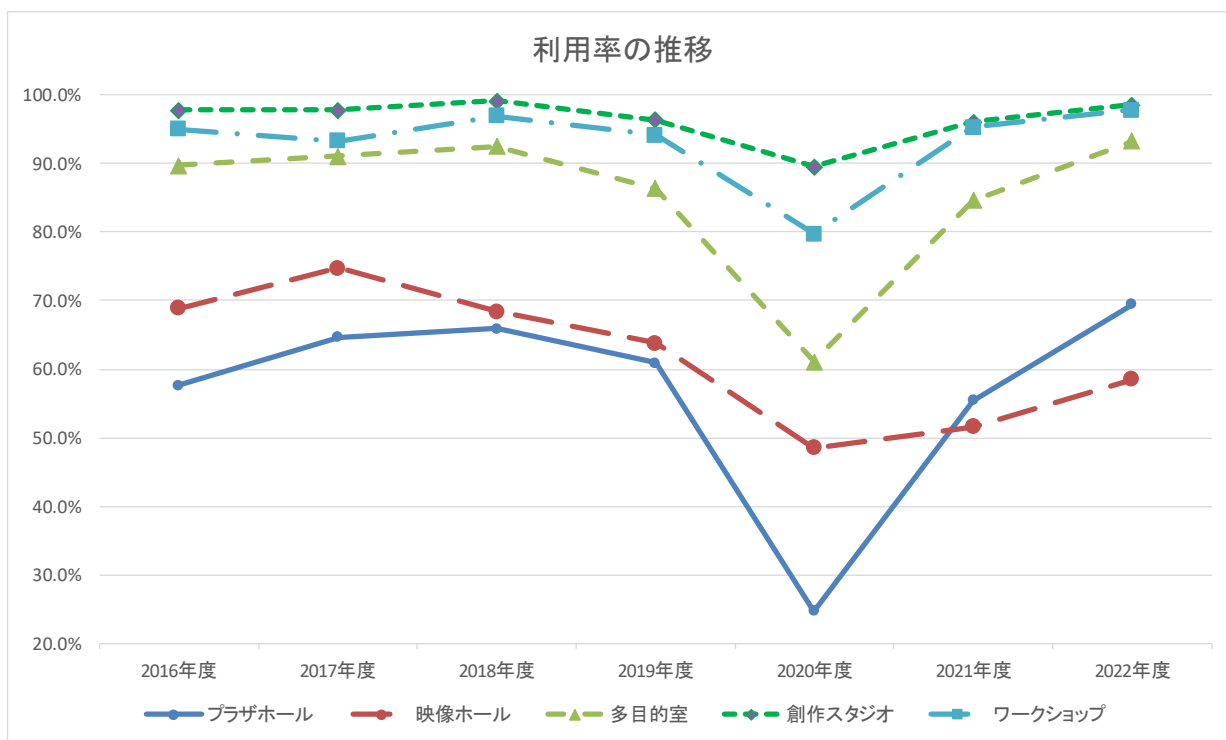
年度	紅葉坂ホール			スタジオHIKARI			練習室		
	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率
2016年度	297	246	82.8%	325	270	83.1%	335	235	70.1%
2017年度	301	264	87.7%	323	248	76.8%	321	258	80.4%
2018年度	302	268	88.7%	306	254	83.0%	294	237	80.6%
2019年度	295	235	79.7%	328	255	77.7%	247	182	73.7%
2020年度	291	82	28.2%	326	98	30.1%	279	112	40.1%
2021年度	292	155	53.1%	326	219	67.2%	259	146	56.4%
2022年度	-	-	0.0%	306	212	69.3%	239	114	47.7%



- ※ 「多目的プラザ」を、2019年3月から、「スタジオ HIKARI」としてリニューアルオープン
- ※ 「紅葉坂ホール」は、2022年度は、改修工事のため休館

(6) 地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）

利用状況 年度	プラザホール			映像ホール			多目的室			創作スタジオ			ワークショップ		
	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用可能日数(日)	利用日数(日)	利用率
2016年度	342	197	57.6%	344	237	68.9%	359	322	89.7%	359	351	97.8%	359	341	95.0%
2017年度	340	220	64.7%	345	258	74.8%	359	327	91.1%	359	351	97.8%	359	335	93.3%
2018年度	340	224	65.9%	345	236	68.4%	359	332	92.5%	359	356	99.2%	359	348	96.9%
2019年度	340	207	60.9%	345	220	63.8%	360	311	86.4%	360	347	96.4%	360	339	94.2%
2020年度	292	72	24.7%	295	143	48.5%	306	187	61.1%	306	274	89.5%	306	244	79.7%
2021年度	350	194	55.4%	351	181	51.6%	359	304	84.7%	359	345	96.1%	359	342	95.3%
2022年度	350	243	69.4%	352	206	58.5%	359	335	93.3%	359	354	98.6%	359	351	97.8%



V 進行管理のための参考指標等

5 過去1年間に美術鑑賞等の文化芸術の鑑賞・活動を行ったことのある人の割合

都道府県	標本数	推定人口	総数	スポーツ観 覧・観戦(テ レビ・ス マートフォ ン・パソコ ンなどは除 く)	美術鑑賞(テ レビ・ス マートフォ ン・パソコ ンなどは除 く)	演芸・演 劇・舞踊鑑 賞(テレビ・ スマート フォン・パ ソコンなど は除く)	映画館での 映画鑑賞	映画館以外 での映画鑑 賞(テレビ・DVD・パ ソコンなど)	コンサート などによる クラシック 音楽鑑賞	コンサート などによる ポピュラー 音楽・歌謡 曲鑑賞
		(千人)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全国	171,360	112,462	86.3	14.5	11.4	6.7	29.8	52.7	3.9	5.9
北海道	5,175	4,614	85.4	15.5	8.8	4.6	23.3	51.7	3.9	5.6
青森県	3,243	1,090	78.6	11.9	8.4	3.2	21.1	43.5	1.9	3.4
岩手県	3,418	1,075	82.9	13.2	8.9	4.5	19.2	45.1	3.8	4.5
宮城県	3,399	2,065	87.0	19.2	9.2	6.4	29.0	51.6	3.8	5.5
秋田県	3,515	849	82.1	15.0	9.0	4.4	21.9	46.6	3.3	3.6
山形県	3,665	944	82.4	13.1	10.9	4.5	27.1	46.2	4.1	4.3
福島県	3,601	1,632	81.5	11.2	9.8	3.5	21.2	46.7	2.5	3.5
茨城県	3,451	2,572	85.3	12.1	8.5	3.8	28.6	50.2	2.9	3.1
栃木県	3,523	1,730	83.9	13.4	7.1	3.9	25.9	47.7	2.7	3.9
群馬県	3,587	1,724	85.2	11.6	8.7	4.2	27.9	51.0	4.0	4.5
埼玉県	6,153	6,622	88.4	14.7	9.4	7.6	32.8	55.6	4.2	6.4
千葉県	4,670	5,670	87.0	13.7	8.7	6.3	31.6	53.8	3.3	6.3
東京都	3,496	12,724	91.4	15.1	17.8	12.6	37.4	62.4	6.2	8.3
神奈川県	5,273	8,344	89.2	15.2	12.3	7.8	34.4	58.8	4.8	7.9
新潟県	3,606	1,955	84.0	13.7	12.5	4.5	26.6	49.1	2.9	5.1
富山県	3,584	922	82.6	14.0	13.1	5.8	30.9	48.0	4.2	4.6
石川県	3,365	997	86.2	12.7	13.4	5.6	30.5	50.1	4.2	5.2
福井県	3,538	677	85.2	12.4	13.8	4.8	31.3	50.8	4.6	5.0
山梨県	3,216	725	83.1	14.5	12.1	5.4	24.9	47.5	4.1	5.3
長野県	3,569	1,824	84.8	14.3	11.7	5.9	26.0	48.2	4.1	5.1
岐阜県	3,764	1,764	84.9	11.0	8.7	5.2	27.3	48.2	2.9	4.2
静岡県	3,822	3,241	85.1	13.1	10.5	5.1	27.5	50.0	3.8	4.5
愛知県	6,028	6,728	89.3	16.0	12.1	6.8	33.5	56.3	3.9	6.7
三重県	3,524	1,574	84.2	12.2	8.4	5.1	27.9	48.9	2.4	5.5
滋賀県	3,445	1,261	86.4	14.1	11.1	5.2	29.1	50.7	3.1	4.3
京都府	2,845	2,311	85.6	15.2	15.4	8.8	30.3	53.1	4.4	7.6
大阪府	4,520	7,913	86.7	14.7	11.7	8.2	33.5	54.0	3.8	7.7
兵庫県	4,512	4,871	85.4	13.9	12.4	6.4	27.6	51.2	4.5	5.9
奈良県	3,305	1,183	86.2	13.3	12.1	6.7	28.3	51.1	3.2	6.1
和歌山県	3,214	816	83.3	11.9	8.1	3.8	25.0	46.3	2.8	3.8
鳥取県	3,444	484	81.7	12.0	12.5	4.4	23.0	44.7	2.8	3.4
島根県	3,420	586	82.5	12.5	9.8	4.6	23.3	44.6	3.2	3.7
岡山県	3,284	1,666	85.0	12.4	11.2	4.3	23.9	48.8	3.6	4.1
広島県	3,406	2,474	85.1	22.9	11.4	5.5	29.9	49.9	3.8	5.3
山口県	3,146	1,177	83.9	12.4	8.7	3.7	22.7	46.4	2.6	3.4
徳島県	3,088	632	80.6	12.1	7.2	4.0	23.3	43.7	2.0	3.0
香川県	3,143	837	82.9	11.5	9.3	4.2	25.5	46.9	3.2	3.8
愛媛県	3,347	1,178	84.3	13.0	8.8	3.9	23.1	48.9	2.2	3.3
高知県	2,837	606	81.7	10.8	9.9	3.5	24.2	47.6	2.2	4.3
福岡県	4,383	4,509	85.8	17.4	11.1	7.1	31.1	52.8	3.5	6.1
佐賀県	3,427	703	82.1	13.6	10.3	5.4	25.7	45.0	3.7	4.4
長崎県	3,096	1,135	79.7	13.0	8.9	3.6	20.9	43.6	2.7	3.5
熊本県	3,420	1,511	84.1	15.3	9.6	5.4	29.6	47.8	2.9	5.1
大分県	3,100	979	82.3	17.1	12.8	5.4	25.2	45.2	3.6	4.4
宮崎県	3,084	928	81.6	13.7	9.7	4.2	20.8	44.3	3.9	3.9
鹿児島県	3,002	1,377	81.0	13.3	8.7	4.0	24.2	45.3	2.6	4.3
沖縄県	2,707	1,263	80.0	14.1	6.4	3.5	22.5	48.4	2.3	2.4

V 進行管理のための参考指標等

都道府県	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	楽器の演奏	邦楽(民謡、日本古来の音楽を含む)	コーラス・声楽	カラオケ	邦舞・おどり	洋舞・社交ダンス	書道	華道	茶道
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全国	53.5	10.2	3.0	1.7	13.5	1.0	1.1	3.4	1.3	0.8
北海道	51.9	9.5	2.7	1.3	14.8	1.0	0.9	3.0	1.0	0.7
青森県	43.4	5.5	2.7	1.0	10.9	1.0	0.7	2.2	1.0	0.5
岩手県	46.0	7.1	2.7	2.1	11.2	1.1	0.7	3.2	1.4	0.9
宮城県	54.1	9.8	2.9	1.5	13.0	0.8	0.7	3.0	0.9	0.5
秋田県	45.1	6.9	2.5	1.3	11.8	1.0	0.6	2.7	1.5	0.9
山形県	45.0	7.5	2.9	1.8	12.5	0.8	0.8	3.5	1.9	1.0
福島県	47.7	7.3	2.7	1.5	11.1	1.0	0.9	2.5	1.1	0.7
茨城県	50.3	8.5	2.4	1.2	12.0	0.6	1.2	3.7	1.2	0.8
栃木県	48.9	8.5	2.1	1.3	12.6	0.6	1.1	2.7	0.9	0.5
群馬県	52.0	8.7	2.4	1.5	13.3	0.9	1.2	3.2	1.2	0.7
埼玉県	56.3	11.2	2.9	1.9	13.0	0.7	1.4	3.9	1.2	0.5
千葉県	55.4	9.9	3.2	1.5	12.5	1.1	1.1	2.8	0.9	0.6
東京都	64.4	14.5	3.5	2.1	16.1	1.5	1.7	3.0	1.0	0.8
神奈川県	59.5	12.1	3.2	2.2	14.0	0.9	1.6	3.4	1.0	0.9
新潟県	48.2	8.0	2.7	1.4	12.1	0.8	1.0	3.7	1.4	0.7
富山県	44.3	8.6	2.2	1.2	11.2	0.9	0.8	3.0	1.5	1.3
石川県	51.0	8.5	2.8	0.9	12.3	0.8	0.6	3.5	2.0	1.2
福井県	49.3	8.8	3.1	1.4	12.7	1.3	0.9	3.5	1.5	1.1
山梨県	47.8	9.6	2.9	1.6	12.3	0.9	0.8	3.9	1.4	0.8
長野県	49.0	9.7	2.3	2.1	14.0	0.8	1.0	3.7	2.0	0.7
岐阜県	48.4	8.5	2.6	1.6	11.8	0.8	0.9	3.9	1.7	1.1
静岡県	50.1	9.7	3.0	1.9	12.8	1.3	1.0	2.8	1.6	0.8
愛知県	57.1	11.2	3.2	1.6	14.9	1.0	1.1	4.1	1.3	0.9
三重県	49.1	8.3	2.5	1.5	12.5	1.2	1.0	3.8	1.4	1.1
滋賀県	52.8	10.3	2.9	1.5	14.1	0.9	0.9	3.8	1.8	0.9
京都府	53.7	11.4	3.3	1.7	13.4	0.9	1.3	3.5	1.7	1.2
大阪府	54.2	10.0	3.4	1.3	14.6	0.8	1.1	3.3	1.2	0.7
兵庫県	52.7	10.1	2.6	1.9	11.7	0.7	0.8	4.0	1.5	0.8
奈良県	51.1	10.4	2.5	1.8	12.9	0.8	0.9	3.9	1.9	1.3
和歌山県	45.8	8.3	2.9	1.1	13.0	0.8	1.2	3.6	1.8	1.0
鳥取県	47.1	9.1	2.1	1.5	12.3	1.2	1.2	3.3	1.5	1.1
島根県	45.4	8.4	2.4	1.5	12.5	1.0	0.6	2.9	2.1	1.2
岡山県	51.2	9.2	2.2	1.6	11.2	0.9	0.8	3.5	1.7	1.1
広島県	51.3	9.0	3.4	1.9	14.4	1.2	0.9	3.6	1.3	1.3
山口県	47.6	9.0	2.4	1.5	12.2	0.6	1.1	3.5	1.7	1.2
徳島県	44.3	7.7	1.5	1.1	9.8	0.8	0.5	3.2	1.5	0.9
香川県	47.6	8.2	2.5	1.7	13.7	1.2	0.8	4.2	1.8	1.0
愛媛県	48.2	7.4	2.1	1.4	14.0	0.7	0.7	2.8	1.3	0.7
高知県	45.7	8.6	2.5	0.9	12.0	1.3	0.7	2.9	1.1	0.6
福岡県	52.5	8.6	3.5	1.4	13.9	1.2	1.6	3.0	1.2	1.1
佐賀県	46.8	7.8	2.8	1.6	12.2	1.0	0.8	4.5	1.3	0.8
長崎県	44.3	7.1	2.2	1.7	12.0	1.2	0.9	3.8	1.1	0.7
熊本県	48.3	8.5	2.0	1.6	14.6	0.9	0.8	3.9	1.2	0.7
大分県	47.5	6.7	2.9	1.1	11.3	0.8	0.6	3.3	1.1	0.6
宮崎県	47.1	8.5	2.7	2.0	12.7	1.1	0.6	3.3	1.4	0.6
鹿児島県	45.7	8.9	2.7	1.6	15.0	1.5	1.0	4.0	1.3	0.5
沖縄県	49.2	10.2	5.5	1.1	13.4	1.1	0.9	3.9	0.7	0.5

V 進行管理のための参考指標等

都道府県	和裁・洋裁	編み物・手芸	趣味としての料理・菓子作り	園芸・庭いじり・ガーデニング	日曜大工	絵画・彫刻の制作	陶芸・工芸	写真の撮影・プリント	詩・和歌・俳句・小説などの創作	趣味としての読書（マンガを除く）
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全国	5.5	8.8	19.0	26.0	11.0	3.4	1.6	21.9	2.2	31.6
北海道	5.9	10.7	18.7	27.0	12.4	3.1	1.3	21.2	1.8	29.4
青森県	4.1	8.3	13.9	24.4	10.3	1.7	0.9	14.6	1.5	22.7
岩手県	5.7	10.5	17.5	28.8	12.9	2.6	1.6	18.2	1.6	25.3
宮城県	5.2	9.2	20.2	27.3	11.4	2.5	1.8	21.5	2.7	33.0
秋田県	5.8	9.6	17.5	26.9	12.7	2.1	1.1	15.9	1.2	24.6
山形県	5.7	9.3	17.1	29.1	11.3	2.6	1.9	17.8	1.9	25.2
福島県	4.3	8.2	16.0	27.6	11.4	2.3	1.4	17.0	2.1	25.2
茨城県	4.8	7.9	18.8	32.2	13.0	3.4	1.4	22.2	1.8	29.3
栃木県	4.7	7.4	16.7	29.4	11.1	2.9	1.7	19.3	1.6	25.8
群馬県	5.0	7.9	17.5	32.8	11.6	3.2	1.7	21.7	2.1	27.5
埼玉県	6.1	9.1	19.4	28.2	11.8	3.5	1.4	23.6	2.0	34.4
千葉県	6.2	9.2	19.3	26.0	10.5	3.4	1.4	22.4	2.4	33.7
東京都	5.9	8.4	21.9	22.3	9.6	4.5	2.1	27.2	3.5	43.4
神奈川県	6.3	9.7	20.6	25.7	10.7	4.0	1.9	26.7	2.5	38.7
新潟県	5.4	8.3	17.5	28.5	10.9	3.1	1.1	19.0	1.9	28.2
富山県	4.3	7.7	16.1	25.1	11.4	2.5	1.1	18.3	1.7	26.3
石川県	4.9	8.1	18.2	25.2	9.8	2.9	1.7	18.1	1.8	28.3
福井県	4.8	7.6	18.4	25.7	11.1	3.0	2.1	19.2	1.8	27.0
山梨県	4.9	9.1	18.8	29.6	11.5	3.9	1.6	19.2	2.8	28.3
長野県	5.3	8.9	20.1	32.3	12.2	3.1	1.7	19.8	2.6	30.3
岐阜県	4.9	7.8	17.8	27.6	12.2	2.9	1.4	18.5	2.0	25.1
静岡県	5.8	9.5	18.5	28.4	10.8	3.7	1.7	21.0	2.2	29.3
愛知県	6.2	8.8	20.1	26.4	10.9	3.5	2.0	23.8	1.6	31.0
三重県	5.3	8.5	18.4	28.4	12.1	3.0	1.7	20.0	1.6	26.8
滋賀県	5.5	9.2	20.1	27.8	13.6	3.9	2.1	21.8	2.1	29.1
京都府	6.1	9.3	19.5	24.8	10.6	4.4	2.0	23.5	3.1	33.4
大阪府	5.2	9.1	19.3	19.5	10.0	3.5	1.4	21.2	1.9	31.8
兵庫県	5.9	9.7	19.2	24.1	11.2	3.7	2.0	21.1	1.9	30.8
奈良県	5.4	9.1	18.6	28.4	10.9	3.8	1.8	21.4	2.0	31.3
和歌山県	5.2	7.6	16.2	28.6	12.0	3.0	1.7	17.8	1.7	23.9
鳥取県	4.9	8.3	18.6	26.0	10.0	3.1	1.0	17.7	1.9	27.1
島根県	4.4	8.7	16.7	28.9	11.8	2.7	1.7	17.1	2.0	27.1
岡山県	5.4	9.5	20.0	30.1	11.4	3.0	1.5	20.0	2.0	27.1
広島県	4.9	8.4	18.3	25.1	12.5	3.5	1.2	21.0	2.1	28.0
山口県	5.6	9.0	16.1	28.3	10.3	3.0	1.3	19.1	1.9	25.8
徳島県	5.2	8.3	17.2	27.6	10.7	2.5	0.9	16.0	1.6	24.4
香川県	4.9	7.9	17.5	27.4	9.9	3.3	1.1	18.0	2.0	27.0
愛媛県	4.1	7.9	17.1	28.7	10.9	2.3	1.0	18.9	2.4	26.3
高知県	4.9	8.1	15.6	26.0	10.3	2.4	1.3	16.9	1.6	24.4
福岡県	5.1	8.2	18.9	23.1	9.3	3.2	1.5	21.2	2.0	29.3
佐賀県	5.4	8.3	17.6	27.6	11.3	3.2	1.3	18.9	1.5	23.9
長崎県	5.0	7.5	15.7	26.1	10.5	2.5	1.2	16.6	1.5	24.1
熊本県	5.4	8.6	17.2	29.2	12.0	3.0	0.8	21.3	1.6	25.8
大分県	4.5	6.8	16.5	26.4	9.3	2.7	1.3	17.5	1.5	25.0
宮崎県	4.9	6.8	16.3	28.1	11.9	3.0	1.4	18.6	1.6	23.9
鹿児島県	5.3	8.7	17.9	28.9	12.5	2.6	1.8	19.6	1.9	26.4
沖縄県	4.2	6.7	16.1	20.2	12.1	2.7	0.8	15.9	1.3	23.9

V 進行管理のための参考指標等

都道府県	マンガを読む	囲碁	将棋	パチンコ	スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム	遊園地、動物園、水族館などの見物	キャンプ	その他
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全国	36.8	0.9	3.0	6.3	42.9	19.0	6.0	3.7
北海道	35.5	0.7	2.7	7.8	44.2	16.3	9.1	3.8
青森県	29.3	0.8	2.2	7.6	34.4	10.7	5.3	2.5
岩手県	31.3	0.9	2.2	8.0	36.9	8.2	3.7	2.8
宮城県	38.9	0.9	2.7	7.5	42.5	17.9	6.2	3.2
秋田県	29.9	0.5	1.4	6.7	33.7	14.6	4.0	3.1
山形県	32.7	0.6	2.2	6.9	35.8	12.6	5.9	2.9
福島県	34.3	0.8	2.6	7.0	37.4	13.0	4.7	2.9
茨城県	34.7	0.8	2.7	6.0	41.2	17.4	4.9	3.6
栃木県	33.0	0.6	2.6	6.2	40.5	18.5	5.2	3.2
群馬県	34.8	1.1	2.6	5.4	40.1	16.5	4.8	2.5
埼玉県	38.8	1.0	3.4	5.5	44.0	18.5	6.3	4.4
千葉県	36.8	1.0	2.9	5.2	43.7	19.1	5.8	3.6
東京都	43.2	1.1	3.6	4.4	48.3	23.7	6.7	5.0
神奈川県	41.2	0.9	3.2	5.2	47.9	24.0	6.8	3.9
新潟県	35.1	1.1	3.1	5.3	38.3	16.7	5.1	4.1
富山県	32.7	0.8	2.5	6.5	36.6	16.6	4.3	3.7
石川県	38.6	0.5	2.8	8.1	42.5	14.7	4.6	3.8
福井県	35.1	0.7	2.9	7.9	39.9	14.8	5.0	3.9
山梨県	32.1	1.0	3.3	5.9	36.8	14.7	6.0	3.0
長野県	34.6	1.1	2.4	5.8	36.9	13.4	5.8	3.3
岐阜県	33.9	0.8	2.0	7.8	41.8	15.5	5.4	3.6
静岡県	36.5	1.0	3.3	6.6	42.8	16.7	5.6	3.7
愛知県	40.2	1.0	3.4	7.9	48.4	25.5	8.9	4.2
三重県	34.6	0.7	3.3	7.9	41.1	15.0	4.7	3.6
滋賀県	37.1	0.4	3.0	5.7	43.9	16.9	7.3	3.7
京都府	37.2	1.0	3.2	4.7	43.2	23.9	5.8	3.3
大阪府	38.2	0.9	3.4	8.0	45.7	22.1	5.5	3.7
兵庫県	34.8	1.1	3.0	5.1	41.9	19.0	5.4	3.2
奈良県	32.9	1.0	2.8	4.6	42.4	18.0	5.7	3.4
和歌山県	30.9	0.8	2.3	7.4	37.7	16.3	5.2	3.3
鳥取県	30.8	1.0	3.1	6.8	34.2	10.5	4.2	3.3
島根県	32.3	1.0	3.3	7.6	35.6	12.2	3.6	2.8
岡山県	33.5	1.1	3.4	5.9	39.8	15.0	5.6	3.3
広島県	34.9	0.7	2.5	6.8	41.1	16.3	6.8	3.3
山口県	31.8	0.9	2.1	6.7	37.6	16.1	4.3	3.2
徳島県	32.1	0.7	3.3	5.3	37.3	12.2	4.1	2.9
香川県	33.6	1.0	3.8	6.5	39.6	17.6	4.7	2.8
愛媛県	34.4	0.6	2.6	6.8	39.4	13.2	3.8	2.8
高知県	32.5	1.0	2.8	7.7	37.2	18.1	6.5	2.9
福岡県	36.6	1.1	2.4	6.6	42.5	19.5	6.0	4.2
佐賀県	31.7	0.7	2.8	8.6	36.8	16.4	5.4	3.0
長崎県	29.7	1.3	3.0	7.3	34.9	13.0	3.3	2.7
熊本県	33.1	0.8	2.6	8.2	38.2	17.1	6.5	2.9
大分県	30.9	1.0	2.8	7.4	36.0	16.4	4.7	2.3
宮崎県	29.5	0.8	2.2	8.4	35.9	13.4	5.3	2.5
鹿児島県	31.7	0.7	2.7	8.6	35.2	16.0	6.6	2.4
沖縄県	33.0	0.8	2.1	3.6	36.5	13.7	4.1	2.1

「令和3年『社会生活基本調査』都道府県、趣味・娯楽の種類別行動者率（10歳以上）」

のデータを加工して作成

令和3年 社会生活基本調査 調査対象 全国約9万1千世帯の10歳以上の世帯員（第1次抽出単位を国勢調査調査区とし、第2次抽出単位を世帯とする層化2段抽出法）
 調査期日 令和3年10月20日（5年ごと）
 調査方法 調査員による調査票の配布及び収集

VI 年次報告のまとめ（文化芸術振興審議会意見）

県の文化芸術振興の総合的な目標等を定めた「かながわ文化芸術振興計画（計画期間：2019年度～2023年度）」において、「重点施策」及び「基本的な施策」に位置付けた各事業の実施状況を取りまとめたものとして、2023年8月29日開催の第34回審議会において、県から報告を受けたところである。

当審議会として報告を受けた内容について審査を行い、課題等について、次のとおり意見を述べ、この年次報告のまとめとする。

・ あらゆる人の文化芸術活動等の充実について

重点施策2としての取組であるが、高齢者に向けた取組が多く感じられてしまう。次期計画において、子ども・若者に注目した重点施策を設定する流れも踏まえ、更なる内容の充実を期待したい。また、子どもに向けた事業や高齢者に向けた事業をうまく掛け合わせ、世代間交流の推進が今後の課題であると考えます。

・ 文化芸術に関する交流の推進について

主に重点施策3に関わるものとして捉えられているが、重点施策5にも関わることである。改めて文化の地域間交流、国際交流ともに意識した取組を展開する必要がある。

・ 重点施策に直接位置付けられてない事業について

文学、美術の分野の事業については、重点施策の取組に直接位置付けていないものがあることから、取組内容が弱く受け取られてしまうきらいがある。文学に関しては、神奈川近代文学館を中心とした取組があり、美術に関しては、MULPA（マルパ）というアートプロジェクトに県の美術館も参画して取り組んでいるので、重点施策に直接位置付けられていない事業について、もっとアピールされるよう期待したい。

・ 新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染症による影響が和らいできた中で、再び多くの事業を実施してきたことが読み取れるが、コロナ禍が終わったとも言い切れない状況である。現行計画中は、コロナ対応における緊急支援等、イレギュラーな対応があったが、このことが、文化芸術をとりまく社会状況への対応に生かされることを期待したい。